

土地改良区体制強化事業実施要領

平成28年4月1日付け27農振第2430号
(最終改正 令和5年3月31日付け4農振第2859号)

地方農政局長
内閣府沖縄総合事務局長
国土交通省北海道開発局長
北海道知事
全国土地改良事業団体連合会会長
株式会社日本政策金融公庫代表取締役総裁
沖縄振興開発金融公庫理事長

殿

農林水産省農村振興局長

第1 趣旨

本事業の実施については、土地改良区体制強化事業実施要綱（平成28年4月1日付け27農振第2429号農林水産事務次官依命通知。以下「要綱」という。）に定めるもののほか、この要領に定めるところによるものとする。

第2 施設・財務管理強化対策

都道府県土地改良事業団体連合会（以下「地方連合会」という。）が行う施設・財務管理強化対策は以下のとおりとする。

1 管理運営体制強化委員会の設置等

(1) 要綱第3の1の(1)により設置する管理運営体制強化委員会の構成は、おおむね次によるものとする。

ただし、要綱第3の3に掲げる事業を実施しない場合はウ及びオについて、要綱第3の4の(4)に掲げる事業を実施しない場合はカについて、除くことができるものとする。

なお、イの職員のうち1名は、原則として土地改良施設に関する専門的知識を有する者とする。

ア 国の職員	1名
イ 都道府県の職員	2名
ウ 市町村の職員	2名
エ 地方連合会の役職員	2名
オ 土地改良区の役職員	3名
カ 株式会社日本政策金融公庫（沖縄県にあっては沖縄振興開発金融公庫。以下同じ。）の職員	1名
キ 学識経験者その他必要な者	若干名

- (2) 管理運営体制強化委員会は、要綱第3の1の(2)の検討を行うに当たっては、土地改良区が策定している体制強化に関する計画（以下「体制強化計画」という。）を考慮するものとする。

2 土地改良施設の診断・管理指導

要綱第3の2の土地改良施設の診断・管理指導は、管理運営体制強化委員会の検討結果を基に、土地改良施設の診断・管理指導の業務実施計画を作成の上、おおむね次により実施するものとする。

(1) 管理専門指導員の配置

地方連合会は、土地改良施設の診断・管理指導を実施する場合は、次により管理専門指導員を配置するものとする。

ア 土地改良施設の診断・管理指導に対し専任的に従事する常勤の管理専門指導員の配置

イ 必要に応じ、委嘱による臨時的管理専門指導員の配置

(2) 定期的に実施する土地改良施設の診断・管理指導

定期的に実施する土地改良施設の診断・管理指導（以下「定期診断指導」という。）の対象施設は、ダム（ため池を含む。）、頭首工、揚水機場その他の農業水利施設であって、都道府県内の土地改良施設の数及び地方連合会の執行体制等を勘案の上、地方連合会が定めるものとする。

(3) 土地改良区等からの要請に基づいて随時に実施する土地改良施設の診断・管理指導

土地改良区等からの要請に基づいて随時に実施する土地改良施設の診断・管理指導（以下「要請診断指導」という。）の対象施設は、(2)の定期診断指導の対象施設以外であって、土地改良区等から特に診断・管理指導の要請があった土地改良施設とする。

(4) 地方連合会における土地改良施設の診断・管理指導の業務実施計画の策定

地方連合会は、業務の効率的な実施を図るため、毎年度業務実施計画を策定するものとする。

ア 定期診断指導対象施設調書の作成

地方連合会は、業務実施計画における定期診断指導の計画策定上の基礎資料として、土地改良区等からの申告及び自らの調査を基に、別紙様式第1号の例に準じ、定期診断指導対象施設調書を策定するものとする。

イ 業務実施計画の策定

土地改良施設診断・管理指導の業務実施計画には、少なくとも次の事項を定めるものとする。

(ア) 定期診断指導については、その対象とする土地改良施設の種目及び当該診断・管理指導の時期

(イ) 要請診断指導については、当該診断・管理指導は土地改良区等から別紙様式第2号の例により書面で要請のあったものについて速やかに行う旨及び当該診断・管理指導の対象施設の種目等の範囲を限る場合にあっては、その範囲

(5) 地方連合会及び管理専門指導員の業務

地方連合会及び管理専門指導員は、おおむね次により土地改良施設の診断・管理指導等を行うものとする。

ア 管理専門指導員は、定期診断指導の対象施設について、業務実施計画に定められたところに従い、診断・管理指導を行うものとする。

イ 地方連合会は、アにより診断・管理指導を行うに当たっては、あらかじめ診断

・管理指導の期日を土地改良区等に通知し、その診断・管理指導に際しては、相手方の管理担当者を立ち合わせるものとする。

ウ 管理専門指導員は、診断を了した場合には、別紙様式第3号の例及び別添によりその診断結果調書を2部作成し、1部を該当する土地改良区等に交付するとともに、必要な助言・管理指導を行うものとする。

エ 地方連合会及び管理専門指導員は、要請診断指導の対象施設について土地改良区等から診断・管理指導の申込があったときは、定期診断指導に支障のない限り、これに応ずるものとし、上記ア、イ及びウに準じて診断・管理指導を行うものとする。

3 土地改良施設の管理等に関する苦情・紛争等の対策

要綱第3の3の土地改良施設の管理等に関する苦情・紛争等の対策は、おおむね次により実施するものとする。

(1) 相談等実施計画の策定

地方連合会は、おおむね次に掲げる事項を相談等実施計画に定めるものとする。

ア 土地改良事業に関する苦情・紛争等対策の実施に係る基本方針

イ 相談指導員及びその担当部門

ウ 業務の範囲及び定期相談日

エ その他必要な事項

(2) 土地改良相談業務事業の実施

地方連合会は、おおむね次により土地改良相談業務を実施するものとする。

ア 地方連合会は、定期相談日として、毎月1日以上の一定の相談日を設け対応するものとする。

イ 相談の依頼人は、原則として、別紙様式第4号の例によりあらかじめ地方連合会に申し込むものとする。

ウ イの申込みがあったときは、要綱第3の3の(1)の相談指導員がこれを処理するものとする。

なお、相談指導員は必要に応じて現地指導を行うものとする。

(3) 苦情・紛争対策専門家の委嘱

地方連合会は、(2)による土地改良相談業務事業のほか、近年の複雑化・高度化する相談等に的確に対応するため、弁護士及び公認会計士等に相談業務を委嘱することができるものとする。

4 財務管理強化に関する指導等

要綱第3の4の財務管理強化に関する指導等は、おおむね次により実施するものとし、実施に際しては地方農政局（沖縄県にあっては内閣府沖縄総合事務局）、都道府県及び株式会社日本政策金融公庫の支援を得るなど、効果的な実施を図るものとする。

(1) 複式簿記会計に関する巡回指導

ア 地方連合会は、土地改良区等の複式簿記会計の有効活用に関する意向や地方連合会の指導体制等を考慮して、1の管理運営体制強化委員会において、土地改良区等に対する複式簿記会計指導計画を策定するものとする。

イ 地方連合会は、アの複式簿記会計指導計画に基づき、年に複数回指導（オンライン等による指導を含む。）を行うものとする。なお、当該指導内容については複式簿記会計巡回指導概要（別紙様式第5号）に記録するものとする。

ウ 複式簿記会計に関する巡回指導に要する経費については、1土地改良区又は1土地改良区連合当たり年間8万円を上限単価として助成するものとする。

(2) 財務管理強化相談業務

ア 地方連合会は、財務管理強化相談窓口を設置し、電話・電子メール等による土地改良区等からの相談に対応できる体制を整えるものとする。

なお、当該相談業務の実施に当たっては、必要に応じて、会計指導員と連携して対応するものとし、当該業務内容については財務管理強化相談処理概要（別紙様式第6号）に記録するものとする。

イ 地方連合会は、財務管理強化相談業務に係る情報を広報誌等に掲載するなど、広く周知に努めるものとする。

（3）会計の専門家の配置

ア 要綱第3の4の（3）により地方連合会に配置する会計の専門家は、公認会計士、監査法人、税理士又は税理士法人とする。

イ 会計の専門家の配置に要する経費については、1 地方連合会当たり年間55万円を上限単価として助成するものとする。

（4）非補助土地改良事業推進支援

ア 非補助土地改良事業推進計画の策定

（ア）要綱第3の4の（4）のアの非補助土地改良事業推進計画の策定に当たっては、1 の管理運営体制強化委員会により、次に掲げる事項について検討を行うものとする。

- a 非補助土地改良事業における資金需要の動向及び要因分析
- b 管内における非補助農業基盤整備資金の融資目標額
- c 融資目標を達成するために実施する推進指導活動の方針等

（イ）地方連合会は、（ア）の検討結果を非補助土地改良事業推進計画書（別紙様式第7号）に取りまとめ、速やかに地方農政局長（北海道にあつては農林水産省農村振興局長（以下「農村振興局長」という。）、沖縄県にあつては内閣府沖縄総合事務局長。以下同じ。）に提出するものとする。

（ウ）地方農政局長は、管内地方連合会への指導方針を非補助土地改良事業推進指導概要書（別紙様式第8号）に取りまとめ、地方連合会から提出された別紙様式第7号の写しを添付の上、速やかに農村振興局長に提出するものとする。

イ 推進指導活動の実施

（ア）現地における推進指導については、非補助土地改良事業との一体的な実施による事業効果の早期発現の観点から、原則として国営土地改良事業地区及び都道府県営土地改良事業地区に所在する土地改良区の中から抽出の上、行うものとする。

（イ）地方連合会は、非補助土地改良事業に係る情報を広報誌等に掲載するなど、広く周知に努めるものとする。

5 土地改良区再編促進モデル事業

要綱第3の5の土地改良区再編促進モデル事業は、地方連合会が中心的役割を担うものとし、おおむね次により実施するものとする。

（1）事務連合早期設立支援モデル構築

ア 地方連合会は、会計事務を共同で行う土地改良区連合（以下「事務連合」という。）の設立に専任的に従事するコーディネーターを配置するものとする。

イ コーディネーターは事務連合の早期設立に向け、次の業務を行うものとする。

（ア）土地改良区における調整

対象土地改良区における事務連合設立に向けた意識の醸成、意思確認等

（イ）事務連合における諸規程等の調製

事務連合において定める事業実施計画案の策定、定款、規約等諸規程案の調製等

(ウ) 事務連合設立認可に向けた調整

関係土地改良区における総（代）会議案書の作成、事務連合設立認可申請書の作成及び都道府県知事への設立認可申請等

(エ) その他事務連合設立に必要な事項

(2) 市町村単位での合併モデル構築

ア 地方連合会は、土地改良区の合併に向けた合意形成を図るため、合併推進協議会（以下「合併協議会」という。）を設置するものとする。

イ 合併協議会は、地区の実情を勘案し、次により構成するものとする。

(ア) 国の職員 2名

(イ) 都道府県の職員 2名

(ウ) 関係市町村の職員 2名

(エ) 地方連合会の役職員 2名

(オ) 関係土地改良区の役職員 1 土地改良区当たり 2名

(カ) 学識経験者その他必要な者 若干名

ウ 合併協議会は、次の順序及び検討事項等により開催するものとする。

(ア) 第1年度 1回目 合併推進の体制構築・進め方、地域実態調査の方法等の検討

2回目 地域実態調査結果の検討及び合併推進上の課題の検討

(イ) 第2年度 1回目 合併推進上の課題及び処理方針の検討

2回目 合併推進計画の検討

エ 地方連合会は関係土地改良区と協力し、合併推進上の問題点を把握するため、次の事項について、地域実態調査等を実施するものとする。

(ア) 組織運営体制の実態調査

賦課基準、資産関係、市町村等からの助成状況の調査等

(イ) 施設管理体制の実態調査

施設の管理、農業集落組織の現状、農外利用の状況の調査等

(ウ) その他必要な調査等

組合員等の意識、要望等に関する調査、合併の必要性、メリット等の啓発普及等

オ 市町村単位での合併モデル構築に要する経費については、1 合併協議会当たり年間200万円を上限単価として助成するものとする。

(3) 実施期間

(1) の事務連合早期設立モデル構築については原則として1年間、(2) の市町村単位での合併モデル構築については原則として2年間で実施するものとする。

(4) 助成

助成対象となる経費は、次に掲げるものとする。

ア 賃金

イ 報償費

ウ 旅費

エ 需用費

オ 役務費

カ 使用料及び賃借料

キ 備品購入費

ク 給料、職員手当等

ケ 共済費

第3 受益農地管理強化対策

1 公募団体が行う受益農地管理強化対策

農村振興局長が別に定める公募要領に基づき選定された団体（以下「公募団体」という。）が行う要綱第4の1の受益農地管理強化対策は、おおむね次のとおり行うものとする。

（1）財産管理制度等活用推進委員会の設置

ア 公募団体は、国及び地方公共団体の職員、公募団体、地方連合会及び土地改良区の役職員並びに学識経験者その他必要な者をもって構成する財産管理制度等活用推進委員会（以下「推進委員会」という。）を設置するものとする。

イ 推進委員会は、（2）により実施する調査の項目、（3）により作成する財産管理制度等活用マニュアルの内容及び（4）により実施する普及・啓発の検討を行うものとする。

（2）財産管理制度等活用実態調査

所有者不明農地等が存在することにより換地業務又は土地改良事業の実施に支障が生じている地区等を対象に、おおむね次の事項について調査を行うものとする。

ア 所有者不明農地等が存在することにより生じている支障の内容

イ 財産管理制度等の活用上の課題と対応方策

ウ 財産管理制度等を活用して土地の所有者を特定した事例

エ 財産管理制度等以外の手法で換地処分の促進が図られた事例

（3）財産管理制度等活用マニュアルの作成

（2）の調査結果を基に、財産管理制度等の活用に資するマニュアル（以下「マニュアル」という。）を作成するものとする。

（4）財産管理制度等の普及・啓発指導

（3）により作成したマニュアルを活用し、財産管理制度等の普及・啓発を行うとともに、必要に応じて、地方農政局等のブロック単位に、土地改良区の役職員等を対象に財産管理制度等の説明会を行うものとする（Web会議など対面形式以外の形式で開催することができることとする。）。また、地方連合会が行う財産管理制度等の活用に関する指導について、地方連合会からの要請に応じて助言等を行うものとする。

2 地方連合会が行う受益農地管理強化対策

要綱第4の2の地方連合会が行う受益農地管理強化対策は、おおむね次のとおり行うものとする。

（1）受益農地管理強化委員会の設置等

ア 要綱第4の2の（1）のアにより設置する受益農地管理強化委員会（以下「管理強化委員会」という。）の構成は、おおむね次によるものとする。

（ア）国（地方農政局、地方法務局等）の職員 2名

（イ）都道府県の職員 1名

（ウ）地方連合会の役職員 2名

（エ）地元団体（市町村、土地改良区等）の役職員 3名

（オ）土地改良換地士 1名

（カ）司法書士又は弁護士 1名

（キ）学識経験者その他必要な者 若干名

イ 管理強化委員会は、要綱第4の2の（1）のイの検討を行うに当たっては、土地改良区が策定している体制強化計画を考慮するものとする。

（2）換地選定に関する指導

要綱第4の2の（2）の換地選定に関する指導は、換地事務の技術的指導及び助

言を行う地方連合会の職員（以下「換地専門指導員」という。）により、おおむね次により行うものとする。

ア 換地選定が未実施の地区について、市町村、土地改良区等の役職員及び換地委員に対して、当該地区の現地での基礎調査、換地設計基準の作成及び換地選定の指導を行うものとする。

イ アの地区のうち、換地選定について特に指導の必要性が認められる地区を重点指導地区に指定し、計画的に巡回指導を行うものとする。なお、沖縄県における巡回指導については、当分の間、換地専門指導員によりアの地区を重点指導地区に指定し、計画的に行うものとする。

（３）換地処分未了地区等の解消に関する指導

要綱第４の２の（３）の換地処分未了地区等の解消に関する指導は、おおむね次により行うものとする。

ア 換地処分未了地区等指導台帳の作成

地方連合会の調査又は土地改良事業の実施主体からの申出等に基づき、事業完了予定年度を越えているにもかかわらず換地処分が行われていない地区又はそのおそれのある地区（以下「換地処分未了地区等」という。）の状況を把握し、概要等を整理した台帳（別紙様式第９号）を作成するものとする。

イ 換地処分未了地区等に対する指導方針の策定及び指導等

（ア）管理強化委員会において換地処分未了地区等の解消方法を検討し、指導方針を策定するものとする。なお、高度化、複雑化している案件は、必要に応じて要綱第６の１の（４）の事業を行う公募団体に助言等を求めることができるものとする。

（イ）換地専門指導員は、管理強化委員会における指導計画等に基づき、当該地区に対する指導を行い、その結果を管理強化委員会に報告するものとする。

（４）財産管理制度等の活用に関する指導

要綱第４の２の（４）の財産管理制度等の活用に関する指導は、おおむね次により行うものとする。なお、必要に応じて、要綱第４の１の事業を行う公募団体に助言等を求めることができるものとする。

ア 制度の普及・啓発

換地専門指導員は、第３の２の（３）における換地処分未了地区等又は土地改良事業の実施地区のうち、財産管理制度等を活用することにより換地業務又は土地改良事業の促進を図ることが可能となる地区等に対して、財産管理制度等の普及・啓発を行うものとする。

イ 指導方針の策定

管理強化委員会において、財産管理制度等の活用が有効とされる地区等について、所有者不明農地等の数、態様及び権利者会議の実施時期等を勘案した上で、制度活用に向けた指導方針を策定するものとする。

ウ 制度活用指導

換地専門指導員は、管理強化委員会における指導方針に基づき、財産管理制度等を活用しようとする地区について、制度の手続に必要となる書類の作成に関する助言・指導を行うものとする。また、必要に応じて、財産管理人となる候補者のあっせん又は仲介等を行うものとする。

（５）交換分合等による農用地の利用集積に関する指導

要綱第４の２の（５）の交換分合等による農用地の利用集積に関する指導は、おおむね次により行うものとする。

ア 交換分合推進対策

要綱第4の2の(5)のアの助言・指導は次の事項について行うものとする。
なお、地方連合会は、これらの助言・指導について、都道府県知事が適当と認めた者にその一部を行わせることができるものとする。

- (ア) 交換分合計画書及び交換分合登記申請書の作成に関すること。
- (イ) 交換分合計画に係る土地の評価及び清算に関すること。
- (ウ) 利用権（農業経営基盤強化促進法（昭和55年法律第65号）第4条第3項第1号に規定されるもの。）が設定された土地における貸し手・借り手間の調整に関すること。
- (エ) 耕作の目的に供されていない又はそれが見込まれる農用地の処理対策等に関すること。
- (オ) 新たに交換分合の実施を予定する地区に対する制度啓発に関すること。
- (カ) その他交換分合の実施に関すること。

イ 農用地利用集積推進対策

- (ア) 農用地利用集積推進対策会議の構成

要綱第4の2の(5)のイの(ア)により設置する農用地利用集積推進対策会議（以下「利用集積推進会議」という。）の構成はおおむね次によるものとする。

- a 都道府県の職員
- b 市町村の職員
- c 都道府県農業委員会ネットワーク機構（農業委員会等に関する法律（昭和26年法律第88号）第42条第1項の規定による都道府県知事の指定を受けた農業委員会ネットワーク機構をいう。）の役職員
- d 農地中間管理機構（農地中間管理事業の推進に関する法律（平成25年法律第101号）第4条の規定に基づき指定されるものをいう。）の役職員
- e 地元団体（土地改良区等）の役職員
- f 地方連合会の役職員
- g 学識経験者その他必要な者

- (イ) 利用集積を推進すべき地区の選定

- a 農用地利用集積推進対策の対象地区は、農地整備等基盤整備事業の完了地区であって利用集積を予定している又はその必要性の高い地区とするものとする。
- b 利用集積推進会議は、地方連合会が実施する実態把握調査等の結果を基に、利用集積を推進すべき地区（以下「推進地区」という。）を選定するものとする。

- (ウ) 地方連合会による技術的指導等

- a 換地専門指導員は、推進地区の利用集積の状況及び利用集積を推進する上で課題となっている事項等について、関係土地改良区及び関係農家等から聴き取り調査を行い、利用集積推進会議に提出するものとする。
- b 利用集積推進会議は、利用集積を推進する上で課題となっている事項等について、その解決策の検討及び整理を行い、推進地区の指導方針を策定するものとする。
- c 換地専門指導員は、利用集積推進会議で策定された指導方針に基づき、推進地区に係る土地改良区等と協議・調整を図りつつ、当該土地改良区等が行う土地利用調整活動に対して技術的指導及び助言を行うものとする。

- (エ) 指導結果の報告等

- a 地方連合会は、（ウ）のcの推進地区に対する換地専門指導員の指導結果を利用集積推進会議に報告するものとする。
 - b 利用集積推進会議は、報告された指導結果を検証し、今後の指導方針の再検討等を行うとともに、報告された事例の整理を行い、利用集積の推進に関する情報として土地改良区等に提供するものとする。
- （オ）推進地区調書の作成

地方連合会は、推進地区に関する地区調書（別紙様式第10号）を作成し、推進地区における土地利用調整の推進に活用するものとする。
- 3 土地改良区が行う受益農地管理強化対策

要綱第4の3の土地改良区が行う受益農地管理強化対策は、おおむね次のとおり行うものとする。なお、必要に応じて、地方連合会に助言等を求めることができるものとする。

 - （1）所在等不明共有者の持分の取得又は譲渡を活用する場合
 - ア 所在等不明共有者であることを証明するために必要な調査
 - イ 当該制度の活用にあたっての他の共有者との各種調整
 - ウ その他当該制度の活用にあたり必要な調査・調整
 - （2）所有者不明土地管理制度を活用する場合
 - ア 所有者不明土地であることを証明するために必要な調査
 - イ 地方裁判所への所有者不明土地管理人の選任の申立て及びこれを行うにあたり必要な各種事前調整
 - ウ 選任された所有者不明土地管理人との各種調整
 - エ その他当該制度の活用にあたり必要な調査・調整

第4 統合整備強化対策

- 1 土地改良区、市町村又は地方連合会（市町村又は地方連合会は（3）に限る。）が行う統合再編整備事業
 - （1）統合整備
 - ア 統合整備実施地区の承認
 - （ア）統合整備を実施しようとする土地改良区等が要綱第5の1の（1）のウの（イ）のbの（a）による承認申請を行うときは、別紙様式第11号の申請書によるものとする。
 - （イ）都道府県知事は、要綱第5の1の（1）のウの（イ）のbの（b）による地方農政局長との協議にあたっては、（ア）の申請書の写しに次の内容を記載した意見書を添付するものとする。
 - a 統合整備の必要性（統合整備基本計画等の位置付け等）
 - b 組織運営の現状と計画見通し
 - c その他特記すべき事項
 - イ 統合整備協議会の構成等
 - （ア）要綱第5の1の（1）のウの（ア）の統合整備協議会（以下「協議会」という。）は、地区の実情を勘案し、おおむね次により構成するものとする。

a 都道府県の職員	若干名
b 関係市町村の職員	1 市町村当たり 1 名
c 関係農業団体の役職員	若干名
d 関係土地改良区等の役職員	1 土地改良区等当たり 3 名
e その他学識経験者及び債権者等	若干名
 - （イ）協議会は、地区の実情に応じて要綱第5の1の（1）のウの（イ）のbの

(a) の承認を受けた土地改良区等が適宜開催するものとし、おおむね次の順序及び協議事項等により開催し、関係土地改良区等が共同して樹立する統合整備計画について積極的な検討と指導を行うものとする。

a I型地区及びII型地区

- | | | |
|----------|-----|--------------------------------------|
| (a) 第1年度 | 1回目 | 統合整備推進上の問題点の把握及び処理方針の検討 |
| | 2回目 | 同上 |
| | 3回目 | 統合整備計画の策定方針の検討 |
| | 4回目 | 関係土地改良区等による統合整備計画の概要案の提示 |
| (b) 第2年度 | 1回目 | 統合整備計画の概要案の検討 |
| | 2回目 | 同上 |
| | 3回目 | 統合整備計画の概要案に対する市町村、関係農業団体の意見の提示及びその調整 |
| | 4回目 | 同上 |
| (c) 第3年度 | 1回目 | 統合整備計画の概要案の最終取りまとめ |
| | 2回目 | 統合整備計画の概要案の細部討議及び調整 |
| | 3回目 | 同上 |
| | 4回目 | 統合整備計画の最終調整 |

b III型地区

- | | | |
|----------|-----|--------------------------------------|
| (a) 第1年度 | 1回目 | 統合整備計画の策定方針の検討 |
| | 2回目 | 関係土地改良区等による統合整備計画の概要案の提示 |
| | 3回目 | 統合整備計画の概要案に対する市町村、関係農業団体の意見の提示及びその調整 |
| | 4回目 | 同上 |
| (b) 第2年度 | 1回目 | 統合整備計画の概要案の取りまとめ |
| | 2回目 | 統合整備計画の概要案の細部討議及び調整 |
| | 3回目 | 同上 |
| | 4回目 | 統合整備計画の最終調整 |

ウ 統合整備計画の樹立

(ア) 関係土地改良区等は、都道府県知事の指導の下に、地区の実態を十分に調査の上、関係市町村及び関係農業団体と調整を図りつつ統合整備計画を樹立するものとする。

(イ) 統合整備計画の樹立に係る調査の実施

(ア) の統合整備計画を樹立するために行う実態調査は、おおむね次によるものとする。

a 賦課基準調査

関係土地改良区別の賦課基準の設定条件及びその基準と受益関係の照応状況

b 資産関係調査

関係土地改良区別の資産（土地改良施設を除く。）の種類、数量、位置、使用状況並びに評価額及びその基準

c 市町村等からの助成状況等調査

市町村、農業協同組合等からの工事費、維持管理費、経常経費等に対する助成金の内容

d 施設管理調査

- (a) 土地改良施設の種類、構造、機能、規模及び設置箇所
- (b) 管理状況及び管理経費
- e 農業集落組織調査
 - (a) 農業集落組織の現状
 - (b) 農業集落組織による管理施設の種類、構造、規模及び管理内容
- f 末端施設管理調査
 - 末端施設の管理状況及び費用負担
- g 農外利用調査
 - (a) 他目的使用に係る施設の種類、構造、規模及び設置箇所
 - (b) 他目的使用に係る施設の使用条件及び他目的使用料の徴収状況
 - (c) 他目的使用の形態別明細、施設の分布状況、その他管理経費
- h その他調査
 - 組合員、市町村、農業団体等の意識及び要望等に関する調査
- (ウ) I型地区及びII型地区における統合整備計画
 - a I型地区及びII型地区における統合整備計画には、次の事項を定めるものとする。
 - (a) 統合整備に関する基本的事項
 - ① 合併又は土地改良区連合の設立（所属土地改良区の数増加を含む。以下同じ。）の方法、時期その他当該合併又は土地改良区連合の設立の推進に関する事項
 - ② 定款及び諸規程類の調整に関する事項
 - ③ 経費の賦課基準の調整に関する事項
 - ④ 役員の定数に関する事項
 - ⑤ 組織及び運営に関する事項
 - ⑥ 借入金の償還に関する事項
 - ⑦ 財産の調整に関する事項
 - ⑧ その他必要な事項
 - (b) 土地改良施設の維持管理に関する事項（施設管理の再編計画、施設の年次別整備計画（5か年程度）等）
 - (c) 合併後の土地改良区の事業計画等又は土地改良区連合の事業の実施に関する計画等に関する事項
 - ① 土地改良事業の実施に関する事項（土地改良事業の内容、実施地域、規模、実施主体、実施時期等）
 - ② 土地改良区連合において土地改良事業以外の事業又は事務を実施する場合は、当該事業又は事務に関する事項（事業又は事務の内容、実施の方法、実施時期等）
 - ③ 土地改良施設の利活用等に関する事項（利活用の可能性、利活用する施設とその管理運営方法、内容及び実施方法、市町村への移管計画、特定受益者負担の計画等）
 - ④ その他土地改良区の活性化を図るために必要な事項
 - b I型地区及びII型地区における統合整備計画には、aに定める事項のほか、土地改良区の実態に応じ次に掲げる事項等必要な事項を定めることができるものとする。
 - (a) 地区内の水田転作の実施と土地改良区の運営との調整に関する事項（土地改良施設の管理方法、賦課基準の調整方法、市町村との調整方法等）
 - (b) 市町村の農業振興地域整備計画その他の農業関係計画と地区内の土地改

良事業との調整に関する事項（調整体制の整備、連携強化の方法等）

(エ) Ⅲ型地区における統合整備計画

a Ⅲ型地区における統合整備計画には、次の事項を定めるものとする。

(a) 合併又は土地改良区連合の設立の場合

(ウ) の a の (a) 及び (b) に掲げる事項

(b) 合同事務所の設置の場合

① 合同事務所の設置の方法、時期その他当該合同事務所の設置の推進に関する事項

② 合同事務所の組織及び運営に関する事項

③ 財産の調整に関する事項

④ その他必要な事項

b Ⅲ型地区における統合整備計画には、a の事項のほか、次に掲げる事項のうち必要なものを定めることができるものとする。

(a) 地区内の土地改良事業の実施に関する事項

(b) 土地改良施設の利活用等に関する事項

(c) 地区内の水田転作の実施と土地改良区の運営との調整に関する事項

(d) 市町村の農業振興地域整備計画その他の農業関係計画と地区内の土地改良事業との調整に関する事項

(e) その他土地改良区の活性化を図るために必要な事項

エ 附帯施設整備

統合整備を実施する土地改良区等は、統合整備の実施に伴い必要となる次の附帯施設整備を行うことができるものとする。

(ア) 水管理等施設整備（合同事務所の設置の場合を除く。）

土地改良区等の施設管理水準の向上のための整備補修、維持管理の効率化・省力化に資する施設改善及び事故等の未然防止を図る安全施設の設置に係るもので、これに要する経費が2,500万円以下（Ⅲ型地区にあっては、200万円以下）のものとする。

(イ) 業務運営合理化施設整備

土地改良区等の業務運営及び会計・経理体制の整備等を図るために必要となる別表1に掲げる事務機器等の整備に係るもので、これに要する経費が次に掲げる金額以下のものとする。

a I型地区の合併又は土地改良区連合の設立 300万円

b II型地区の合併又は土地改良区連合の設立 100万円

c III型地区の合併又は土地改良区連合の設立 70万円

d III型地区の合同事務所の設置 25.8万円

(ウ) 管理施設情報電子化整備（合同事務所の設置の場合を除く。）

合併後又は土地改良区連合の設立後の土地改良施設の効率的な管理を行うために必要となる当該施設に関する図面その他の情報の電子媒体への変換又は当該情報に関するデータベースの作成及び電子化され、又はデータベース化された情報と地図情報とが一体となった管理情報システムの整備に係るもので、これに要する経費が1,000万円以下のものとする。

オ 実施期間

I型地区及びII型地区の統合整備は原則として3年間、III型地区の統合整備は原則として2年間で実施するものとする。また、附帯施設整備については、原則としてイの統合整備計画を樹立した年度の翌々年度までに限り実施することができるものとする。ただし、毎年度予算の範囲内で補助していることにより、これ

により難い場合は、この限りではない。

カ 成果の活用

都道府県知事は、協議会による統合整備の推進状況及び統合整備実施の成果を広報するとともに、統合整備を必要とする他の地域の啓発及び指導に際し、その成果の活用を図るものとする。

(2) 管理再編整備

ア 管理再編整備実施地区の承認

(ア) 要綱第5の1の(2)のアの管理再編整備を実施しようとする土地改良区が要綱第5の1の(2)のイによる承認申請を行うときは、別紙様式第12号の申請書によるものとする。

(イ) 都道府県知事は、要綱第5の1の(2)のウによる地方農政局長との協議に当たっては、(ア)の申請書の写しに次の内容を記載した意見書を添付するものとする。

- a 管理再編整備の必要性
- b 施設管理、集落管理組織の現状及び見通し
- c その他特記すべき事項

イ 管理再編整備計画の策定

(ア) 要綱第5の1の(2)のイの都道府県知事の承認を受けた土地改良区（以下「管理再編実施土地改良区」という。）は、地区内又は隣接地域における施設管理の状況、集落管理組織の活動状況及び農業者の意向を的確に把握するため、次に掲げるものの中から地域の実情に応じて必要となる事項を選択して、地域実態調査を実施するものとする。

- a 土地改良区管理施設に関する調査
- b 営農状況に関する調査
- c 農業集落組織の現状に関する調査
- d 水利用の実態に関する調査
- e 末端施設の管理状況に関する調査
- f 周辺地域の施設管理状況に関する調査
- g 農業用排水路等の農外利用に関する調査
- h 農業用排水路等の利用調整に関する調査
- i 組合員の意識、市町村及び農業団体の要望等に関する調査
- j その他

(イ) 管理再編実施土地改良区は、都道府県の指導の下に、関係市町村及び関係農業団体と調整を図りつつ管理再編整備計画を樹立するものとする。

(ウ) 管理再編整備計画には、次の事項を定めるものとする。

a 施設管理再編計画

集落管理機能の低下、隣接地域の取込み等に伴う施設管理の再編を行うため、維持管理の方法、施設操作、水配分計画等について、次に掲げる事項を内容とする地域の現状に即した施設管理の再編計画を作成するものとする。

- (a) 施設管理の再編の基本方向
- (b) 施設管理の現状
- (c) 施設管理に関する計画
- (d) 施設整備に関する計画
- (e) 関係機関との調整に関する計画
- (f) その他必要な事項

b 管理組織再編計画

施設管理再編計画及び水利用の実態に即した管理体制の整備、下部組織の再編等について、次に掲げる事項を内容とする管理組織の再編計画を作成するものとする。

- (a) 管理組織の現状
- (b) 管理体制の整備に関する計画
- (c) 下部組織の再編に関する計画
- (d) その他必要な事項

ウ 管理再編整備検討委員会の設置

(ア) 管理再編実施土地改良区は、次に掲げる者をもって構成する管理再編整備検討委員会（以下「検討委員会」という。）を設置するものとする。

- | | | |
|---|--------------|-----|
| a | 都道府県の職員 | 1名 |
| b | 市町村の職員 | 2名 |
| c | 地方連合会の役職員 | 1名 |
| d | 実施土地改良区の役職員 | 2名 |
| e | 関係農業団体の役職員 | 若干名 |
| f | 学識経験者その他必要な者 | 若干名 |

(イ) 検討委員会は、おおむね次に掲げる順序及び検討事項等により開催するものとする。

- | | | | |
|---|------|-----|---------------------------------|
| a | 第1年度 | 1回目 | 地域実態調査の方法、内容の検討 |
| | | 2回目 | 地域実態調査の実施結果の検討及び管理再編整備計画策定方針の検討 |
| b | 第2年度 | 1回目 | 管理再編整備計画の細部検討 |
| | | 2回目 | 管理再編整備計画の最終調整 |

(ウ) 管理再編実施土地改良区は、地域実態調査の実施及び管理再編整備計画の策定に当たっては、検討委員会の意見を求めるものとする。

(エ) 検討委員会は、(ウ)により意見を求められたときは、地域における施設管理の状況、集落管理組織の活動状況等の実情を踏まえ、適正な管理再編整備に資するよう積極的に検討を行い、意見を述べるものとする。

エ 附帯施設整備

管理再編実施土地改良区は、管理再編整備の実施に伴い必要となる次の附帯施設整備を行うことができるものとする。

(ア) 水管理等施設整備

土地改良施設の小規模な改修、整備補修及び安全施設としてのフェンス等の設置に係るもので、これに要する経費が200万円以下のものとする。

(イ) 業務運営合理化施設整備

土地改良施設の維持管理の改善等を図るために必要となる別表1に掲げる業務機器等の整備に係るもので、これに要する経費が100万円以下のものとする。

オ 実施期間

原則として2年間で実施するものとする。

(3) 土地利用再編整備

ア 土地利用再編整備実施地区の承認

(ア) 要綱第5の1の(3)の土地利用再編整備を実施しようとする土地改良区、市町村又は地方連合会が要綱第5の1の(3)のイによる承認申請を行うときは、別紙様式第13号の申請書によるものとする。

(イ) 都道府県知事は、要綱第5の1の(3)のウによる地方農政局長との協議に当たっては、(ア)の申請書の写しに次の内容を記載した意見書を添付するものとする。

- a 土地利用再編整備の必要性
- b 施設管理、集落管理組織の現状及び見通し
- c その他特記すべき事項

イ 土地利用再編整備計画の策定

(ア) 要綱第5の1の(3)のイの都道府県知事の承認を受けた者（以下「再編実施主体」という。）は、土地利用再編整備の対象とする土地改良区（以下「再編対象土地改良区」という。）について、施設管理の状況、集落管理組織の活動状況及び農業者の意向を的確に把握するため、次に掲げるものの中から地域の実情に応じて必要となる事項を選択して、地域実態調査を実施するものとする。

- a 土地改良区管理施設に関する調査
- b 営農状況に関する調査
- c 農業集落組織の現状に関する調査
- d 水利用の実態に関する調査
- e 末端施設の管理状況に関する調査
- f 農業用排水路等の農外利用に関する調査
- g 農業用排水路等の利用調整に関する調査
- h 組合員の意識、市町村及び農業団体の要望等に関する調査
- i その他

(イ) 再編実施主体は、都道府県の指導の下、再編対象土地改良区、関係市町村及び関係農業団体と調整を図りつつ、土地利用再編整備計画を樹立するものとする。

(ウ) 土地利用再編整備計画には、次の事項を定めるものとする。

a 土地利用再編計画

土地利用の変化等に伴う施設管理の再編を行うため、維持管理の方法、施設操作、水配分計画等について、次に掲げる事項を内容とする地域の現状に即した施設管理の再編計画を作成するものとする。

- (a) 施設管理の再編の基本方向
- (b) 施設管理の現状
- (c) 施設管理に関する計画
- (d) 施設整備に関する計画
- (e) 関係機関との調整に関する計画
- (f) その他必要な事項

b 管理組織再編計画

施設管理再編計画及び水利用の実態に即した管理体制の整備、下部組織の再編等について、次に掲げる事項を内容とする管理組織の再編計画を作成するものとする。

- (a) 管理組織の現状
- (b) 管理体制の整備に関する計画
- (c) 下部組織の再編に関する計画
- (d) その他必要な事項

ウ 土地利用再編整備検討委員会の設置

(ア) 再編実施主体は、次に掲げる者をもって構成する土地利用再編整備検討委員

会（以下「再編検討委員会」という。）を設置するものとする。

- | | | |
|---|--------------|-----|
| a | 都道府県の職員 | 1名 |
| b | 市町村の職員 | 1名 |
| c | 地方連合会の役職員 | 1名 |
| d | 土地改良区の役職員 | 1名 |
| e | 関係農業団体の役職員 | 若干名 |
| f | 学識経験者その他必要な者 | 若干名 |

（イ）再編検討委員会は、おおむね次に掲げる順序及び検討事項等により開催するものとする。

- | | | | |
|---|------|-----|-----------------------------------|
| a | 第1年度 | 1回目 | 地域実態調査の方法、内容の検討 |
| | | 2回目 | 地域実態調査の実施結果の検討及び土地利用再編整備計画策定方針の検討 |
| b | 第2年度 | 1回目 | 土地利用再編整備計画の細部検討 |
| | | 2回目 | 土地利用再編整備計画の最終調整 |

（ウ）再編実施主体は、地域実態調査の実施及び土地利用再編整備計画の策定に当たっては、再編検討委員会の意見を求めるものとする。

（エ）再編検討委員会は、（ウ）により意見を求められたときは、地域における施設管理の状況、集落管理組織の活動状況等の実情を踏まえ、適正な土地利用再編整備に資するよう積極的に検討を行い、意見を述べるものとする。

エ 附帯施設整備

再編実施主体は、土地利用再編整備の実施に伴い必要となる次の附帯施設整備を行うことができるものとする。

（ア）水管理等施設整備

土地改良施設の小規模な改修、整備補修及び安全施設としてのフェンス等の設置に係るもので、これに要する経費が200万円以下のものとする。

（イ）業務運営合理化施設整備

土地改良施設の維持管理の改善等を図るために必要となる別表1に掲げる業務機器等の整備に係るもので、これに要する経費が100万円以下のものとする。

オ 実施期間

原則として2年間で実施するものとする。

2 都道府県が行う統合整備重点指導地区に対する指導

（1）統合整備重点指導地区の選定

都道府県が、要綱第5の2の（3）による協議を行うときは、別紙様式第14号の調書を添付するものとする。

（2）統合整備推進委員会の構成等

ア 要綱第5の2の（1）のアの統合整備推進委員会は、おおむね次により構成するものとする。

- | | | |
|-----|--------------|-------------|
| （ア） | 都道府県の職員 | 2名 |
| （イ） | 関係市町村の職員 | 1市町村当たり1名 |
| （ウ） | 関係農業団体の役職員 | 若干名 |
| （エ） | 関係土地改良区等の職員 | 1土地改良区当たり2名 |
| （オ） | 学識経験者その他必要な者 | 若干名 |

イ 統合整備推進委員会は、おおむね次の順序及び検討事項等により開催するものとする。

- | | | | |
|-----|------|-----|---------------------------|
| （ア） | 第1年度 | 1回目 | 統合整備推進上の課題及び地域実態調査の方法等の検討 |
|-----|------|-----|---------------------------|

- 2 回目 地域実態調査結果の検討及び統合整備推進計画の策定方針の検討
- (イ) 第2年度 1 回目 統合整備推進計画の検討
- 2 回目 統合整備推進計画の最終調整
- (3) 統合整備推進計画の策定
 - ア 要綱第5の2の(1)のイの統合整備推進計画は、次の事項を定めるものとする。
 - (ア) 関係土地改良区の現状
 - (イ) 統合整備推進の支障となっている課題とその対応方策
 - (ウ) 統合整備重点指導地区への指導方針
 - イ 都道府県は関係土地改良区と協力し、統合整備推進計画を策定するため、次の事項について、地域実態調査等を実施するものとする。
 - (ア) 組織運営体制の実態調査
賦課基準、資産関係、市町村等からの助成状況の調査等
 - (イ) 施設管理体制の実態調査
施設の管理、農業集落組織の現状、農外利用の状況の調査等
 - (ウ) その他必要な調査等
組合員等の意識及び要望等に関する調査、統合整備の必要性、メリット等の啓発普及等
- (4) 実施期間
原則として2年間で実施するものとする。

第5 研修・人材育成

1 公募団体が行う研修・人材育成

(1) 統合整備推進研修

公募団体が実施する要綱第6の1の(1)の統合整備推進研修は、おおむね次の事項について実施するものとする（Web会議など対面形式以外の形式で開催することができることとする。）。

ア 合併協議の体制構築・進め方について

イ 合併推進に係る諸課題・懸案事項への対応について

(ア) 組織運営に係る課題等

(イ) 施設管理に関する課題等

ウ 合併事例の検証・検討

エ 合併後における諸課題・懸案事項解消への取組について

オ 合併の推進に資する滞納処分の実施について

カ その他

(2) 施設管理研修

ア 管理専門指導員研修

要綱第6の1の(2)のアの管理専門指導員等の資質向上を図るための研修については、おおむね次の事項について実施するものとする（Web会議など対面形式以外の形式で開催することができることとする。）。

(ア) 土地改良施設管理概論

(イ) 農業水利施設のストックマネジメント概論

(ウ) 農業水利施設の機能診断概論

(エ) 農業水利施設の安全管理関係

(オ) その他

イ 土地改良施設の整備補修事例検討会

要綱第6の1の(2)のイの土地改良施設の整備補修事例検討会（以下「検討会」という。）は、おおむね次により実施するものとする。

- (ア) 全国を地方農政局ごとに1ブロックとして、各ブロック単位で検討会を開催するものとする（Web会議など対面形式以外の形式で開催することができることとする。）。ただし、北海道にあつては東北農政局ブロック、沖縄県にあつては九州農政局ブロックにそれぞれ含めるものとする。
- (イ) 検討会においては、要綱第3の2の(2)の土地改良施設の診断・管理指導を行う地方連合会の管理専門指導員が診断・管理指導した事例（1県当たり1から2事例程度選定）のうちから、診断・管理指導の技術の共有化を図るべきものについて2事例程度を選定するものとする。
- (ウ) 検討会は、学識経験者、地方農政局及び都道府県職員並びに地方連合会の管理専門指導員をもって構成するものとする。
- (エ) 公募団体は、各ブロックで選定された事例等を取りまとめ、地方連合会の管理専門指導員の技術データとして共有化を図るものとする。

ウ 小水力等発電技術者育成研修

要綱第6の1の(2)のウの小水力等発電導入の取組を推進するための研修等については、おおむね次により実施するものとする（Web会議など対面形式以外の形式で開催することができることとする。）。

(ア) 小水力等発電導入に係る指導者育成

土地改良区及び土地改良区連合に対し最新の知見に基づき指導する技術者を育成するため、導入に係る調査、設計施工、発電水利権、固定価格買取制度の動向等について研修を行うものとする。

(イ) 小水力等発電の維持管理に携わる技術者育成

小水力等発電の維持管理に係る技術者を育成するため、発電施設の維持管理・運営、安全管理及び電気技術の向上を図るための機械、電気事業法、電気理論、電力等について研修を行うものとする。

(ウ) 小水力等発電の会計運営に携わる技術者育成

小水力等発電会計に携わる技術者を育成するため、発電会計の必要性や会計運営等について研修を行うものとする。

(エ) 現地指導

小水力等発電の導入、維持管理、会計に対する課題を解消するための現地指導を行うものとする。

(3) 会計指導員育成研修

要綱第6の1の(3)の会計指導員育成研修は、おおむね次により実施するものとする。

ア 会計指導員の業務・育成

次に掲げる業務を行う会計指導員を育成するため、土地改良区等の財務管理強化に関する専門的な研修（試験を含む。）を実施するとともに、当該研修及び試験を修了した者を会計指導員として認定するものとする。

(ア) 第2の4の(1)の複式簿記会計に関する巡回指導

(イ) 地方連合会との連携により実施する第2の4の(2)の財務管理強化相談業務

(ウ) 土地改良区等の指導監査

(エ) その他、土地改良区等の事業運営の透明化やガバナンスの強化に関する啓発・指導

イ 認定要件

(ア) 会計指導員として認定を受けることができる者は、次のいずれにも該当する者とする。

a ウの会計指導員の育成のための研修（以下「育成研修」という。）を修了した者

b エの会計指導員認定試験（以下「認定試験」という。）に合格した者

(イ) (ア) の認定期間は、認定日から3年を経過した年度末までとする。ただし、更新を妨げない。

(ウ) 認定の更新については、(ア) の規定（bを除く。）を準用する。

ウ 育成研修

(ア) 公募団体は、毎年度1回以上、育成研修（eラーニング等を含む。）を実施する。

(イ) エの(イ) の認定試験の区分に関する事項について、延べ12時間以上の研修を行う。

エ 認定試験

(ア) 公募団体は、ウの育成研修を受講した者を対象に認定試験を実施する。

(イ) 認定試験は次の区分により行う。

a 土地改良区の業務運営及び会計経理

土地改良区の概要、定款・規約等、土地改良区会計の仕組み、賦課金等の賦課徴収の仕組み等に関する事項

b 会計経理に係るガバナンス及びコンプライアンスの強化

土地改良区会計基準（平成31年2月14日付け30農振第2938号農林水産省農村振興局長通知）、土地改良区会計細則例（平成31年2月14日付け30農振第2939号農林水産省農村振興局長通知）及び土地改良区会計指導基準（平成23年4月1日付け22農振第2411号農林水産省農村振興局長通知）等に関する事項

c 会計指導・監査

土地改良区における複式簿記会計・指導監査の導入に関する事項

オ 会計指導員育成研修の実施

(ア) 受講・受験資格

次に掲げる者は、育成研修を受講し、認定試験を受験する資格を有する。

a 土地改良事業団体連合会（以下「連合会」という。）の事業に係る業務の経験期間が通算して10年以上の者又は連合会の事業に係る業務のうち、監査事務、会計事務及び予算の調製に関する事務（以下「会計事務等」という。）に携わった期間が通算して5年以上の者

b 土地改良区等の事業に係る業務の経験期間が通算して10年以上の者又は土地改良区等の事業に係る業務のうち会計事務等に携わった期間が通算して5年以上の者で、現在は土地改良区等の職員ではない者

c 国・地方公共団体の土地改良事業に係る業務の経験期間が通算して10年以上の者又は国・地方公共団体の土地改良事業に係る業務のうち会計事務等（検査事務を含む。）に携わった期間が通算して5年以上の者で、現在は国・地方公共団体の職員ではない者

d その他 a、b 及び c に掲げる者と同等以上の者として、公募団体が農村振興局長と協議して認めた者

(イ) 受講・受験手続

受講・受験を希望する者は、「受講・受験申込書及び受講・受験票」（別

紙様式第15号)に必要事項を記入して、公募団体が定める期日までに、公募団体に提出するものとする。

カ 委員会の設置

(ア) 公募団体は、農林水産省の関係職員、学識経験者等で構成する会計指導員育成研修運営委員会(以下「委員会」という。)を設置するものとする。

(イ) 公募団体は、毎年度3回以上、委員会を開催する。

(ウ) 委員会の所掌事項は次に掲げる事項とする。

- a 育成研修のカリキュラムに関する事
- b 認定試験問題の作成に関する事
- c 認定試験結果の審査に関する事
- d 土地改良区等指導監査の手引に関する事
- e その他必要事項

キ 認定を受けることができる者の決定

公募団体は、育成研修及び認定試験の結果について、委員会の審査を経た後、認定を受けることができる者を決定し、別紙様式第16号により農村振興局長に報告するものとする。

ク 認定証の交付

農村振興局長は、キの報告を受けた後速やかに、合格者に対し、認定証(別紙様式第17号)を交付するものとする。

ケ 地方連合会への届出等

クの認定を受けた会計指導員は、速やかに、別紙様式第18号により、業務を行う都道府県の地方連合会にその旨を届け出るものとする。

コ 会計指導員等の活用の推進

地方農政局(北海道にあっては農村振興局、沖縄県にあっては沖縄総合事務局)は、土地改良区等の財務管理強化に当たっては、会計指導員等を活用してこれが行われるよう、都道府県との連携を図るものとする。

サ 打合せ

公募団体は、会計指導員育成研修の実施に当たっては、農村振興局と十分協議の上、実施するものとする。

打合せについては、主として次の段階で行うものとする。

- (ア) 会計指導員育成研修に関する事務の着手段階
- (イ) 会計指導員育成研修実施段階
- (ウ) 認定試験の合格者の決定段階

シ その他

会計指導員育成研修の実施に関し必要な事項は、公募団体が別に定める。

(4) 換地関係異議紛争処理実務研修

要綱第6の1の(4)の換地関係異議紛争処理実務研修は、おおむね次により行うものとする。

ア 土地改良換地に関する異議紛争の未然防止及び早期解決を図る研修

研修は次により開催し、土地改良換地に関する既往の異議紛争事例等の具体的事例を活用して実施するものとする。

- (ア) 全国を地方農政局ごとに1ブロックとして、各ブロック単位で研修を開催するものとする(W e b会議など対面形式以外の形式で開催することができることとする。)。ただし、北海道にあっては東北農政局ブロック、沖縄県にあっては九州農政局ブロックにそれぞれ含めるものとする。
- (イ) 研修の対象は次のとおりとし、国の職員又は学識経験者等の協力のもと開催

するものとする。

- a 都道府県の職員
- b 地方連合会の役職員
- c 土地改良区等の役職員

イ 地方連合会が行う換地処分未了地区等の解消に関する指導に対する助言等

要綱第6の1の(4)の助言等は、アの土地改良換地に関する異議紛争の未然防止及び早期解決を図る研修における検討事項等を踏まえ、次の事項について地方連合会に対し行うものとする。

(ア) 地方連合会から提出された換地処分未了地区等の解消に関する指導地区の処理方策

(イ) 異議紛争の未然防止に関する事項

2 地方連合会が行う研修・人材育成

(1) 技術実践向上研修

要綱第6の2の(1)の技術実践向上研修は、土地改良区の役職員等に対して農業農村整備事業に関する基礎的、専門的知識の習得を図ることにより技術力向上に資するものとし、おおむね次により実施するものとする。

ア 研修内容

(ア) 農業農村整備事業を取り巻く最新の施策動向

(イ) 農業農村整備事業制度関係

(ウ) 維持、管理及び整備関係

- a 土地改良事業計画設計及び技術基準関係
- b 施工管理関係
- c 品質確保関係
- d 施設管理関係
- e 土地改良事業積算基準関係
- f コスト縮減関係

(エ) 環境対策への取組関係

(オ) 事業管理関係

(カ) その他

イ 全国を地方農政局ごとに1ブロックとして、各ブロック単位で開催するものとする（Web会議など対面形式以外の形式で開催することができることとする。）。ただし、北海道にあつては東北農政局ブロック、沖縄県にあつては九州農政局ブロックにそれぞれ含めるものとする。

なお、研修実施に当たっては、国、地方公共団体等と協議の上、開催するものとする。

ウ 要綱第6の2の(1)のイの承認を受けようとする地方連合会は、別紙様式第19号の承認申請書及び別紙様式第20号の計画概要書を添付の上、都道府県知事に提出するものとする。

エ 都道府県知事は、要綱第6の2の(1)のウによる地方農政局長との協議に当たっては、ウの承認申請書及び計画概要書を審査の上、これが適当であると認めるときは実施予定年度の5月末日までに地方農政局長に提出するものとする。

オ 地方農政局長は、ウの承認申請書及び計画概要書を審査の上、本事業を実施することが適当と認める場合は、実施予定年度の6月末日までに別紙様式第21号により通知するものとする。

(2) 基幹水利施設保全管理技術向上研修

ア 要綱第6の2の(2)の基幹水利施設保全管理技術向上研修は、土地改良区等

の施設管理者（以下「施設管理者」とする。）に対し、次に掲げる事項について、指導及び技術援助を行うものとする（Web会議など対面形式以外の形式で開催することができることとする。）。

（ア）施設の操作運転、点検及び整備に関すること。

（イ）施設の機能保全に関すること。

（ウ）施設に係る災害・事故等のリスク管理・監視に関すること。ただし、リスク管理については自然災害を念頭においたリスク管理に限るものとする。

イ アの内容について、現地において指導及び技術援助を行う対象施設は、国営土地改良事業等で造成され土地改良区等が管理しているダム、頭首工、排水機場、用水機場等の基幹水利施設であり、公共性の程度、施設操作の難易度、施設規模及び受益規模を別紙様式第22号の「対象施設の評点の算定方法」に基づき算定した評点が、5点以上のダム、頭首工、排水機場、用水機場及びこれと併せて一体的な管理を行う必要のある水路等とするものとする。

ウ 本研修の実施に当たっては、対象となる基幹水利施設を管理する施設管理者等と十分協議をした上で、別紙様式第23号の基幹水利施設保全管理技術向上研修実施計画書を作成するものとする。

エ 地方連合会は、研修の実績等を明らかにした別紙様式第24号に示す業務記録簿を作成し保管（電磁的記録による保管を含む。）するものとする。

オ 基幹水利施設保全管理技術向上研修を実施しようとする地方連合会が要綱第6の2の（2）のイの承認を受けようとするときは、計画概要書を添付の上、別紙様式第25号の申請書を提出するものとする。

カ 都道府県知事は、要綱第6の2の（2）のウによる地方農政局長との協議に当たっては、オの計画概要書及び申請書を審査の上、これが適当であると認めるときは実施予定年度の5月末日までに地方農政局長へ提出するものとする。

キ 地方農政局長はカの申請書及び計画概要書を審査の上、本事業を実施することが適当と認める場合は、実施予定年度の6月末日までに別紙様式第26号により通知するものとする。

（3）監査実務等向上研修

要綱第6の2の（3）の監査実務等向上研修は、土地改良区等の内部けん制機能及び運営基盤の強化を図るため、土地改良区等の役職員等に対し、おおむね次により実施するものとする。

ア 研修内容

（ア）監査・内部点検実務

（イ）非補助土地改良事業活用実務

（ウ）取組事例紹介、実務演習等

イ 研修の期間は、1日程度とする。

ウ 地方連合会ごとに年1回程度開催する（Web会議など対面形式以外の形式で開催することができることとする。）。

なお、研修実施に当たっては、地方農政局（北海道にあっては農村振興局、沖縄県にあっては沖縄総合事務局。）及び都道府県と協議の上、開催するものとする。

（4）換地等技術向上研修

ア 要綱第6の2の（4）の研修のうち、換地事務に関する研修は、おおむね次により実施するものとする。

（ア）次に掲げる事項及び過去の研修実績等を考慮して作成する年間研修計画（別紙様式第27号）を管理強化委員会に提出し、当該管理強化委員会において協議

・検討するものとする。

a 換地技術者等の活動状況等

土地改良換地士及び一般換地技術者（以下「換地技術者等」という。）の活動状況等を把握し、換地技術者等名簿（別紙様式第28号）を作成するとともに、毎年度、当該名簿の記載事項について必要となる補正を行うものとする。

b 翌年度の換地事務量等及び換地事務量の長期見通し等

都道府県が把握する換地を伴う土地改良事業の翌年度新規着工予定地区の内容、換地計画の認可又は決定状況等に基づいて換地処理見込表（別紙様式第29号）を作成するものとする。

(イ) (ア)の年間研修計画は、当該都道府県の換地事務の促進に資するものとして、次に掲げる研修から選択し、おおむね別記の1から3により実施するものとする（Web会議など対面形式以外の形式で開催することができることとする。）。

a 新規担当者研修

新規に換地事務を担当する市町村、地方連合会及び土地改良区等の職員に対する研修

b 換地計画実務研修

換地事務に従事している換地技術者等に対する研修

c 換地委員等実務研修

換地を伴う土地改良事業の着工（予定）地区の換地委員（準備委員）、事業推進委員、土地改良区等の役員及び地域のリーダー等に対する研修

イ 要綱第6の2の(4)の研修のうち、交換分合に関する研修は、交換分合の実務に携わる職員等を対象として、おおむね別記の4及び5により実施するものとする（Web会議など対面形式以外の形式で開催することができることとする。）。なお、地方連合会は、この交換分合に関する研修について、都道府県知事が適当と認めた者にその一部を行わせることができるものとする。

(5) 基幹水利施設省エネルギー化技術実践向上研修

ア 要綱第6の2の(5)の基幹水利施設省エネルギー化技術実践向上研修は、施設管理者に対し、次に掲げる事項について、指導及び技術援助を行うものとする（Web会議など対面形式以外の形式で開催することができることとする。）。

(ア) 省エネルギー化推進の啓発に関すること。

(イ) 省エネルギー化推進の具体化に向けた現地指導と調査に関すること。

(ウ) 省エネルギー化推進の基本構想の策定に関すること。

イ 本研修の実施に当たっては、対象となる施設管理者等と十分協議をした上で、別紙様式第30号の基幹水利施設省エネルギー化技術実践向上研修実施計画書（以下「実施計画書」という。）を作成するものとする。

ウ 基幹水利施設省エネルギー化技術実践向上研修を実施しようとする地方連合会が要綱第6の2の(5)のイの承認を受けようとするときは、実施計画書を添付の上、別紙様式第31号の申請書を都道府県知事へ提出するものとする。

エ 都道府県知事は、要綱第6の2の(5)のウによる地方農政局長との協議に当たっては、前号の実施計画書及び申請書を審査の上、これが適当であると認めるときは実施予定年度の5月末日（令和4年度に限っては、令和4年10月末日）までに地方農政局長へ提出するものとする。

オ 地方農政局長は前号の申請書及び実施計画書を審査の上、本事業を実施することが適当と認める場合は、実施予定年度の6月末日（令和4年度に限っては、令

和4年11月末日)までに別紙様式第32号により通知するものとする。
カ 地方連合会は、研修の実績等を明らかにした別紙様式第33号に示す業務記録簿を作成し保管(電磁的記録による保管を含む。)するものとする。

第6 特定被災土地改良区復興支援対策

公募団体が行う要綱第7の特定被災土地改良区復興支援対策は、おおむね次のとおり行うものとする。

1 本対策の対象となる業務書類・機器等の費用

本対策の対象となる業務書類・機器等の費用は、被災した土地改良区が業務運営を維持するために、特定大規模災害等(大規模災害からの復興に関する法律(平成25年法律第55号)第2条第9号に規定する特定大規模災害等をいう。以下同じ。)が起こった日以降、復旧した業務書類・機器等の費用で次に掲げるもの(以下「特定被災土地改良区復旧支援助成金」という。)とする。

(1) 別表2に掲げる業務書類の復旧に要する同表に定める費用

(2) 別表3に掲げる機器等の復旧に要する同表に定める費用

(3) (1)及び(2)に掲げる費用のほか、被災地域の実情を踏まえて農村振興局長が特に必要と認めた業務書類・機器等の復旧に要する費用

2 公募団体の業務等

公募団体は、国からの助成により、次に掲げる特定被災土地改良区復興計画の審査及び認定、特定被災土地改良区復旧支援助成金の交付その他本対策の実施に必要な業務を行うものとする。

なお、公募団体は、本対策に係る事務を円滑に行うため、本対策の事務の一部を、他の団体に委託できるものとする。その場合において、公募団体は、速やかに農村振興局長にその旨通知するものとする。

3 助成の対象等

本対策の助成の対象者は、特定被災土地改良区復興計画を作成し、当該計画について公募団体による認定を受けた土地改良区(土地改良区連合を含む。以下「特定被災土地改良区」という。)とし、助成期間は、当該認定を受けた日の属する年度の4月1日から起算して3年以内とする。

4 特定被災土地改良区復興計画の審査及び認定

(1) 被災した土地改良区は、本対策の適用を受けようとする場合には、特定被災土地改良区復興計画(別紙様式第34号)を作成し、公募団体に対し当該計画について、農村振興局長が別に定める日までに認定の申請を行うものとする。

(2) 公募団体は、(1)の申請があったときは、関係地方農政局及び関係都道府県の職員を構成員とする審査委員会を開催し、この審査委員会において特定被災土地改良区復興計画の審査を行うものとする。

(3) 公募団体は、審査委員会において、特定被災土地改良区復興計画を適当と認めたときは、当該計画の認定を行い、申請のあった被災した土地改良区に対して認定の通知を行うものとする。

(4) 特定被災土地改良区は、特定被災土地改良区復興計画の内容に変更があった場合には、公募団体に当該計画の変更を申請するものとする。

(5) 公募団体は、(4)の変更申請があった場合には、当該申請を(2)及び(3)の手續に準じて取り扱うものとする。

5 特定被災土地改良区復旧支援助成金の交付

(1) 特定被災土地改良区復旧支援助成金交付規程

公募団体は、特定被災土地改良区復旧支援助成金交付規程を定め、農村振興局長

の承認を受けるものとする。なお、同交付規程を変更する場合においても同様とする。

(2) 特定被災土地改良区復旧支援助成金の交付額

特定被災土地改良区復旧支援助成金の交付額は、4の(3)(4の(5)により準じて取り扱う場合を含む。)の公募団体の認定を受けた特定被災土地改良区復興計画に定められた助成予定額を限度とする。

(3) 特定被災土地改良区復旧支援助成金の交付手続

ア 特定被災土地改良区は、4の(3)による認定通知があったとき(災害が起こった年度にあっては、4の(1)による認定申請を行ったとき)は、当該認定又は申請に係る計画に従って、毎年度、公募団体に対して特定被災土地改良区復旧支援助成金の交付の申請を行うものとする。

イ 公募団体はアの交付の申請があった場合には、特定被災土地改良区復旧支援助成金交付規程に基づき、特定被災土地改良区に対して、当該年度の予算の範囲内で、特定被災土地改良区復旧支援助成金を交付するものとする。

(4) 特定被災土地改良区復旧支援助成金の使途

特定被災土地改良区は、交付された特定被災土地改良区復旧支援助成金の全額を業務書類・機器等の復旧に要する費用に充てるものとする。

6 助成

要綱第9の2の助成の対象となる経費は、次に掲げるものとする。

(1) 特定被災土地改良区復旧支援助成金

(2) 本対策の実施に必要な事務費

- ア 賃金
- イ 報償費
- ウ 旅費
- エ 需用費
- オ 役務費
- カ 委託料
- キ 使用料及び賃借料
- ク 備品購入費
- ケ 給料、職員手当等
- コ 共済費

第7 国及び都道府県による指導等

国及び都道府県は、本事業を実施する土地改良区又は地方連合会に対し指導を行うほか、必要に応じ地方連合会、関係市町村及び関係農業団体等に対し協力を依頼するものとする。

第8 補助金交付決定前の着手

事業は、原則として、補助金等に係る予算の執行の適正化に関する法律(昭和30年法律第179号)第6条第1項の補助金等の交付の決定(以下「補助金交付決定」という。)後に着手するものとする。

ただし、事業の効果的な実施を図るため、補助金交付決定前に事業に着手する場合には、事業主体は、あらかじめ、その理由を明記した別紙様式第35号に定める土地改良区体制強化事業補助金交付決定前着手届を都道府県知事(公募団体にあっては農村振興局長)に提出するものとする。この場合、都道府県知事は、当該交付決定前着手届を、速やかに地方農政局長に提出するものとする。

第9 実施結果の報告

- 1 要綱第11の1及び2のうち、要綱第3の施設・財務管理強化対策に関する報告は、別紙様式第36号によるものとし、要綱第4の2の受益農地管理強化対策及び要綱第6の2の（4）の換地等技術向上研修に関する報告は、別紙様式第37号によるものとし、要綱第4の3の受益農地管理強化対策に関する報告は、別紙様式第38号によるものとし、要綱第5の統合整備強化対策に関する報告は、別紙様式第39号から別紙様式第45号までによるものとし、要綱第6の2の（3）の監査実務等向上研修に関する報告は、別紙様式第46号によるものとする。
- 2 要綱第11の1及び2のうち、要綱第6の2の（1）の技術実践向上研修に関する報告は、別紙様式第47号によるものとし、要綱第6の2の（2）の基幹水利施設保全管理技術向上研修に関する報告は、別紙様式第48号によるものとし、要綱第6の2の（5）の基幹水利施設省エネルギー化技術実践向上研修に関する報告は、別紙様式第49号によるものとする。
- 3 要綱第11の3に関する報告は、別紙様式第50号から別紙様式第55号までによるものとする。

第10 その他

本事業における人件費の算定等にあつては、「補助事業等の実施に要する人件費の算定等の適正化について（平成22年9月27日付け22経第960号農林水産省大臣官房経理課長通知）」に従うものとする。

なお、本事業の実施に当たっては、平成22年1月15日付け21農振第1733号農林水産省農村振興局長通知に留意されたい。

附 則

この通知は、平成30年4月1日から施行する。

附 則

この要領は、平成31年4月1日から施行する。

附 則

この要領は、令和2年4月1日から施行する。

附 則

この通知は、令和3年4月1日から施行する。

附 則

この通知は、令和4年4月1日から施行する。

附 則

この通知は、令和5年4月1日から施行する。

別表１（第４の１の（１）の工の（イ）、１の（２）の工の（イ）及び１の（３）の工の（イ）関係）

	区 分	対象となる事務機器等の種類
統 合 整 備	(1) 業務運営の合理化・省力化に必要なもの	会計に関するソフトウェア、複写機、銅製書庫、倉庫等
	(2) 土地改良事業の適正かつ計画的な実施を図るため必要なもの	発電機、簡易ポンプ、無線装置、投光器、除塵用機器、レベル、トランシット、ポール、スタッフ、カメラ、製図機器、透写台、プラニメーター等
管理再編整備 及び 土地利用再編 整備	(1) 土地改良施設の維持管理の改善を図るために必要なもの	施設管理に関するソフトウェア、水位計、流量計、水温計等
	(2) 土地改良事業の適正かつ計画的な実施を図るため必要なもの	発電機、簡易ポンプ、無線装置、投光器、除塵用機器、レベル、トランシット、ポール、スタッフ、カメラ、製図機器、透写台、プラニメーター等

別表 2（支援の対象となる業務書類の復旧に要する費用）

対象となる業務書類の種類	対象となる費用
(1) 組合員名簿 (2) 土地原簿 (3) 賦課台帳 (4) 土地改良施設台帳	被災のため、新たに調製する必要がある業務書類について、その調製のために必要となる調査費、旅費、通信費及び諸経費。

別表 3（支援の対象となる機器等の復旧に要する費用）

対象となる機器等の種類	対象となる費用
(1) パソコン・プリンタ (2) 複写機 (3) ソフトウェア (4) 携帯電話 (5) ファクシミリ (6) 事務所内LAN (7) キャビネット・書庫 (8) 発電機 (9) 簡易ポンプ	特定大規模災害等のあった日以前に所有していた機器等のうち、被災により使用不能となった機器等の入れ替えに要する費用。ただし、防災機能の強化など特殊な事情がある場合には、当該災害以前に所有していない機器等の購入に要する費用。
(10) 仮設事務所	特定大規模災害等により事務所の全部又は一部が損壊し、当該事務所では業務を再開できない場合に、仮設事務所の設置（リース及び賃貸を含む。）に要する費用。

別記

換地等技術向上研修における研修等一覧

1 新規担当者研修

(1) 研修の対象者

新規に換地事務を担当する地方連合会及び土地改良区等の職員又は既に換地事務を担当しているが換地事務に関する研修を未受講の職員

(2) 研修時間

48時間

(3) 研修課目

研 修 課 目	研 修 課 目
土地改良法	土地評価・清算
民法(総則、物権、相続)	換地計画書作成
不動産登記法、土地改良登記令	調査事務(戸籍簿、住民票、登記簿調査)
戸籍法	国有地処理、行政界等変更
農地法、農業経営基盤強化促進法、農地中間管理事業の推進に関する法律	換地関係登記実務
換地理論	測量理論・実務(図面作成含む)

2 換地計画実務研修

(1) 研修の対象者

換地事務に従事している換地技術者等

(2) 研修時間

30時間

(3) 研修課目

研 修 課 目	研 修 課 目
土地改良法	一時利用地指定
換地理論	換地関係登記実務
農業経営、農地集団化	河川法、道路法関係実務
農村計画	国有地処理実務

非農用地換地手法	行政界等変更実務
基礎調査	行政不服審査法、行政事件訴訟法
換地設計基準	異議処理
土地評価・清算	国土調査
換地選定	測量理論、実務

3 換地委員等実務研修

(1) 研修の対象者

着工（予定）地区の換地委員（準備委員）、事業推進委員、土地改良区等の役員及び集落のリーダー等

(2) 研修時間

12時間

(3) 研修課目

研 修 課 目	研 修 課 目
土地改良法の概要(換地理論含む)	異議処理
換地事務処理	人間関係論
換地設計基準	農業経営基盤強化促進法の概要、農地中間管理事業の推進に関する法律の概要
換地選定	換地と利用権の一体的推進手法

4 交換分合実務研修

(1) 研修の対象者

市町村、農業委員会及び土地改良区等の役職員等の交換分合実務担当者

(2) 研修時間

18時間

(3) 研修課目

研 修 課 目	研 修 課 目
土地改良法	交換分合計画作成実務
交換分合制度	交換分合登記申請実務

土地評価、清算実務	交換分合事例研究
-----------	----------

5 交換分合実務講習

(1) 講習の対象者

交換分合実施予定地区の推進団体等の関係者

(2) 講習時間

6 時間

(3) 講習課目

講 習 課 目
交換分合制度の概要
交換分合事例

別紙様式第 1 号

定期診断指導対象土地改良施設調書

土地改良区等の名称				同左所在地				TEL		
種 目	種類	竣工 年度	施工 主体	管理受託 年月日	当該施設 の所在	構造 及び規模	数量	記事		

(記載要領)

- 1 「種目」欄には、例えばダム、頭首工、用水機、排水機、防潮水門、ため池、水路等の要領により記載すること。
- 2 「種類」欄には、種目にしたがって〇〇ダム、△△頭首工、第〇号用水機等の要領により記載すること。
- 3 「竣工年度」欄には、種類ごとの竣工年度を記載すること。
- 4 「施工主体」欄には、種類ごとの施工主体を記載すること。
- 5 「管理受託年月日」欄には、当該土地改良区等以外の施工主体が造成した施設を受託管理している場合において、その管理受託の年月日を記載すること。
- 6 「当該施設の所在」欄には、種類ごとの所在を記載すること。
- 7 「構造及び規模」欄には、種類ごとの構造及び規模をできるだけ具体的に記載すること。
- 8 「数量」欄には、種類ごとに数量(例えば、水路延長 2,000m 等)を記載すること。
- 9 「記事」欄には、種類ごとの診断業務を行うに当たって参考となる事項を記載すること。

別紙様式第2号

土地改良施設の診断・管理指導申込書

年 月 日

〇〇都道府県土地改良事業団体連合会
土地改良施設診断・管理指導業務部署 御中

所在地
団体名
代表者名

当〇〇〇（団体名）が管理している土地改良施設について、貴連合会による診断・管理指導を受けたいので、下記のとおり申し込みます。

記

1 診断・管理指導を希望する土地改良施設の内容等

種 目	種 類	竣 功 年 度	当該施設の所在	構造及び 規 模	数 量

2 診断・管理指導の希望時期

〇月〇旬を希望する。

3 その他（管理専門指導員が診断・管理指導を行う上で参考となる事項）

受付月日	受付番号	処 理

（記載要領）

- 1 「種目」欄には、水路、樋門等の要領により記載すること。
- 2 「種類」欄には、幹線水路等の要領により記載すること。
- 3 「竣功年度」欄には、種類ごとの竣功年度を記載すること。
- 4 「当該施設の所在」欄には、種類ごとの所在を記載すること。
- 5 「構造及び規模」欄には、種類ごとの構造及び規模（例えば、3面コンクリート張水路、幅員3m等）を記載すること。
- 6 「数量」欄には、種類ごとに数量（例えば、水路延長2,000m等）を記載すること。

別紙様式第 3 号

土地改良施設の診断・管理指導結果調書

1 診断・管理指導及び対象施設の概要

土地改良区等名			
種 目		種 類	
区 分	定 期 ・ 要 請	診断年月日	年 月 日
診断者氏名		立会人・職・氏名	

(記載要領)

- 1 「種目」欄には、例えば、ダム、頭首工、用水機、排水機等を記載すること。
- 2 「種類」欄には、種目に従って、〇〇ダム、△△頭首工等を記載すること。
- 3 「区分」欄には、「定期」又は「要請」のいずれかを○で囲むこと。

2 施設別診断・管理指導所見

診断・管理指導項目	所 見

(記載要領)

- 1 「診断・管理指導項目」欄には、種類ごとに、管理専門指導員が行った具体的な診断の内容について、別添の「土地改良施設診断の評価基準」の評価基準の区分に従い記載する。
- 2 「所見」欄には、診断・管理指導項目ごとに、別添の「土地改良施設診断の評価基準」の評価基準の区分に従い、その留意、改善すべき事項及び評価点に基づく緊急度（k 1～k 4）等を記載する。

3 総合所見

--

(記載要領)

当該土地改良区等の土地改良施設の管理方法について、総合的な所見(留意、改善すべき事項等)を記載する。

別紙様式第4号

土地改良事業関係相談依頼書兼処理概要

年 月 日提出

- 1 相談依頼者
住所
氏名
(所属団体名)
- 2 相談内容(具体的に)
- 3 添付資料(図面、その他)
- 4 希望する回答方法(いずれかに○印を付し、必要事項を記入)
(1) 文書によって回答されたい。
(2) 月 日に伺いたい。
(3) 現地指導(月 日ごろ)を希望する。

5 処理の概要

(1) 処理経過

受 付 月 日	受 付 番 号	区 分	担 当 管 理 専 門 指 導 員	整 理 番 号	回 答 面 接 月 日	現 地 指 導 月 日	備 考

(2) 処理内容(詳細に)

事 項	処 理 内 容	備 考

(注) 電話等による申込みのときは、連合会の職員が1から4までの各項目につき聴取の上、記入するものとする。

別紙様式第 5 号

複式簿記会計巡回指導概要

No.	
-----	--

1. 指導対象土地改良区（連合）			2. 貸借対照表の作成要否			
3. 年月日・ 時間	4. 指導方法		5. 指導実施者	6. 対応者	7. 指導事項の概要	8. 指導結果の概要
	現地指導	その他指導				

（記載要領）

- 1 「2. 貸借対照表の作成要否」欄には、土地改良法（昭和 24 年法律第 195 号）第 29 条の 2 及び土地改良法施行規則（昭和 24 年農林省令第 75 号）第 25 条の 2 の規定に基づき、貸借対照表の作成の要否について記載する。
- 2 「3. 年月日・時間」欄には、巡回指導を実施した日時を記載する。
- 3 「4. 指導方法」欄には、該当する指導方法欄に○を付すこと。
- 4 「5. 指導実施者」欄には、巡回指導を実施した者の全てを、①会計指導員、②会計の専門家又は③会計指導員の資格を有しない地方連合会の職員の別が分かるように記載する。
- 5 「6. 対応者」欄には、現地指導対象土地改良区（連合）の対応者を記載する。
- 6 「7. 指導事項の概要」欄及び「8. 指導結果の概要」欄には、現地指導の内容と指導に基づく土地改良区（連合）の対応等について記載する。

整理番号	
------	--

○年度 財務管理強化相談処理概要

1 相談の相手方
住所
氏名
(所属団体名)

2 相談区分

3 相談内容 (具体的に)

相 談 内 容	備 考

4 添付資料 (帳簿、その他)

5 処理の概要
(1) 処理経過

対応年月日	担当職員	摘 要

(2) 処理内容 (詳細に)

処 理 内 容	備 考

- (記載要領)
- 1 整理番号欄には、年度ごとに起番した番号を記載すること。
 - 2 2の相談区分欄には、①複式簿記会計の有効活用、②指導監査の導入、③非補助土地改良事業の推進活動、④その他の会計経理の課題のいずれかを記載すること。
 - 3 5の(1)の処理経過には、会計指導員との連携状況及び公認会計士、監査法人、税理士又は税理士法人の配置状況も記載すること。
また、摘要欄には処理経過における対応の概要を記載すること。

○年度 非補助土地改良事業推進計画書

○○都道府県土地改良事業団体連合会

1. 非補助農業基盤整備資金の融資計画
(1) 事業種目別融資計画

(単位：件、百万円)

事業種類		融 資 計 画	融 資 実 績 見 込	備 考
かんがい排水	地区数 金 額			
耕地整備	地区数 金 額			
区画整理	地区数 金 額			
農道	地区数 金 額			
農地造成	地区数 金 額			
農村環境基盤施設	地区数 金 額			
農業集落排水	地区数 金 額			
維持管理	地区数 金 額			
合 計	地区数 金 額			

(2) 融資実績見込みにおける現状と今後の動向

2. 非補助農業基盤整備資金の融資推進活動計画

(1) 研修会・担当者会議

研修会、担当者会議の開催計画

研修会、会議名			
開催月又は時期			
主 催 者 (主催・参加の別)			
研修会等の対象者			
出 席 者 数			
うち土地改良区役職員数			
関連するテーマ			
備 考			

(2) 現地推進指導

ア 現地推進指導の実施計画

指導テーマ		
実 施 回 数 (実施地区数)		
【同行予定の有無】		
農政局担当者 公庫担当者 都道府県担当者 市町村担当者 そ の 他 () ()		
備 考		

イ 実施計画地区一覧

土地改良区等名	国 県 営 事 業 名	事業実施期間

(3) その他の推進指導活動

手 法			
具 体 的 内 容			
対 象 先			
回 数			

(記載要領)

- 1 1の(1)の事業種目別融資計画には、都道府県や公庫等と十分に連携を図り、本計画書作成年度における実績見込額及び次年度における融資計画額を分析の上、記載するものとする。
- 2 事業種類欄に含まれる工種は以下のとおりとする。
 - ・耕地整備…… 区画整理、農道、暗渠排水、客土、索道、床締、心土耕、酸性きょう正、石れき除去、畦畔整備
 - ・農地造成…… 防災施設、農地保全、飲雑用水施設
 - ・農村環境基盤施設…… 農業集落道、営農飲雑用水、農業集落排水、集落防災安全
- 3 (2)の融資実績見込みにおける現状と今後の動向については、本計画書作成年度の過去数年度における融資実績と比較して、都道府県内における非補助農業基盤整備資金の現状を分析し、その要因と今後の動向を記載するものとする。
- 4 2の(1)の研修会、担当者会議の開催計画には、非補助農業基盤整備資金に関する内容については、都道府県土地改良事業団体連合会が実施する研修会、担当者会議について記載するものとする。
- 5 研修会・会議名について、計画段階で具体的な名称等が確定していない場合は、仮称で記載して差し支えない。
- 6 (2)のアの現地推進指導の実施計画には、非補助農業基盤整備資金の内容等について理解を深め、融資拡大に寄与することを目的として、土地改良区関係者等に対して実施する推進指導の内容についてのみ記載するものとする。
- 7 その他欄のカッコ書きについては、所属機関名を記載するものとする。
- 8 指導先については、地方農政局及び都道府県が提供した事業実施中の国営事業地区から、完了間近の事業地区の中から関連事業として非補助土地改良事業が計画されている地区を抽出するものとし、具体的な地区名を実施計画地区一覧に記載するものとする。なお、該当地区が皆無である場合、推進すべき工種等を確立し、推進する地区を有意抽出の上、イの実施計画地区一覧に記載するものとする。
- 9 (3)のその他の推進指導活動については、広報誌や機関誌への掲載、ホームページへの情報掲載等について記載するものとする。
- 10 各項目の記載欄は実施回数に応じて、適宜、増やして差し支えない。

〇年度 非補助土地改良事業推進指導概要書

〇〇農政局（沖縄総合事務局）

1. 管内における非補助農業基盤整備資金の需要動向と融資動向の分析

① 過去数ヶ年間における資金需要の動向

② 今年度の融資動向に関する分析

2. 非補助農業基盤整備資金の事業種目別融資計画

(単位：件、百万円)

事業種類	融 資 計 画	融 資 実 績 見 込	備 考
かんがい排水	地区数 金 額		
耕地整備	地区数 金 額		
区画整理	地区数 金 額		
農道	地区数 金 額		
農地造成	地区数 金 額		
農村環境基盤施設	地区数 金 額		
農業集落排水	地区数 金 額		
維持管理	地区数 金 額		
合 計	地区数 金 額		

3. 地方農政局等の指導方針

(1) 地方農政局等における総括的な指導方針

事 項		指 導 方 針	備 考
全 般 的 な 方 針			
個 別 事 項	研修会の開催		
	研修会開催以外の推進指導		
	現地推進指導		

(2) 管内の各地方連合会に対する指導方針

地方連合会名	指 導 方 針	備 考

4. 管内地方連合会における各種推進指導活動の状況

区 分	実 施 計 画	備 考
研修会・担当者会議	主催 うち農政局等の参加 県 回 回	
	参加 うち農政局等の参加 県 回 回	
	未開催・未参加 県	
現地推進指導の実施	実施 うち農政局等の同行 県 県	
	実施予定なし 県	

(記載要領)

- 1 2. 非補助農業基盤整備資金の事業種目別融資計画には、管内の地方連合会から提出された非補助土地改良事業推進計画書の事業種目毎の合計額を記載して差し支えない。
- 2 事業種類に含まれる工種は以下のとおりとする。
 - ・耕地整備…… 区画整理、農道、暗渠排水、客土、索道、床締、心土耕、酸性きょう正、石れき除去、畦畔整備
 - ・農地造成…… 防災施設、農地保全、飲雑用水施設
 - ・農村環境基盤施設…… 農業集落道、営農飲雑用水、農業集落排水、集落防災安全
- 3 3の(1)の地方農政局等における総括的な指導方針には、1の分析結果を踏まえ、2の計画額に到達するための指導方針を、全般的な方針(アウトライン)と個別事項毎に記載するものとする。
- 4 全般的な方針は、地方農政局等として重点をおく事項、地域等を考慮するものとする。
- 5 (2)については、(1)の指導方針を踏まえ、各都道府県別の融資実績等を考慮した指導方針を具体的に記載するものとする。
- 6 4の管内地方連合会における各種推進指導活動の状況については、融資推進計画の各区分について、指導方針、関与の方法等を備考欄に具体的に記載するものとする。

別紙様式第9号

○年度 換地処分未了地区等指導台帳

○○都道府県土地改良事業団体連合会
年 月 日

一元化前後等の別： 区分：

都道府県名	関係 市町村名	地区名	事業主体名	事業 主体別	工期 (年度)	換地費の 補助の 最終年度	地区面積 (ha)	換地区名	換地区 面積	関係 権利者数 (名)	換地処分未了理由	未了 理由 番号	今後の処理方針	換地処 分見込 年度	備考
					～										

換地業務主体			事業計画上の換地処分予定年度		活動実績・活動計画等		
換 地 処 分 推 進 体 制					前年度まで	本年度	翌年度以降
未了の原因及び現状（経緯を含む）					受益農地管理強化委員会の指導方針		
					換地専門指導員の指導状況等		

(記載要領)

- 1 各個別地区の換地処分未了解消計画について具体的に記載すること。
- 2 1 換地区 1 葉とすること。
- 3 「一元化前後等の別」欄には、「一元化後」、「一元化前」、「耕地整理事業」の別を記載すること。
- 4 「区分」欄には、換地処分が未了である地区は「1」と、換地処分が未了となるおそれのある地区は「2」と記載すること。
- 5 「事業主体名」欄には、〇〇県(道、府)、〇〇市(町、村)、〇〇農協、共同施行等、具体的に記載すること。
- 6 「事業主体別」欄には、県営事業は「1」と、県営事業以外は「2」と記載すること。
- 7 「工期」欄は、事業計画書において、換地処分が終了するまでの期間を記載すること。
- 8 「換地費の補助の最終年度」欄には、換地費の補助の最終年度を、昭和60年度の場合には「S60」、平成28年度の場合には「H28」と半角で記載することとし、換地費の補助を受けていない場合は「非補助」と記載すること。
なお、「換地業務指導等要領(昭和62年11月2日付け62構改B第1167号農林水産省構造改善局長通知)」の「6 換地業務に係る補助の取扱い」において、「換地業務の遅延理由が別表に掲げるものに該当するものにあつては、工事完了年度の翌々年度の換地費についても補助することができる」と規定されているので、「工期」の完了年度と「換地費の補助が打ち切られた年度」が異なる場合もあるので注意すること。
また、換地費の繰り越しがあった場合は、繰り越された年度まで換地費の補助があったものとして整理すること。
- 9 「換地処分未了理由」欄には、具体的かつ簡潔に理由を記載すること。
- 10 「未了理由番号」欄には、下表から該当する番号を記載することとし、理由が複数ある場合は、影響がある順に3つまで記載すること。(例、「2」、「7②」など)

未了理由番号	未了理由	内容	未了理由番号	未了理由	内容
1	換地計画原案等に対する不満	一時利用地の指定を除く権利者会議の不満等	2	一時利用地の指定に対する不満	一時利用地の指定に対する不満
3	工事の施工に対する不満	工事の施工に対する不満	4	換地計画に対する不同意	権利者会議における不同意
5	換地計画書に対する異議申立て等	公告及び縦覧された換地計画に対する異議申立て又は異議の申出(法律に基づくもの)並びに訴訟	6	一時利用地の指定に対する審査請求	一時利用地の指定に対する審査請求(法律に基づくもの)及び訴訟
7①	換地業務の遅延	選定調整	7②	換地業務の遅延	相続登記、分筆登記の遅れ
7③		国公有地払い下げ処理(廃川敷地の払い下げを含む)	7④		国公有地の地区編入
7⑤		市町村界、字界変更手続き	7⑥		境界確定、地図訂正(業務の流れ)
7⑦		境界紛争が生じている	7⑧		清算金の調整
7⑨		業務体制の不備	7⑩		非農用地に関する調整の遅れ(同意取得の遅れ)
7⑪		その他	8	他事業の工事等の遅れ	河川・道路工事等の調整の遅れ
9	計画変更に伴う遅れ	計画変更に伴う遅れ	10	確定測量の遅れ	確定測量の遅れ
11	その他	予算の不足、災害等			

- 11 「今後の処理方針」欄には、当該地区の換地処分が未了となる原因を解決するための方針等を、具体的に記載すること。
- 12 「換地処分見込年度」欄には、例えば令和2年度中ならば「R2」と具体的な年度を記載することとし、見込みが立たない場合は「未定」と記載すること。
- 13 「備考」欄には、当該地区が換地区を設けている場合には、当該地区内の他換地区との重複三条資格者数や、換地処分が未了である換地区を含めた全換地区数等を記載すること。

別紙様式第10号

農用地利用集積推進対策地区調書

〇〇都道府県土地改良事業団体連合会

整理番号		地区名		関係する土地改良区等名			
地区面積 (ha)		農家戸数		担い手数		担い手の占める割合 (%)	
担い手が農家で無い場合の営農組合等の名称等							
農用地の利用状況 (ha)	田		畑		その他		合計
農業経営基盤強化促進法第18条第5項に基づく農用地利用集積計画の作成の申出の有無			申出年月日		計画年数		
農地中間管理事業の実施状況							
指導開始年度		指導完了 (予定) 年度		指導予定年数		専門指導員名	
	地区の 農地面積 (ha)	担い手の 農地面積 (ha)	担い手の 農地集積率 (%)	農家戸数	担い手数	担い手の 占める割合 (%)	備考
事業開始時							
初年度末							
2年度末							
3年度末							
本地区の概要				課題			
本地区の農地整備等基盤整備事業の実施状況				指導方針			
事業名							
事業主体名							
実施年度							
地区面積 (ha)							
事業完了後の担い手の農地面積 (ha)							
事業完了後の担い手の農地集積率 (%)							
土地改良区等が行う土地利用調整等の活動を支援するソフト事業の実施状況							
事業名							
事業主体名							
実施 (予定) 年度							
事業内容							
調書作成者氏名				調書作成年月日		修正年月日	

(記載要領)

- 1 本調書は、地方連合会が農用地利用集積推進対策を実施する上で必要最低限の項目について記載しており、地区の実状等に応じて、必要な項目の追加等を行っても差し支えない。
- 2 本調書は、推進地区1地区につき、一葉を作成するものとする。
- 3 「担い手」とは、効率的かつ安定的な農業経営を営む者であり、具体的には以下の要件に該当する者、組織及び法人等とする。
 - (1) 農業経営基盤強化促進法（昭和55年法律第65号。以下「基盤法」という。）に基づく認定農業者（認定農業者たる農業法人、特定農業法人を含む）
 - (2) 地域計画（基盤法第19条に規定する地域計画をいう。）のうち目標地図（基盤法第19条第3項の地図をいう。）に位置付けられた者（認定農業者、認定新規就農者、集落営農組織（農業の担い手に対する経営安定のための交付金の交付に関する法律（平成18年法律第88号）第2条第4項第1号ハに定める組織をいう。）、市町村の基本構想（基盤法第6条第1項に定める基本構想をいう。）に示す目標所得水準を達成している農業者及び市町村が認める者）
 - (3) 農地中間管理事業の推進に関する基本方針（農地中間管理事業の推進に関する法律（平成25年法律第101号。以下「農地中間管理事業法」という。）第3条第1項に基づき定めるもの。）に定められた効率的かつ安定的な農業経営を営む者
 - (4) 目標年度までに認定農業者となることが確実と見込まれる以下に該当するもの。
 - ① 経営等農用地面積がおおむね3.5ヘクタール以上の農家
 - ② オペレータ1人当たり基幹的3作業の面積がおおむね3.5ヘクタール以上の生産組織
 - (5) 集落営農組織
- 4 「担い手の農地面積」とは、農地中間管理権（農地中間管理事業法第2条第5項に規定するもの。）及び農用地の利用権の設定や農作業の受委託、農地のあっせん等がなされることにより、3の担い手に集約された農用地の面積をいう。
- 5 「担い手の農地集積率」の計算方法については、以下のようにする。

$$\text{担い手の農地集積率（\%）} = \frac{\text{担い手の農地面積（h a）}}{\text{地区の農地面積（h a）}} \times 100$$

別紙様式第 11 号

統合再編整備事業（統合整備）承認申請書

都道府県知事 殿

〇〇土地改良区
理事長 〇〇〇〇

〇年度から〇年度において、統合再編整備事業（統合整備）を実施したいので、統合再編整備事業（統合整備）地区調書を添えて土地改良区体制強化事業実施要綱第 5 の 1 の（1）のウの（イ）の b の（a）に基づき、申請する。

統合再編整備事業（統合整備）地区調書

- 1 地 区 名
- 2 事 業 実 施 期 間
- 3 統合整備の内容（新設合併・吸収合併・土地改良区連合の設立・合同事務所の設置）
- 4 統合整備の区分等（Ⅰ型・Ⅱ型・Ⅲ型、水系単位・市町村単位・その他）
- 5 合併（土地改良区連合の設立又は合同事務所の設置）土地改良区の概要

合併（土地改良区連合の設立・合同事務所の設置）土地改良区	関係市町村名	事業概要	地区面積	組合員数	役員数			総代数	職員数			合併（土地改良区連合の設立・合同事務所の設置）予定時期	備 考
					理事	監事	計		専任	兼任	計		
合 計													
地域の概要													
事業実施計画	年度（予定）	実 施 計 画 の 内 容											
附帯施設整備	水管理等施設整備				業務運営合理化施設整備				管理施設情報電子化整備				
	実施予定時期	整備の概要			実施予定時期	整備の概要			実施予定時期	整備の概要			

（添付資料）

土地改良区を含む地域の図面

（注）本報告書は、地区ごとに別葉とすること。

別紙様式第 12 号

統合再編整備事業（管理再編整備）承認申請書

都道府県知事 殿

〇〇土地改良区
理事長 〇〇〇〇

〇年度から〇年度において、統合再編整備事業（管理再編整備）を実施したいので、統合再編整備事業（管理再編整備）地区調書を添えて土地改良区体制強化事業実施要綱第 5 の 1 の（2）のイに基づき、申請する。

統合再編整備事業（管理再編整備）地区調書

土地改良区の概要等	土地改良区名			設立年月日				
	事務所所在地							
	地区面積	ha	（内訳）田	ha	畑	ha	その他	ha
	関係市町村名							
	関係市町村に存する土地改良区名							
	管理施設の概要							
	施設管理の状況							
地域の概況								
集落管理組織の現状								
隣接地域の現況								
事業の必要性								
附帯施設整備		水管理等施設整備の概要			業務運営合理化施設整備の概要			

(注) 1 「地域の概況」欄には、当該地域の農業・農村の現状、営農の状況等を踏まえ、記載すること。
2 「集落管理組織の現状」欄には、集落管理組織が管理する施設の名称、施設管理の内容、夫役及び施設管理の状況等を記載すること。
3 「隣接地域の現況」欄には、地区編入を予定する地域の農業・農村の現状、面積、施設管理の状況等を記載すること。

(添付資料)

土地改良区を含む地域の図面（地区編入を予定する土地改良区にあっては、地区編入予定地域を示すこと。）

別紙様式第 13 号

統合再編整備事業（土地利用再編整備）承認申請書

都道府県知事 殿

〇〇土地改良区理事長

〇〇市町村長

〇〇都道府県土地改良事業団体連合会会長

〇年度から〇年度までにおいて、統合再編整備事業（土地利用再編整備）を実施したいので、統合再編整備事業（土地利用再編整備）地区調書を添えて土地改良区体制強化事業実施要綱（平成 28 年 4 月 1 日付け 27 農振第 2429 号農林水産事務次官依命通知）第 5 の 1 の（3）のイに基づき、申請する。

統合再編整備事業（土地利用再編整備）地区調書

土地改良区 の概要等	土地改良区名			設 立 年 月 日				
	事務所所在地							
	地 区 面 積	ha	（内訳） 田	ha	畑	ha	その他	ha
	関係市町村名							
	関係市町村に存する 土地改良区名							
	管理施設の概要							
	施設管理の状況							
地 域 の 概 況								
集落管理組織の現状								
事 業 の 必 要 性								
附 帯 施 設 整 備		水管理等施設整備の概要			業務運営合理化施設整備の概要			

（注） 1 「地域の概況」欄には、当該地域の農業・農村の現状、営農の状況等を踏まえ、記載すること。
2 「集落管理組織の現状」欄には、集落管理組織が管理する施設の名称、施設管理の内容、夫役及び施設管理の状況等を記載すること。

（添付資料）
土地改良区を含む地域の図面

別紙様式第 14 号

統合整備重点指導地区調書

- 1 地 区 名
- 2 事 業 実 施 期 間
- 3 合 併 類 型 (水系単位・市町村単位・その他)
- 4 関係土地改良区の概要

名称	関係市町村名	事業概要	地区 面積	組合 員数	役員数			総代数	職員数			備 考
					理事	監事	計		専任	兼任	計	
合 計												
合併に向けた 関係土地改良 区の取組等の 状況												
事業の必要性												

(添付資料)

土地改良区を含む地域の図面

(注) 本報告書は、地区ごとに別葉とすること。

別紙様式第15号

会計指導員 育成研修受講 申込書			会計指導員 育成研修受講 票		
年 月 日			年 月 日 撮影		
(ふりがな)			※ 番 号		
氏 名		(男 ・ 女)	(ふりがな)		
生年月日		年 月 日 生 (歳)	氏 名		
現 住 所		〒 (電話番号)			
勤 務 先	名 称				
	所在地	〒 (電話番号)			
職 歴 (年 数)	① 土地改良事業に係る業務の経験年数		年		
	② ①のうち、検査事務、監査事務、会計事務及び予算の調製に関する事務の経験年数		年		

写 真

申込前6ヵ月以内に半身脱帽で撮影した縦4.5センチメートルの写真で、本人と確認できるものを貼付すること。

注) 1 会計指導員の認定の更新を目的とする育成研修の受講の場合は、表題部「認定試験受験」を二重線で削除すること。

2 受講・受験を申し込む者は、※の欄は記載しないこと。

3 事業主体たる公募団体は、※の欄に、本票の受付順に通番を付すこと。

注) 1 本申込書には、住民票又は戸籍抄本(申込前3ヶ月以内に交付されたもの。)を添付すること。

2 会計指導員の認定の更新を目的とする育成研修の受講の場合は、表題部「認定試験受験」を二重線で削除すること。

3 勤務先欄は、現に勤務している場合に記載すること。

4 職歴(年数)欄は、①・②の区分ごとに、それぞれ通算経験年数を記載すること。また、これを証する書面として別紙を添付すること。

5 会計指導員の認定の更新を目的とする育成研修の受講の場合は、注) 4の記載及び添付を要せず、自らが会計指導員の認定を受けた別紙様式第17号の認定証(写し)を添付することで足りる。

会計指導員 育成研修受講 資格証明書
 認定試験受験

1 業務の内容

番号	区分	役 職	従 事 期 間	職歴 (年数)	証明区分	
					証明	誓約
(1)			年 月 日から 年 月 日まで	年		
(2)			年 月 日から 年 月 日まで	年		
(3)			年 月 日から 年 月 日まで	年		
(4)			年 月 日から 年 月 日まで	年		
(5)			年 月 日から 年 月 日まで	年		
(6)			年 月 日から 年 月 日まで	年		

3 誓約書

土地改良区体制強化事業実施要領（平成28年4月1日付け27農振第2430号農林水産省農村振興局長通知）第5の1の（3）のオの（ア）年 月 日までの受講・受験資格に関する業務の経験の記載は、真実であることを誓約します。

年 月 日

氏 名

公募団体の長 殿

2 業務の内容の証明

業務内容の証明区分	所 属 団 体 (機関) 名	所属団体(機関)の長又は 人事責任者の氏名
(1) の業務内容について、 相違ないことを証明する。		
(2) の業務内容について、 相違ないことを証明する。		
(3) の業務内容について、 相違ないことを証明する。		
(4) の業務内容について、 相違ないことを証明する。		
(5) の業務内容について、 相違ないことを証明する。		
(6) の業務内容について、 相違ないことを証明する。		

- 注) 1 1の区分欄には、①（土地改良事業に係る業務の経験年数）又は②（①のうち、検査事務、監査事務、会計事務及び予算の調製に関する事務の経験年数）のいずれかを記載すること。
- 2 1の業務の内容については原則として証明を受けること。
なお、証明を受けることが不可能である場合には、2の所属団体（機関）の長又は人事責任者氏名欄にその理由を記載し、3の誓約をすること。
- 3 注) 2の証明の区分については、1の証明区分欄のいずれかに○を記載すること。

別紙様式第 16 号

○年度 会計指導員認定候補者一覧

番号	(ふりがな) 氏 名	生年月日	年齢	現 住 所	電話番号	勤 務 先			受講・受験資格		育成研修 受講時間	認定試験 正 答 率
						名 称	所 在 地	電話番号	区分	経験年数		
										① (年)		
										② (年)		
										① (年)		
										② (年)		
										① (年)		
										② (年)		
										① (年)		
										② (年)		
										① (年)		
										② (年)		
										① (年)		
										② (年)		
										① (年)		
										② (年)		
										① (年)		
										② (年)		
										① (年)		
										② (年)		

- 注) 1 番号欄には、受講・受験票番号を転記すること。
 2 受講・受験資格の区分欄には、a (土地改良事業団体連合会)、b (土地改良区 (連合))、c (国・地方公共団体) 又は d (その他) のいずれかを記載すること。
 3 受講・受験資格の経験年数欄には、① (土地改良事業に係る業務の経験年数) 又は② (①のうち、検査事務、監査事務、会計事務及び予算の調製に関する事務の経験年数) のいずれかに応じた年数を記載すること。
 4 育成研修受講時間欄には、育成研修の延べ受講時間を記載すること。
 5 認定試験正答率欄には、小数点第 2 位以下を四捨五入して算出 (小数点第 1 位で整理。) した認定試験正答率を記載すること。

認 定 証

住 所
氏 名 ○ ○ ○ ○ 殿
生年月日 年 月 日生

土地改良区体制強化事業実施要綱（平成 28 年 4 月 1 日付け
27 農振第 2429 号農林水産事務次官依命通知）第 6 の 1 の（3）
の会計指導員として認定する。

番 号 第○○－○○号

認定期間 ○年○月○日から○年 3 月 31 日

○年○月○日

農林水産省農村振興局長
○ ○ ○ ○

注）番号は、年度（元号）－番号（受講・受験票番号）とする。

会計指導員認定届出書

〇〇 〇〇

業務を行う都道府県（土地改良事業団体連合会）		〇〇
業務 内 容	☐ a 要領第 2 の 4 の（1）の複式簿記会計に関する巡回指導	
	☐ b 要領第 2 の 4 の（2）の財務管理強化相談業務	
	☐ c 土地改良区等の指導監査	

- 注） 1 会計指導員が本届出を行う場合には、別紙様式第17号の認定証（写し）を添付すること。
2 業務内容欄には、実施する業務のチェックボックスにレ点を記載すること。
3 表中「要領」とは、土地改良区体制強化事業実施要領（平成28年 4 月 1 日付け27農振第2430号農林水産省農村振興局長通知）をいう。

別紙様式第 19 号

番 号
年 月 日

都道府県知事 殿

都道府県土地改良事業団体連合会長名

技術実践向上研修 承認申請書

技術実践向上研修を実施したいので、土地改良区体制強化事業実施要綱（平成 28 年 4 月 1 日付け 27 農振第 2429 号農林水産事務次官依命通知）第 6 の 2 の（1）のイに基づき、下記の資料を添付して申請します。

記

1. 技術実践向上研修 事業計画概要書（別紙様式第 20 号）
2. その他参考資料

別紙様式第 20 号

技術実践向上研修 事業計画概要書

1 技術実践向上研修概要

(1) 研修実施方針

研修実施方針	
--------	--

(2) 開催概要

開催予定 年 月 日	開催 回数	開催 日 数	時 間	開催 予定地	研修対象者数	事業費 (千円)

(3) 研修実施計画

[illegible]

2 事業費の内訳

区 分	国 庫 補 助 金	備 考
1 技術実践向上研修経費 (内訳)	円 円 円	

(記載要領)

1 表1の(1)

(1) 研修実施方針は、研修の目的に即した具体的実施方針

2 表1の(2)

(1) 「開催予定地」欄には、市町村名を記載する。

(2) 「研修対象者数」欄には、所属別に人数を記入する。

3 表1の(3)

(1) 研修実施計画は、技術実践向上研修のスケジュール、技術実践向上研修内容を記述する。

(2) 研修を複数回に分けて開催する場合は、開催順に記載する。

4 表2

(1) 要綱第9の1の助成となる経費については、次のとおりとする。

区 分	経 費
1 賃 金	日々雇用される事務補助員
2 報償費	諸謝礼
3 旅 費	普通旅費、特別旅費（協議会等旅費、日額旅費）
4 需用費	消耗品費、燃料費、印刷製本費
5 役務費	通信運搬費
6 委託料	コンサルト等の委託料
7 使用料及び 賃借料	会議用会場、研修用会場、物品等の使用料及び賃借料
8 技術員手当等	事業に直接従事する職員に対する技術員手当等（退職手当を除く。）
9 共済費	技術員手当等が支弁される者に対する共済組合負担金及び保険料、賃金が支弁される者に対する社会保険料

(2) 表の内訳は、(1)の区分ごとに経費を記述する。

別紙様式第 21 号

番 号
年 月 日

都道府県知事 殿

各地方農政局長
北海道にあつては農林水産省農村振興局長
沖縄県にあつては内閣府沖縄総合事務局長

技術実践向上研修の実施について

〇〇年〇〇月〇〇日付け〇〇第〇〇号で協議のあつた技術実践向上研修の実施については、同意する。

別紙様式第22号

対象施設の評点の算定方法

対象施設の評点は、下表により算定するものとし、各評点値は切上げ整数値とする。

	ダム		頭首工		排水機場		用水機場	
	区分	基礎点	区分	基礎点	区分	基礎点	区分	基礎点
(1) 公共性の程度								
ア 使用目的数	3 目的以上	3	3 目的以上	3	～ 100%	5	3 目的以上	3
排水機場にあっては	2 目的	2	2 目的	2	～ 80	4	2 目的	2
非農地面積率	単 独	1	単 独	1	～ 60	3	単 独	1
					～ 40	2		
					～ 20	1		
小 計	(× 8.334)		(× 8.334)		(× 6.667)		(× 8.334)	
イ 河川区分	1 級 直 轄	4	1 級 直 轄	4	—		1 級 直 轄	4
	1 級 指 定	3	1 級 指 定	3	—		1 級 指 定	3
	2 級	2	2 級	2	—		2 級	2
	そ の 他	1	そ の 他	1	—		そ の 他	1
小 計	(× 6.250)		(× 6.250)				(× 6.250)	
ウ 提 高	100 m 超	5	200 m 超	5	4,000 mm 超	6	特 定 水 利	3
頭首工にあってはセキの全長、	～ 100	4	～ 200	4	～ 4,000	5	準 特 定 水 利	2
排水機場にあっては総口径、	～ 60	3	～ 150	3	～ 3,000	4	そ の 他	1
用水機場にあっては河川法	～ 40	2	～ 100	2	～ 2,000	3		
(昭和39年法律第167号)	～ 20	1	～ 50	1	～ 1,000	2		
に定める水利使用区分					～ 500	1		
小 計	(× 5.000)		(× 5.000)		(× 5.556)		(× 8.334)	
エ 受益面積	3,000ha 超	5	3,000ha 超	5	1,000ha 超	6	1,000ha 超	6
	～ 3,000	4	～ 3,000	4	～ 1,000	5	～ 1,000	5
	～ 2,000	3	～ 2,000	3	～ 800	4	～ 800	4
	～ 1,000	2	～ 1,000	2	～ 600	3	～ 600	3
	～ 500	1	～ 500	1	～ 400	2	～ 400	2
					～ 200	1	～ 200	1
小 計	(× 5.000)		(× 5.000)		(× 5.556)		(× 4.167)	
公 共 性 の 評 点	(以上基礎点合計÷25)		(以上基礎点合計÷25)		(以上基礎点合計÷25)		(以上基礎点合計÷25)	

	ダ ム 頭		首 工		排 水 機 場		用 水 機 場	
	区 分 基 礎 点		区 分 基 礎 点		区 分 基 礎 点		区 分 基 礎 点	
(2) 受益規模 受益面積	3,000ha 超 ～ 3,000 ～ 2,000 ～ 1,000 ～ 500	5 4 3 2 1	3,000ha 超 ～ 3,000 ～ 2,000 ～ 1,000 ～ 500	5 4 3 2 1	1,000ha 超 ～ 1,000 ～ 800 ～ 600 ～ 400 ～ 200	6 5 4 3 2 1	1,000ha 超 ～ 1,000 ～ 800 ～ 600 ～ 400 ～ 200	6 5 4 3 2 1
小 計	(× 20.000)		(× 20.000)		(× 16.667)		(× 16.667)	
受 益 規 模 の 評 点	(以上基礎点合計÷ 50)		(以上基礎点合計÷ 50)		(以上基礎点合計÷ 50)		(以上基礎点合計÷ 50)	
(3) 施設操作難易度 ア 洪水吐ゲート 排水機場にあっては自然排水、 用水機場にあっては操作制御の 方法	有 無	2 1	3 門 以 上 2 門 1 門 固 定 堰	4 3 2 1	有 無	2 1	完 全 自 動 半 自 動 手 動	3 2 1
小 計	(× 16.667)		(× 8.334)		(× 25.000)		(× 11.112)	
イ 使用目的数	3 目 的 以 上 2 目 的 単 独	3 2 1	3 目 的 以 上 2 目 的 単 独	3 2 1	— — —		3 目 的 以 上 2 目 的 単 独	3 2 1
小 計	(× 11.112)		(× 11.112)				(× 11.112)	
ウ 河川区分 排水機場にあっては計画最大 排水量、用水機場にあっては ポンプ台数	1 級 直 轄 1 級 指 定 2 級 そ の 他	4 3 2 1	1 級 直 轄 1 級 指 定 2 級 そ の 他	4 3 2 1	20m ³ /s 超 ～ 20 ～ 15 ～ 10 ～ 5	5 4 3 2 1	4 台 以 上 ～ 3 台 ～ 2 台 ～ 1 台	4 3 2 1
小 計	(× 8.334)		(× 8.334)		(× 10.000)		(× 8.334)	
施 設 操 作 難 易 度 の 評 点	(以上基礎点合計÷ 50)		(以上基礎点合計÷ 50)		(以上基礎点合計÷ 50)		(以上基礎点合計÷ 50)	

	ダム	頭首工	排水機場	用水機場
	区分基礎点	区分基礎点	区分基礎点	区分基礎点
(4) 施設規模 (ダム) X_1 : 最大取水能力(m^3/s) X_2 : 年間総取水量(百万 m^3) X_3 : 集水面積(Km^2) X_4 : 総貯水量(百万 m^3) X_5 : 設計洪水量(m^3/s) X_6 : 提高(m) X_7 : 提長(m) (頭首工) X_1 : 最大取水量(m^3/s) X_2 : 年間総取水量(万 m^3) X_3 : 計画高水量(m^3/s) X_4 : 流域面積(Km^2) X_5 : セキ上高(m) X_6 : セキ全長(m) (排水機場) X_1 : 常時排水量(m^3/s) X_2 : 計画排水量(m^3/s) X_3 : 年間総排水量($10^3 m^3$) X_4 : 総口径(mm) X_5 : 集水面積(ha)	施設規模の評点は各々次式による。			(用水機場)
	$Y_D = \{(Z_D) \times 10 + 20\} \times 50$ $\times 1/16.5212$ ただし Z_D の値は次のとおり $Z_D = -1.6676 + 0.06375 X_1$ $+ 0.02309 X_2 + 0.01512 X_3$ $+ 0.005685 X_4 + 0.002863 X_5$ $+ 0.03282 X_6 + 0.003149 X_7$	$Y_W = \{(Z_W) \times 10 + 20\} \times 50$ $\times 1/17.5318$ ただし Z_W の値は次のとおり $Z_W = -1.5976 + 0.04107 X_1$ $+ 0.000038554 X_2$ $+ 0.0003182 X_3$ $+ 0.0006648 X_4 + 0.03866 X_5$ $+ 0.005431 X_6$	$Y_P = \{(Z_P) \times 10 + 20\} \times 50$ $\times 1/19.15125$ ただし Z_P の値は次のとおり $Z_P = -1.1524 + 0.05970 X_1$ $+ 0.03955 X_2$ $+ 0.000009363 X_3$ $+ 0.0002427 X_4$ $+ 0.0001646 X_5$	ア. 契約KW数 エンジンの場合は次式により算定する。 KW = 0.7355ps 300KW 超 5 ～ 300 4 ～ 200 3 ～ 100 2 ～ 50 1 小計 (× 6.667) イ. 年間総取水量 1,000 万 m^3 超 5 ～ 1,000 4 ～ 800 3 ～ 600 2 ～ 400 1 小計 (× 6.667) ウ. 全揚程 100 m 超 5 ～ 100 4 ～ 70 3 ～ 50 2 ～ 20 1 小計 (× 6.667)
施設規模の評点	($Y_D \div 50$)	($Y_W \div 50$)	($Y_P \div 50$)	(以上基礎点合計÷50)

施設 番号	地区名	施設名	施設の概要	総合 評点	施設 所在地	管理 主体名	管理主体の 住所	対策費	対策費負担区分				施設あたり指導 担当技術者数	
									国	県	受益数	その他	人数	日数
								千円	千円 (%)	千円 (%)	千円 (%)			

[illegible][illegible][illegible]

施設の概要	建設事業主体	建設年度	総合評点	施設の所在地	管理主体名	管理主体住所	備考
管理施設の整備水準							
管理方法							
		年					

2-3 施設調書（排水機場）

施設 番号	地区名	施設名	施 設 の 概 要										
			使用目的	受益面積	主ポンプの仕様			契約電力	内然機関	予備発電機の容量	計画排水量	常時排水量	集水面積
					型式	口径	台数						
				ha		mm	台	kW	PS	kVA	m³/s	m³/s	km²

施 設 の 概 要					建設 事業主体	建設年度	総合評点	施設の所在地	管理主体名	管理主体住所	備考
自然排水樋門の有無	管理施設の整備水準										
	管理方法	スクリーンの有無	除塵機の有無	焼却炉の有無							
						年					

2-4 施設調書（用水機場）

施設 番号	地区名	施設名	施 設 の 概 要											
			使用 目的	受益 面積	河川 区分	主ポンプの仕様			契約電力	内然機関	予備発電 機の容量	最大 取水能力	年間 総取水量	かんがい 期間
						型式	口径	台数						
				ha			mm	台	kW	PS	kVA	m³/s	百万 m³	月～ 月

施設の概要			建設 事業主体	建設年度	総合評点	施設の所在地	管理主体名	管理主体住所	備考
全揚程	水利使用 区分	管理施設の整備水準							
		操作制御方式							
m				年					

2-5 施設調査（管水路）

施設 番号	地区名	施設名	施 設 の 概 要													
			使用 目的	受益 面積	対象区間（最初の自由水面まで）			管水路の仕様			付帯施設				最大 流域	かんがいの 期間
					水源 施設名	終点調整 施設名	延長	型式	口径	管種	制水 弁	分水 工	通気 施設	その 他		
				ha			km		mm		ヶ所	ヶ所	ヶ所		m³/s	月～ 月

建設事業主体	建設年度	施設の所在地	管理主体名	管理主体住所	備考
	年				

2-6 施設調査（開水路）

施設 番号	地区名	施設名	施 設 の 概 要										
			使用 目的	受益 面積	対象 区間 延長	開水路の仕様			付帯施設			最大流域	かんがい 期間
						規格	分類	形式	調整施設	分水工	その他		
				ha	m		mm		ヶ所	ヶ所		m³/s	月～ 月

建設事業主体	建設年度	施設の所在地	管理主体名	管理主体住所	備考
	年				

3 指導計画書

施設 番号	施設名	総合 評点	施設別技術者指導予定日数				備考
			指導内容		指導者数	指導日数	
計							

実施年月	対象者	参加予定者数	実施内容

(記載要領)

- 1 「施設番号」の欄には、当該県の基幹水利施設保全管理技術向上研修実施予定施設につき、ダム施設は D、頭首工施設は W、排水 場は P、用水機場は U の頭記号を付して施設種別ごとに整理した番号を付する。
なお、一体管理施設にあつては、その必要が生じたもととなる対象施設の下段にそのもととなる施設の頭記号及び整理番号を付した上、管水路は k、開水路は o の頭記号及び整理番号を付する。
- 2 「施設名」の欄には、当該施設の固有名詞を含めた名称を記載する。
- 3 「施設の概要」の欄は、次のとおりとする。
ダム施設は、堤高(m)、堤長(m)、洪水吐ゲートの有無、予備発の容量(kVA)及び契約電力(kW)を記載する。
頭首工施設は、セキ長(m)、セキ上高(m)、洪水吐ゲートの有無、予備発の容量(kVA)及び契約電力(kW)を記載する。
排水機場施設は、型式、口径(mm)、台数(台)、自然排水の有無、予備発の容量(kVA)及び契約電力(kW)を記載する。
用水機場施設は、型式、口径(mm)、台数(台)、全揚程(m)、操作制御方法及び契約電力(kW)又は出力(PS)を記載する。
管水路施設は、型式、口径(m)、管種、水源から自由水面をもつ施設までの延長(km)及び付帯施設を記載する。
開水路施設は、幅(m)、高さ(m)、水路形式及び付帯施設を記載する。
- 4 「総合評点」の欄には、要領別紙4第2に規定する施設の要因の評点方法によって算出された総合評点を記載する。
- 5 「管理主体名」の欄には、当該施設を管理している土地改良区等を記載する。
- 6 「管理主体の住所」の欄には、5の管理主体の事務所の住所を記載する。

業 務 記 録 簿

担当技術者名

○ ○ ○ ○

	施設名	Tel ()	管理主体名	Tel ()	
	施設位置		管 理 事 務 所 住 所		
	施設の現場 担当責任者名		代表者名		
年 月 日	指導事項	処理事項	処理内容		
			処理事項	未処理事項	未処理事項の 今後処理予定

- 1
- 業務記録簿は、施設及び技術者別に作成し、各技術者が現地指導を行ったことについて記入する。
- 2
- 各技術者は、当日指導に当たった主要な事項について記入する。

〇〇県基幹水利施設保全管理技術向上研修申請書

番 号
年 月 日

都道府県知事 殿

〇〇県土地改良事業団体連合会会長

下記地区の基幹的水利施設について、〇〇年度から基幹水利施設保全技術向上研修を実施したいので、土地改良区体制強化事業実施要綱第 6 の 2 の（２）のイに基づき、基幹水利施設保全管理技術向上研修実施計画概要書を添付して申請します。

記

地 区 名	施 設 名	対 策 費	備 考
		千 円	

基幹水利施設保全管理技術向上研修採択通知書

番 号
年 月 日

都道府県知事 殿

農林水産省農村振興局長
地 方 農 政 局 長
内閣府沖縄総合事務局長

〇〇年〇〇月〇〇日付け〇〇号で申請のあった下記地区の基幹的水利施設について、事業実施地区として採
択したので通知する。

記

地 区 名	施 設 名	対 策 費	備 考
		千 円	

別紙様式第27号

○年度 年間研修計画

○○都道府県土地改良事業団体連合会

研修の種類	研修の課目	開催予定 年月日	開催 日数	時間	開催 予定地	研修対 象者数	費用の概算 (千円)
1 新規担当者研修							
2 換地計画実務研修							
3 換地委員等実務研修							

(記載要領)

- 1 研修の種類ごとに区分して記載する。また、同一研修を複数回開催する場合は、開催順に記載する。
- 2 「研修の課目」欄には、研修課目ごとに研修時間をカッコ書きで記載する。
- 3 「開催予定地」欄には、市町村名を記載する。
- 4 「研修対象者数」欄には、所属別に人数を記載する。
- 5 「費用の概算」欄には、当該研修に要する費用の概算を記載する。

別紙様式第28号

換地技術者等名簿

〇〇都道府県土地改良事業団体連合会
〇年4月1日

1 土地改良換地士

登録番号	区分	所属	現住所	氏名	年齢	備考

2 一般換地技術者

所属	現住所	氏名	年齢	経験年数	経験地区数	備考

(記載要領)

1 表の1

- (1) 本表は、土地改良法施行規則（昭和24年農林省令第75号。以下「規則」という。）第43条の2の3第1項に規定する試験に合格した者（以下「土地改良換地士」という。）について整理する。
- (2) 登録番号は、規則第43条の2の6第1項に規定する合格証書に付された番号とする。
- (3) 区分は、規則第43条の2の3第2項に規定する知識及び実務の試験の両方で合格した者をAとし、規則第43条の2の3第2項に基づき実務の試験を免除されて合格した者をBとする。
- (4) 現住所は、市町村名までとする。
- (5) 備考欄は、必要に応じ、経験地区数などの実務経歴等必要事項を記載する。

2 表の2

- (1) 本表は、土地改良換地士の資格を有さないが、過去に換地実務に携わったことがあり、今後も換地実務に携わる見込がある者について整理する。
- (2) 現住所は、市町村名までとする。
- (3) 経験年数及び経験地区数は、名簿作成時点において、換地実務に携わった年数及び地区数を記載する。

(作成注意)

本名簿作成にあたっては、個人情報保護に配慮するものとし、要綱第6の2の(4)で規定された目的以外には使用しないものとする。

換地処理見込表

〇〇都道府県土地改良事業団体連合会

1 換地処理予定地区の処理状況

助成区分		前年度末 換地処分未済量		本年度 面工事実施分		本年度末 換地処分完了		本年度末 換地処分未済量	
		換地区数	面積 (ha)	換地区数	面積 (ha)	換地区数	面積 (ha)	換地区数	面積 (ha)
一元化分	都道府県営								
	44年度以降 着工団体営								
	44年度以降 着工非補助分								
一元化前分									
合計		0	0	0	0	0	0	0	0

2 年度別面工事実施見込み表

助成区分 \ 年度	〇年度							
都道府県営								
団体営								
非補助（融資）								
合計	0	0	0	0	0	0	0	0

3 換地事務団体別処理能力

換地事務 処理区分		所属換地技術者等		最近3ヶ年の 換地事務量 (ha)	年間事務処理 能力の推定 (ha)	年間事務処理能 力の伸長見込 (ha)
		換地士	その他 換地技術者			
直営						
委託	地方連合会					
	市町村					
	〇〇会社					
	〇〇換地事務所					
	その他（個人等）					
合計		0	0	0	0	0

4 長期的換地事務処理見込み

年度 区分	○年度						
処理必要量	(ha)						
処理見込量							
処理不足量							

5 翌年度換地事務見込量

事業主体別 区 分		市町村名	地区名	面積 (ha)	着手又は処理を要する 換地処分事務	換地事務担当者の有無
新規着工地区	直 営 直営計	—			—	—
	委 託 委託計	—			—	—
	計		0	0		
継続地区	直 営 直営計	—			—	—
	委 託 委託計	—			—	—
	計		0	0		
合計			0	0		

6 翌年度処理団体別換地事務量

換地事務処理担当団体名	翌年度実施予定の換地事務	地区数（地区）	面積（ha）

7 換地事務処理の今後の方向

（１）長期的改善策	（２）翌年度の施策

(記載要領)

以下、表の1から7については、当該都道府県の換地処分の実態に応じて、より見やすくかつ整理しやすい表に変更して差し支えない。

1 表の1

- (1) 助成区分欄の「都道府県営」は、国の補助金等による都道府県営の換地を伴う土地改良事業をいう。
- (2) 「44年度以降着工団体営」は、国の補助金等による昭和44年度以降着工の団体営（構造改善事業及び経営構造対策事業等の補助による区画整理及び農地造成等を含む。）の換地を伴う土地改良事業をいう。
- (3) 「44年度以降着工非補助分」は、昭和44年度以降に上記の助成を受けないで着工した事業をいう。
- (4) 「一元化前分」は、上記（1）～（3）以外のもので換地事務を必要とする全ての地区とする。
- (5) 「前年度末換地処分未済量」は、換地区の全ての面工事を完了したものであって、前年度末までに換地処分が未了のものをいう。
- (6) 「本年度面工事实施分」は、本年度において換地区の全ての面工事を完了したものをいう。

2 表の2

「助成区分」は表1の記載方法に準ずる。年度は翌年度を初年度として8～10年を見込むものとする。

3 表の3

- (1) 「換地事務処理区分」は直営のほかは、地方連合会等の受託団体、換地業者及び個人別に記載する。
- (2) 「最近3ヶ年の換地事務量」は、換地認可又は決定のため最近3ヶ年間に都道府県に提出した換地計画書の面積を記載する。
- (3) 「年間事務処理能力の推定」は最近の換地事務の処理実績を勘案のうえ年間処理能力を推算して記載する。
- (4) 「年間事務処理能力の伸長見込」は最近の処理実績の伸び、処理能力の拡充等を勘案の上、新たに増加すると見込まれる面積を推算して記載する。

4 表の4

- (1) 本表の記載は、翌年度を初年度として表の1及び表の2から年間処理必要量を、また、表の3から処理見込量を推算して記載する。
- (2) 処理必要量は、前年度処理不足量に当該年度の面工事实施見込面積を加えたものとする。

5 表の5

- (1) 本表は翌年度において換地事務を必要とする地区について、新規着工及び継続地区に分けて記載する。
なお、継続地区については、直営の欄には換地技術者が不足している地区のみ記載し、委託の欄には、換地事務の委託を予定している場合で、かつ委託先が未定である地区についてのみ記載すればよい。
- (2) 「換地事務担当者の有無」は、直営の場合は担当技術者の有無及び人数、委託の場合は委託決定先（継続地区を除く。）を記載する。
- (3) 計及び合計の欄中、地区名の項には、地区数を記載する。

6 表の6

「換地事務処理団体名」には、直営については「直営」として一括して記載し、委託については、受託団体別に記載する。

7 表の7

- (1) 長期的改善策は、受益農地管理強化委員会が、上記資料等によって、今後、当該都道府県の換地処理団体の処理比重、換地技術者等の所属別増強等について検討した結果を記載する。
- (2) 翌年度の施策には、当該委員会が翌年度必要とする団体別換地技術者等の増強その他の具体的施策について検討の上、記載する。

基幹水利施設省エネルギー化技術実践向上研修実施計画書

1 概要

ふりがな 地区名	関係土地改良区			対策費用	指導担当技術者数	
	関係土地改良区名	受益面積	受益農家数		人数	日数

2 指導計画

研修内容	研修内容別技術者指導予定日数			備考
	指導内容	指導者数	指導日数	
1 省エネルギー化推進の啓発				
2 省エネルギー化推進の具体化に向けた現地指導と調査				
3 省エネルギー化の推進の基本構想の策定				
計				

研修会		
実施年月	対象者	参加予定者数

現地指導等対象施設			
施設名	施設の概要	管理主体名	管理主体の住所

(記載要領)

- 「関係土地改良区」の欄には、複数の土地改良区がある場合、全ての土地改良区に関して記載する。
- 「施設名」の欄には、当該施設の固有名詞を含めた名称を記載する。
- 「施設の概要」の欄は、次のとおりとする。

ダム施設は、堤高(m)、堤長(m)、洪水吐ゲートの有無、予備発の容量(KVA)及び契約電力(kw)を記載する。

頭首工施設は、セキ長(m)、セキ上高(m)、洪水吐ゲートの有無、予備発の容量(KVA)及び契約電力(kw)を記載する。

排水機場施設は、型式、口径(mm)、台数(台)、自然排水の有無、予備発の容量(KVA)及び契約電力(kw)を記載する。

用水機場施設は、型式、口径(mm)、台数(台)、全揚程(m)、操作制御方法及び契約電力(kw)又は出力(ps)を記載する。

管水路施設は、型式、口径(m)、管種、水源から自由水面をもつ施設までの延長(km)及び付帯施設を記載する。

開水路施設は、幅(m)、高さ(m)、水路形式及び付帯施設を記載する。

- 「管理主体名」の欄には、当該施設を管理している土地改良区等を記載する。
- 「管理主体の住所」の欄には、3の管理主体の事務所の住所を記載する。

別紙様式第 31 号

〇〇県基幹水利施設省エネルギー化技術実践向上研修申請書

番 号
年 月 日

都道府県知事 殿

〇〇県土地改良事業団体連合会会長

下記地区について、〇〇年度から基幹水利施設省エネルギー化技術実践向上研修を実施したいので、土地改良区体制強化事業実施要綱第 6 の 2 の（５）のイに基づき、基幹水利施設省エネルギー化技術実践向上研修実施計画書を添付して申請します。

記

地区名	対策費	備考
	千円	

別紙様式第 32 号

基幹水利施設省エネルギー化技術実践向上研修採択通知書

番 号
年 月 日

都道府県知事 殿

農林水産省農村振興局長
地 方 農 政 局 長
内閣府沖縄総合事務局長

〇〇年〇〇月〇〇日付け〇〇号で申請のあった下記地区について、事業実施地区として採択したので通知する。

記

地区名	対策費	備考
	千円	

業 務 記 録 簿

担当技術者名 ○○○○

研修内容	(1) 省エネルギー化推進の啓発 (2) 省エネルギー化推進の具体化に向けた現地指導と調査 (3) 省エネルギー化の推進の基本構想の策定
年月日	
指導事項	

- 1 業務記録簿は、研修内容及び技術者別に作成し、各技術者が指導を行ったことについて記入する。
- 2 各技術者は、当日指導に当たった主要な事項について記入する。
- 3 研修内容は、(1)～(3)の該当するものを選び記載する。
- 4 当日指導に当たって使用した資料を添付する。

別紙様式第 34 号

特定被災土地改良区復興計画

1. 特定大規模災害等の名称

2. 対象となる土地改良区の概要

土地改良区名	受益面積	組合員数	事業実施期間	備考
			○年度～○年度	

受益面積・組合員数は○年○月現在

3. 被害等の状況

	被害等の状況	概要
☐	受益地の被害	
☐	土地改良施設の被害	
☐	土地改良区事務所の被害	
☐	業務書類・機器等の被害	

4. 土地改良区の業務運営の維持に必要な業務書類・機器等の復旧計画

(1) 業務書類の復旧計画

年度	書類の種類	復旧予定費用	助成予定額	備考
○年度				
○年度				
○年度				

(2) 機器等の復旧計画

年度	機器の種類	復旧予定費用	助成予定額	備考
○年度				
○年度				
○年度				

(注) 土地改良区の業務運営の維持に必要な業務書類・機器等の復旧計画については、別途、費用の積算に用いた資料を添付するものとする。

別紙様式第 35 号

〇〇年度土地改良区体制強化事業補助金交付決定前着手届

〇〇農政局長 殿

(事業主体名) 〇〇〇〇

土地改良区体制強化事業実施要領(平成 28 年 4 月 1 日付け 27 農振第 2430 号農林水産省農村振興局長通知)第 8 の規定に基づき、土地改良区体制強化事業に基づく別添事業について、下記条件を了承の上、交付決定前に着手したいので、着手届を提出する。

記

- 1 補助金交付決定を受けるまでの期間内に、天変地異等の事由によって実施した事業に損失を生じた場合、これらの損失は、事業主体が負担すること。
- 2 補助金交付決定を受けた補助金額が、交付申請又は交付申請予定額に達しない場合においても、異議がないこと。
- 3 着手から補助金交付決定を受けるまでの期間内においては、計画変更は行わないこと。

別添

事業の内容	着手予定年月日	完了予定年月日	理 由

別紙様式第 36 号

○年度施設・財務管理強化対策実績報告書

〇〇都道府県土地改良事業団体連合会

1 管理運営体制強化委員会

(1) 委員会の構成

氏 名	所属及び役職名

(2) 開催状況等

区 分	開催年月日	出 席 状 況	検 討 項 目 等
第〇回目		出席〇名、欠席〇名	

2 土地改良施設の診断・管理指導

(1) 土地改良施設の診断・管理指導に従事した管理専門指導員の氏名及び所属

氏 名	所属及び役職名

(2) 診断・管理指導内容等

土地改良 区 等 名	対象施設 の 種 目	診断事項	指導内容	指導の時期 (月 日 ～ 月 日)	定期診断指導又は 要請診断指導の別
計				延日数	

注：1 都道府県から地方農政局（沖縄県にあっては内閣府沖縄総合事務局、北海道にあっては農村振興局）への報告にあたっては、上表のほか別記付表の集計表を添付すること。

2 「延日数」とは、現地における診断・管理指導に要した延日数であって、内業に要した日数は含まない。

別記付表

区 分	診断・管理指導土地改良区等数					診断・管理指導施設数						指導延日数	備 考
	改良区	農協			計	ダ ム	頭首工	揚水機			計		
定期診断指導													
要請診断指導													
計													

注：「延日数」とは、現地における診断・管理指導に要した延日数であって、内業に要した日数は含まない。

3 土地改良施設の管理等に関する苦情・紛争等の対策

(1) 土地改良事業に関する苦情・紛争等対策

ア 相談指導員等

所 属	相談指導員名

イ 苦情・紛争対策専門家の委嘱

区 分	氏 名

注：「区分」欄には、委嘱した専門家の区分（弁護士、公認会計士等）を記載すること。

ウ 相談開催回数

回

エ 相談事案別件数

事 案 分 類	件 数	処理方法（最終処理）			備 考
		文書回答	面接	現地指導	
	件	件	件	件	

分類例：①土地改良事業に関する苦情・紛争への対応、②土地改良事業計画の作成・工事実施に関する指導、③事業主体の組織運営上の指導、④土地改良施設の管理に関する指導、⑤農業水利に関する指導、⑥土地改良法令に関する指導、⑦換地処分その他農用地集団化に関する指導、⑧その他、等

オ 相談事案別相談者別件数

事 案 分 類	改良区	市町村	農 協	数人共同施行	個 人	その他	計
	件	件	件	件	件	件	件

注：事案分類は4の分類と同じ分類とすること。

4 財務管理強化に関する指導等

(1) 財務管理強化相談業務

相 談 区 分	件 数	うち会計指導員と の連携処理件数	備 考
① 複式簿記会計の有効活用	件	件	
② 指導監査の導入			
③ 非補助土地改良事業の推進活動			
④ その他の会計経理の課題			

(記載要領)

- 1 電子メール、電話、面談及び現地指導等による相談対応件数を記載すること。
- 2 地方連合会に配置する会計の専門家（土地改良区体制強化事業実施要綱（平成 28 年 4 月 1 日付け 27 農振第 2429 号農林水産省農村振興局長通知）第 3 の 4 の（3））との連携による相談対応件数は含まれないことに留意すること。

(2) 非補助土地改良事業推進支援

ア 研修会・担当者会議

(ア) 担当者研修会

主たる研修会名	開催月日	開催場所	研修テーマ	参加者数等		備考
				改良区数	人数	

(イ) 担当者会議

主たる会議名	開催月日	開催場所	議題(テーマ)	参加者数等		備考
				改良区数	人数	

イ 現地推進指導活動

区 分	実 施 年月日	実施テーマ	同行 者数	巡回指導対象先名称	
					国県営事業地区該当の有無
第 回 目			名		
第 回 目			名		
第 回 目			名		
第 回 目			名		
第 回 目			名		

同行者の所属組織の名称	
-------------	--

ウ その他の推進指導活動

実施 年月日	手 法	具体的内容	対 象 先

5 複式簿記会計に関する巡回指導

土地改良 区（連合）	現地指 導回数	現地指導実施者（人）				その他 指導回数	その他指導実施者（人）				合計指 導回数	貸借対照 表作成 要否	複式簿記 導入年度 （予定）	備考
		会計指 導員	会計の 専門家	地方連 合会	合計		会計指 導員	会計の 専門家	地方連 合会	合計				

注：1 表の1行につき、1土地改良区に対する巡回指導の実績について記載すること。

2 「現地指導回数」欄及び「その他指導回数」欄には、1土地改良区当たりの指導の総回数をそれぞれ記載することとし、合計を「合計指導回数」欄に記載すること。

3 「現地指導実施者」欄及び「その他指導実施者」欄には、表の区分ごとに、指導に当たった延べ人数を記載すること。なお、「地方連合会」欄には、会計指導員の資格を有しない地方連合会の職員について記載すること。

4 「貸借対照表作成要否」欄には、土地改良法（昭和24年法律第195号）第29条の2第1項及び土地改良法施行規則（昭和24年農林省令第75号）第25条の2の規定に基づき、貸借対照表の作成の要否について記載すること。

5 「複式簿記導入年度（予定）」欄には、複式簿記会計の導入年度又は導入予定年度を記載すること。

6 財務管理強化相談業務

相談区分	件数				備考
		公認会計士	税理士 （法人を含む）	監査法人	
複式簿記会計の有効活用	件	件	件	件	

（記載要領）

1 電子メール、電話、面談及び現地指導等による相談対応件数を記載すること。

2 財務管理強化相談業務（土地改良区体制強化事業実施要綱（平成28年4月1日付け27農振第2429号農林水産省農村振興局長通知）第3の4の（2））のうち、地方連合会に配置する会計の専門家（同要綱第3の4の（3））との連携による相談対応件数のみを記載すること。

3 複式簿記会計に関する巡回指導による相談対応は含まれないことに留意すること。

7 土地改良区再編促進モデル事業

(1) 事務連合早期設立支援モデル構築

ア コーディネーターの所属及び氏名

所属	氏名

イ 土地改良区連合の状況

土地改良区連合名	共同で行う事務等の概要	役員数			議員定数	職員数			備考
		理事	監事	計		専任	兼任	計	

ウ 所属土地改良区の状況

土地改良区名	地区面積	組合員数	事業概要	事業形態別分類	職員数			備考
					専任	兼任	計	
計								

エ 土地改良区連合の設立契約の締結年月日

オ 設立認可年月日

(記載要領)

- 1 「地区面積」及び「組合員数」の「計」欄には、実数を括弧書きで記載すること。
- 2 「備考」欄には関係市町村名を記載すること。

(2) 市町村単位での合併モデル構築

ア 地区名等

地区名 (市町村名)	関係土地改良区名	地区の概要

イ 事業実施期間 ○年度～○年度

ウ 合併推進協議会の構成

氏名	所属・役職

エ 合併推進協議会の開催状況

(ア) 開催状況

区 分	開催年月日	出席者名	検討項目
第 回目			

第 回目			
------	--	--	--

(イ) 検討内容

オ 地域実態調査等

(ア) 調査の内容

(イ) 調査結果

カ 合併推進計画の検討結果

注：1 土地改良区名は、事業の対象となる土地改良区の名称を記載すること。

2 エの（イ）の検討内容は、検討事項及び検討結果を協議会の開催ごとに取りまとめて記載すること。

(添付資料)

地域実態調査票

別紙様式第37号

○年度土地改良区体制強化事業実績報告書
(受益農地管理強化対策及び換地等技術向上研修)

○○都道府県土地改良事業団体連合会

1 受益農地管理強化対策

(1) 換地選定に関する指導

項目	合計	一般指導地区（内訳）				重点指導地区（内訳）			
		土地改良区等	市町村	その他	小計	土地改良区等	市町村	その他	小計
指導地区数	0				0				0
指導日数	0				0				0

(2) 換地処分未了地区等の解消に関する指導

指導地区数		内訳		
		前年度末現在で補助が打ち切られている地区数	本年度末で補助が打ち切られた地区数	換地処分未了地区等となるおそれのある地区数
()	()	()	()	()
()	()			()
区分	指導換地区名	指導対象団体名	指導の概要	指導日数

※別紙様式第9号の換地処分未了地区等指導台帳を添付すること。

(3) 財産管理制度等の活用に関する指導

ア 普及・啓発活動

対象地区名	対象団体名	普及・啓発活動の概要	活動日数

イ 制度活用指導

(ア) 換地業務の実施に支障が生じている地区

指導地区名	指導団体名	指導の概要	指導日数

(イ) 土地改良事業の実施に支障が生じている地区

指導土地改良区名	指導の概要	指導日数

ア 交換分合推進対策

対象地区名	対象団体名	助言・指導の概要	助言・指導日数

(ア) 本年度指導地区の実績

推進会議開催回数	換地専門指導員数	指導地区数		
指導地区名	指導の概要		指導日数	実施年/指導計画年

	地区数	地区の農 地面積 (ha)	担い手の 農地面積 (ha)	担い手の 農地集積率 (%)	農家 戸数	担い 手数
基盤整備事業実施前						
基盤整備事業実施後						
本対策実施前						
本対策実施後						

(1) 換地事務に関する研修

[illegible]

別紙様式第29号の換地処理見込表を添付すること。

[illegible]

(2) 交換分合に関する研修

交換分合実務研修及び講習の実績

区分	開催日数	受講者数（内訳）				
		農業委員会	土地改良区等	市町村	その他	合計
研修						0
講習						0

(記載要領)

- 1 日数はすべて0.5日単位で記載する。
- 2 表の1の(1)並びに2の(1)及び(2)
土地改良区等には、土地改良区連合を含む。
- 3 表の1の(1)
一般指導地区数には要領第3の2の(2)のアの地区を、重点指導地区数には要領第3の2の(2)のイの地区を記載する。
- 4 表の1の(2)
 - (1) 指導地区数欄は、上段に換地費の補助を受けている地区数を、下段に換地費の補助を受けていない地区数を記載するとともに、()書きで換地区数を併記する。
 - (2) 区分欄には、事業完了予定年度を越えているにも関わらず換地処分が未了の地区は「1」、1となるおそれのある地区は「2」と記載する。
 - (3) 換地費の繰り越しがあった場合は、繰り越された年度まで換地費の補助があったものとして整理する。
- 5 表の1の(4)のイの(イ)
別紙様式第10号の農用地利用集積推進対策地区調書を集計して記載する。
- 6 表の2の(1)のア
 - (1) 別紙様式第28号の換地技術者等名簿を基に作成する。
 - (2) 3年未満、3年以上は経験年数区分である。
 - (3) 土地改良区等には、土地改良区連合を含む。
 - (4) 換地業者等には、個人も含む。

別紙様式第38号

○年度土地改良区体制強化事業実績報告書
(受益農地管理強化対策)

○○土地改良区

1 所在等不明共有者の持分の取得又は譲渡を活用した場合

土地の所在	登記 地目	用途	地積 (㎡)	活用の 目的	取得又 は譲渡 の年月 日	備考

2 所有者不明土地管理制度を活用した場合

土地の所在	登記 地目	用途	地積 (㎡)	管理人 の選任 の年月 日	選任さ れた管 理人	選任の 目的	管理人 の選任 取消の 年月日	余剰財 産の供 託金額	備考

(記載要領)

表の1

- (1) 1筆につき1行で整理する。
- (2) 土地の所在欄には、市町村名以下字名まで記載する。(例：○○市○○字○○)
- (3) 活用の目的欄には、「取得」又は「譲渡」のいずれかを記載する。
- (4) 備考欄には、参考となる情報を適宜記載する。

表の2

- (1) 1筆につき1行で整理する。
- (2) 土地の所在欄には、市町村名以下字名まで記載する。(例：○○市○○字○○)
- (3) 選任された管理人欄には、「弁護士」「司法書士」「行政書士」「当該土地の所有者の親類縁者」「当該土地の近隣者」「事業関係者」「その他」から選んで記載する。「その他」の場合は備考欄に具体的に記載する。
- (4) 選任の目的欄には、「○○事業同意」(○○には事業種(維持管理等)を記載)「賦課徴収」「売買」「中間管理権の設定」「その他」から選んで記載する(複数回答可)。「その他」の場合は備考欄に具体的に記載する。
- (5) 余剰財産の供託金額欄には、余剰財産が供託された場合にその金額を記載する。
- (6) 備考欄には、(3)、(4)のほか、参考となる情報を適宜記載する。

別紙様式第 39 号

○年度統合再編整備事業（統合整備）実績報告書

（合併の場合）

○○都道府県○○地区（Ⅰ型・Ⅱ型・Ⅲ型、水系単位・市町村単位・その他別）

○○土地改良区

1 事業実施期間

2 実施結果

（1）合併前後の状況

区分	土地改良区	地区 面積	組合 員数	事業 概要	事業形態 別分類	役員数		総代数	職員数			合併の方法 (新設又は吸収の別)	備考
						理事	監事		専任	兼任	計		
合併前													
計													
合併後													

（2）合併契約の締結及び附帯施設整備費（水管理等施設整備、業務運営合理化施設整備、管理施設情報電子化整備）補助金の交付年月日

（3）合併認可年月日

（4）附帯施設整備の完了年月日

（5）附帯施設整備の概要

- ① 水管理等施設整備（対象施設の種類、名称、整備内容、事業費等）
- ② 業務運営合理化施設整備（整備した機器の名称、数量、価格等）
- ③ 管理施設情報電子化整備（整備内容、事業費等）

（注）1 本報告書は、地区ごとに別葉とすること。

2 事業実施年度、附帯施設整備費補助金の交付年度及び附帯施設整備の完了年度が異なる場合には、その年度ごとに本報告書を作成すること。

3 附帯施設整備の完了年度においては、統合整備計画書、合併契約書の写し及び合併前後の地区の関係を示す略図を添付すること。

4 合併前の「地区面積」及び「組合員数」の「計」欄には、実数を括弧書きで記載すること。

5 「備考」欄には、関係市町村名を記載すること。

(土地改良区連合の設立の場合)

〇〇都道府県〇〇地区（Ⅰ型・Ⅱ型・Ⅲ型、水系単位・市町村単位・その他別）

〇〇土地改良区
(〇〇土地改良区連合)

1 事業実施期間

2 実施結果

(1) 土地改良区連合及び所属土地改良区の状況

区分	事業又は事務の概要	職員数			備考
		専任	兼任	計	
土地改良区連合の状況					

区分	土地改良区名	地区面積	組合員数	事業等概要	事業形態別分類	職員数			備考
						専任	兼任	計	
所属土地改良区の状況									
計									

(2) 土地改良区連合の設立契約の締結及び附帯施設整備費（水管理等施設整備、業務運営合理化施設整備、管理施設情報電子化整備）補助金の交付年月日

(3) 設立認可年月日

(4) 附帯施設整備の完了年月日

(5) 附帯施設整備の概要

- ① 水管理等施設整備（対象施設の種類、名称、整備内容、事業費等）
- ② 業務運営合理化施設整備（整備した機器の名称、数量、価格等）
- ③ 管理施設情報電子化整備（整備内容、事業費等）

(注) 1 本報告書は、地区ごとに別葉とすること。

2 事業実施年度、附帯施設整備費補助金の交付年度及び附帯施設整備の完了年度が異なる場合には、その年度ごとに本報告書を作成すること。

3 附帯施設整備の完了年度においては、統合整備計画書、土地改良区連合の設立契約書の写し及び設立前後の地区の関係を示す略図を添付すること。

4 「地区面積」及び「組合員数」の「計」欄には、実数を括弧書きで記載すること。

5 「備考」欄には、関係市町村名を記載すること。

(合同事務所の設置の場合)

〇〇都道府県〇〇地区（合同事務所）

〇〇土地改良区

1 事業実施期間

2 実施結果

(1) 合同事務所設置前後の状況

区 分	土地改良区名	地区 面積	組合 員数	事業概要	事業形態 別 分 類	職 員 数			備 考
						専任	兼任	計	
関係土地 改良区の 状況									
計									

区 分	設 置 の 方 法	職 員 数			備 考
		専任	兼任	計	
合同事務 所の状況					

(2) 合同事務所の設置契約の締結及び附帯施設整備費（業務運営合理化施設整備）補助金の交付年月日

(3) 合同事務所設置年月日

(4) 附帯施設整備の完了年月日

(5) 附帯施設整備（業務運営合理化施設整備）の概要、整備した機器の名称、数量、価格等

(注) 1 本報告書は、地区ごとに別葉とすること。

2 事業実施年度、附帯施設整備費補助金の交付年度及び附帯施設整備の完了年度が異なる場合には、その年度ごとに本報告書を作成すること。

3 附帯施設整備の完了年度においては、統合整備計画書、合同事務所の設置契約書の写し及び合同事務所設置後の事務局の組織機構図を添付すること。

4 「地区面積」及び「組合員数」の「計」欄には、実数を括弧書きで記載すること。

5 「設置の方法」欄には、事務所を独立して設置したか、市町村役場等に併設する方法によったか等の別を「独立設置」、「市町村役場併設」、「農協事務所併設」等と記載すること。

6 「備考」欄には、関係市町村名を記載すること。

別紙様式第 40 号

○年度統合再編整備事業（管理再編整備）実績報告書

○○土地改良区

1 事業実施期間 ○年度～○年度

2 管理再編整備検討委員会の構成

氏 名	他 の 役 職

3 管理再編整備検討委員会の開催状況

（1）開催状況

区 分	開催年月日	出 席 委 員 名	検 討 項 目
第 回			
第 回			

（2）検討内容

4 地域実態調査

（1）調査の内容

（2）調査結果

5 管理再編整備計画の概要

6 附帯施設整備の実施内容

（1）水管理等施設整備

（2）業務運営合理化施設整備

（注） 1 3の（2）の検討内容は、検討事項及び検討結果を委員会の開催ごとに取りまとめて記載すること。

2 6の（1）の水管理等施設整備は、対象施設の種類、名称、所在地、整備内容、事業費等を記載すること。

3 6の（2）の業務運営合理化施設整備は、対象機器の種類、名称、数量、取得時期、価格等を記載すること。

（添付資料）

1 地域実態調査票

2 管理再編整備計画書（参考例を参照のこと。）

(参考例)

管理再編整備計画書の記載例

I 施設管理再編計画

1 施設管理の再編の基本方向

集落管理組織の機能低下、隣接地域の地区編入等に伴う施設管理の再編の基本的な考え方について記述する。

2 施設管理の現状

基幹的施設及び末端施設の管理の状況、組合員等の意向調査等を踏まえて施設管理の現状について記述する。

3 施設管理に関する計画

(1) 用水施設関係

① 用水施設の種類別に名称、位置、規模、構造等について記述する。

② 営農状況、水利用の実態、施設管理の現状等を踏まえて、用水施設ごとの取水時期、配水時期、用水量、受益面積、配水方法等を記述する。

(2) 排水施設関係

① 排水施設の種類別に名称、位置、規模、構造等について記述する。

② 営農状況、水利用の実態、施設管理の現状等を踏まえて、排水施設ごとの排水時期、排水量、排水面積、排水方法等を記述する。

(3) その他施設関係

4 施設整備に関する計画

施設ごとの点検整備の時期及び方法、整備補修の時期及び資金計画等について記述する。

5 関係機関との調整に関する計画

管理区分の再編等に伴い必要となる市町村等関係機関との調整方法について記述する。

6 その他必要な事項

II 管理組織再編計画

1 管理組織の現状

施設管理の状況、夫役の現状、組合員等の意向調査等を踏まえて管理組織の現状について記述する。

2 管理体制の整備に関する計画

施設管理再編計画、営農状況、水利用の実態等に即した土地改良区職員の配置替、管理技術者の育成等の管理体制の整備計画について記述する。

3 下部組織の再編に関する計画

施設管理再編計画、組合員等の意向調査等を踏まえて下部組織の再編について記述する。

4 その他必要な事項

III 附属資料

1 管理再編整備計画図面

2 管理体制模式図

別紙様式第 41 号

○年度統合再編整備事業（土地利用再編整備）実績報告書

○○土地改良区理事長

○○市町村長

○○都道府県土地改良事業団体連合会会長

1 事業実施期間 ○年度～○年度

2 土地利用再編整備検討委員会の構成

氏 名	他 の 役 職

3 土地利用再編整備検討委員会の開催状況

（1）開催状況

区 分	開催年月日	出 席 委 員 名	検 討 項 目
第 回			
第 回			

（2）検討内容

4 地域実態調査

（1）調査の内容

（2）調査結果

5 土地利用再編整備計画の概要

6 附帯施設整備の実施内容

（1）水管理等施設整備

（2）業務運営合理化施設整備

（注） 1 3の（2）の検討内容は、検討事項及び検討結果を委員会の開催ごとに取りまとめて記載すること。

2 6の（1）の水管理等施設整備は、対象施設の種類、名称、所在地、整備内容、事業費等を記載すること。

3 6の（2）の業務運営合理化施設整備は、対象機器の種類、名称、数量、取得時期、価格等を記載すること。

（添付資料）

1 地域実態調査票

2 土地利用再編整備計画書（参考例を参照のこと。）

(参考例)

土地利用再編整備計画書の記載例

I 土地利用再編計画

1 施設管理の再編の基本方向

土地利用の変化等に伴う施設管理の再編の基本的な考え方について記述する。

2 施設管理の現状

基幹的施設及び末端施設の管理の状況、組合員等の意向調査等を踏まえて施設管理の現状について記述する。

3 施設管理に関する計画

(1) 用水施設関係

① 用水施設の種別別に名称、位置、規模、構造等について記述する。

② 営農状況、水利用の実態、施設管理の現状等を踏まえて、用水施設ごとの取水時期、配水時期、用水量、受益面積、配水方法等を記述する。

(2) 排水施設関係

① 排水施設の種別別に名称、位置、規模、構造等について記述する。

② 営農状況、水利用の実態、施設管理の現状等を踏まえて、排水施設ごとの排水時期、排水量、排水面積、排水方法等を記述する。

(3) その他施設関係

4 施設整備に関する計画

施設ごとの点検整備の時期及び方法、整備補修の時期及び資金計画等について記述する。

5 関係機関との調整に関する計画

管理区分の再編等に伴い必要となる市町村等関係機関との調整方法について記述する。

6 その他必要な事項

II 管理組織再編計画

1 管理組織の現状

施設管理の状況、夫役の現状、組合員等の意向調査等を踏まえて管理組織の現状について記述する。

2 管理体制の整備に関する計画

土地利用再編計画、営農状況、水利用の実態等に即した土地改良区職員の配置替、管理技術者の育成等の管理体制の整備計画について記述する。

3 下部組織の再編に関する計画

土地利用再編計画、組合員等の意向調査等を踏まえて下部組織の再編について記述する。

4 その他必要な事項

III 附属資料

1 土地利用再編整備計画図面

2 管理体制模式図

○年度統合再編整備事業（統合整備）実施結果報告書

○○都道府県

事業 実施期間	区 分 (合併、土地改良区連合の設 立又は合同事務所の設置)	土地改良区		統合整備基 本計画等の 位置付け	合併又は土地改良 区連合の設立の認 可若しくは合同事 務所の設置年月日	附 帯 施 設 整 備								備考	
		合併前	合併後			水管理等施設整備			業務運営合理化施設整備			管理施設情報電子化整備			
						施設の種類	整備内容	事業費	機器の種類	数量	価格	整備内容	事業費		

(注) 土地改良区連合の設立又は合同事務所の設置の場合は、合併前の欄は空欄とし合併後の欄に土地改良区連合の所属土地改良区又は合同事務所の関係土地改良区の名称を記載するものとする。

(添付資料) 統合再編整備事業（統合整備）実績報告書の写し

別紙様式第 43 号

○年度統合再編整備事業（管理再編整備）実施結果報告書

○○都道府県

土地改良区名	事務所所在地	事業実施期間	管 理 再 編 検 討 委 員 会		地域実態調査の概要	管 理 再 編 整 備							備 考
			計画の概要	附 帯 施 設 整 備									
				水管理等施設整備			業務運営合理化施設整備						
				施設の種類		整備内容	事業費	機器の種類	数量	価格			

（添付資料）統合再編整備事業（管理再編整備）実績報告書の写し

別紙様式第 44 号

○年度統合再編整備事業（土地利用再編整備）実施結果報告書

○○都道府県

土地改良区名	事務所所在地	事業実施期間	土地利用再編整備検討委員会		地域実態調査の概要	土地利用再編整備							備 考
			計画の概要	附 帯 施 設 整 備									
				水管理等施設整備			業務運営合理化施設整備						
				施設の種類		整備内容	事業費	機器の種類	数量	価格			
			開催回数	検討事項									

（添付資料）統合再編整備事業（土地利用再編整備）実績報告書の写し

別紙様式第 45 号

○年度統合整備重点指導地区に対する指導実績報告書

(都道府県名)

1 地区名等

地区名	関係土地改良区名	合併類型（水系・市町村・その他）

2 事業実施期間 ○年度～○年度

3 統合整備推進委員会の構成

氏 名	他 の 役 職

3 統合整備推進委員会の開催状況

(1) 開催状況

区 分	開催年月日	出 席 委 員 名	検 討 項 目
第 回 目			
第 回 目			

(2) 検討内容

4 地域実態調査等

(1) 調査の内容

(2) 調査結果

(3) 関係土地改良区に対する指導等の実施状況

5 統合整備推進計画の策定方針又は概要

(注) 1 土地改良区名は、事業の対象となる土地改良区の名称を記載すること。

2 3の(2)の検討内容は、検討事項及び検討結果を委員会の開催ごとに取りまとめて記載すること。

(添付資料)

1 地域実態調査票

2 統合整備推進計画

○年度監査実務等向上研修実施結果報告書

○○都道府県土地改良事業団体連合会

開催月日	開催場所	講義内容		参 加 者 数					備 考
		課 目	時間数	土地改良区	土地改良事業 団体連合会	都道府県	市町村	その他	

(注) 「参加者数」欄の「その他」に該当する場合は、備考欄に所属を記載するものとする。

別紙様式第 47 号

○年度技術実践向上研修 実績報告書

事業主体

1 技術実践向上研修の実施状況

開催場所	開催年月日	開催回数	開催日数	受講者数			
				市町村	土地改良区等	その他	合計

2 技術実践向上研修の研修講義内容

[illegible]

3 協議回数状況

協 議 年月日	協 議 回 数	ブロック	参加者（内訳）				合計
			国	地方連合会	都道府県	その他	

（記載要領）

1 表の1

- （1）「土地改良区等」には、土地改良区連合も含む。
- （2）研修開催プログラム等については、別途添付のこと。

2 表の2

- （1）「講義内容」は、具体的な内容を記述すること。

3 表の3

- （1）ブロックは、例えば、北海道と東北農政局管内で行った場合、「北海道・東北」と記載すること。
- （2）協議した事項については、別紙添付のこと。

〇〇年度 基幹水利施設保全管理技術向上研修実績報告書

〇〇都道府県知事

〇〇年〇〇月〇〇日付け〇〇第〇〇号をもって、補助金の交付決定の通知があった基幹水利施設保全管理技術向上研修について、下記のとおり対策を実施したので、土地改良区体制強化事業実施要綱第 11 の 2 に基づき報告します。

記

1. 地区名
2. 指導日数及び人数等
- 2-1 指導・援助

施設 番号	施設名	総合 評点	施設別技術者指導日数				備考
			指導内容	指導人数	指導日数	延べ指導日数	
計							

- 2-2 技術講習

研修会名	開催年月	対象者	出席者数	研修内容

参加者名簿及び議事次第を添付すること。

〇〇年度 基幹水利施設省エネルギー化技術実践向上研修実績報告書

〇〇都道府県知事

〇〇年〇〇月〇〇日付け〇〇第〇〇号をもって、補助金の交付決定の通知があった基幹水利施設省エネルギー化技術実践向上研修について、下記のとおり対策を実施したので、土地改良区体制強化事業実施要綱第 11 の 2 に基づき報告します。

記

1. 地区名
2. 指導日数及び人数等
- 2-1 指導・援助

研修内容	研修内容別技術者指導予定日数			備考
	指導内容	指導者数	指導日数	
1 省エネルギー化推進の啓発				
2 省エネルギー化推進の具体化に向けた現地指導と調査				
3 省エネルギー化の推進の基本構想の策定				
計				

業務記録簿を添付する。

2-2 研修会

研修会名	開催年月	対象者	出席者数	研修内容

参加者名簿及び議事次第を添付する。

2-3 基本構想の策定

施設名	施設の概要	管理主体名	管理主体の住所	基本構想の概要

策定した基本構想を添付する。

○年度統合整備推進研修実施結果報告書

(事業主体名) ○○○○

統合整備推進研修

開催月日	開催場所	講義内容		参 加 者 数					備 考
		課 目	時間数	土地改良区	土地改良事業 団体連合会	都道府県	市町村	その他	

(注) 「参加者数」欄の「その他」に該当する場合は、備考欄に所属を記載するものとする。

別紙様式第 51 号

○年度施設管理研修（管理専門指導員研修及び整備補修事例検討会）実施結果報告書

（事業主体名）○○○○

1. 管理専門指導員研修

開催月日	開催場所	講 義 内		参 加 者 数					備 考
		課 目	時間数	土地改良事業 団体連合会	土地改良区	都道府県	市町村	その他	

（注）「参加者数」欄の「その他」に該当する場合は、備考欄に所属を記載するものとする。

2. 土地改良施設の整備補修事例検討会の開催

ブロック名	開催月日	開催場所	参 加 者 数				選定事例及び 検 討 内 容	備 考
			国	土地改良事業 団体連合会	その他	計		

（注）「検討項目」欄には、都道府県から選定した土地改良施設の整備補修事例及び診断・管理指導の技術の共有化を図るべきとした事例について記載するものとする。

別紙様式第 52 号

○年度施設管理研修（小水力等発電技術者育成研修）実施結果報告書

（事業主体名）○○○○

土地改良区体制強化事業実施要綱（平成 28 年 4 月 1 日付け 27 農振第 2429 号農林水産事務次官依命通知）第 11 の 3 に基づき、別紙のとおり事業実績報告書を提出します。

（要領）

事業実績報告書として、以下の書類を添付すること。

1. 事業実施計画書

（注 1）事業実績が、課題提案書から軽微な変更があった場合は、提案された課題提案書のコピーに変更箇所を加筆修正し、添付すること。

（注 2）事業実績が、課題提案書と同様の場合においては、「なお、事業実施内容等は、課題提案書と同様であった。」旨加筆し、課題提案書の添付は省略できる。

2. 支払経費ごとの内訳を記載した帳簿等の写し

3. 外部へ事業の一部を委託した場合は、委託契約書の写し

4. 本事業による成果を取りまとめた報告書

実施結果報告書は、紙媒体の報告書（1 部）と C D - R O M（1 枚）を添付すること。

○年度会計指導員育成研修実施結果報告書

(事業主体名) ○○○○

1 育成研修

開催月日	開催場所	育成研修内		受講者数						備考
		課目	時間数	土地改良事業 団体連合会	土地改良区 OB	国OB	地方公共団体 OB	その他	合 計	

(注) 「参加者数」欄の「その他」に該当する場合は、備考欄に所属を記載するものとする。

2 認定試験

開催月日	開催場所	受験者数						会計指導員 認定者数	備考
		土地改良事業 団体連合会	土地改良区 OB	国OB	地方公共団体 OB	その他	合 計		

(注) 「参加者数」欄の「その他」に該当する場合は、備考欄に所属を記載するものとする。

別紙様式第54号

○年度土地改良区体制強化事業実績報告書
(受益農地管理強化対策及び換地関係異議紛争処理実務研修)

事業主体

1 受益農地管理強化対策

(1) 財産管理制度等活用推進委員会

ア 委員会の構成

所属	役職	氏名

イ 委員会の開催状況

区分	開催年月日	出席委員	検討項目等
第 回			

ウ 検討内容

--

(2) 財産管理制度等活用実態調査

地区名	調査年月日	調査内容

※調査結果を別途添付すること。

(3) 財産管理制度等活用マニュアルの作成

※作成した財産管理制度等活用マニュアルを別途添付するものとする。

(4) 財産管理制度等の普及・啓発

対象地区名	活動年月日	活動内容

※本表は、財産管理制度等活用推進委員会による普及・啓発に関する検討結果により適宜修正するものとする。

2 換地関係異議紛争処理実務研修

開催場所	開催年月日	開催日数	ブロック名	参加者数（内訳）					
				地方連合会	土地改良区等	都道府県	市町村	その他	合計
									0
									0
									0
									0

3 地方連合会が行う換地処分未了地区等の解消に関する指導に対する助言等

（1）地方連合会から提出された換地処分未了地区等の解消に関する指導地区の処理方策

地方連合会名	換地区名	助言等の概要	助言等日数

（2）異議紛争の未然防止に関する事項

地方連合会名	助言等の概要	助言等日数

（記載要領）

1 表の1

- （1）受益農地管理強化対策の実績については、農村振興局長が別に定める公募要領に基づき選定された団体が当該年度に実施した事業の実績について報告する。
- （2）開催日数は0.5日単位で記載する。
- （3）土地改良区等には、土地改良区連合を含む。

2 表の2及び表3

日数は0.5日単位で記載する。

別紙様式第55号

○年度特定被災土地改良区復興支援対策実績報告書

1. 特定大規模災害等の名称

2. 事業認定状況

土地改良区名	事業実施期間	被害等の状況	備考
	○年度～○年度		

3. 実施状況

土地改良区名	業務書類・機器等 復旧助成額	備考
	円	

別添

(土地改良区体制強化事業実施要領第2の2の(5)のウ)

土地改良施設診断の評価基準

目 次

I. 適用区分等	1
1. 施設の分類	1
2. 評価方法	1
3. 各施設の評価基準の適用	2
4. 各評価区分ごとの評価点と整備補修の緊急度の関係	3
II. 各施設の評価基準	4
1. 水路	4
(1) 開水路(フルーム水路)の評価基準	4
(2) その他水路(矢板水路、柵渠水路)の評価基準	5
(3) その他水路(石積み、ブロック水路)の評価基準	5
(4) その他水路(ライニング水路)の評価基準	6
(5) 管水路(パイプライン)の評価基準	7
2. 頭首工、樋(水)門	8
頭首工(樋(水)門含む)の評価基準	8
3. 用排水機場	9
(1) 用排水機場の評価基準	9
(2) 建屋・土木構造物の評価基準	11
4. ため池・アースダム、コンクリートダム	12
(1) ため池・アースダムの評価基準	12
(2) コンクリートダムの評価基準	13
5. ゲート	14
(1) 油圧式ゲートの評価基準	14
(2) 鋼製ゲートの評価基準	15
(3) ゴム引布製起伏堰の評価基準	16
6. 各施設共通	17
(1) 鉄筋コンクリート構造物の評価基準	17
(2) 無筋コンクリート構造物の評価基準	17
(3) 電気設備の評価基準	18
(4) 塗装塗膜劣化の評価基準	19
(5) 水管理制御設備の評価基準	20
(6) ディーゼル機関の評価基準	21
(7) 除塵機の評価基準	22

I. 適用区分等

1. 施設の分類

(1) 土木構造物

鉄筋コンクリート・無筋コンクリート・石積み等で造られた構造物（用排水路、ダム、頭首工、水門の門柱等）。ため池、管水路、土水路、揚水機場の建屋を含む。
ただし、ゲート類、弁類等の機械施設及び受電盤、操作盤等の電気設備は除く。

(2) 機械施設

ポンプ、電動機、ディーゼル機関、空気圧縮機、除塵機（スクリーンを含む）、ゲート類（開閉装置含む）、弁類等

(3) 電気設備

受電盤、配電設備、操作盤、制御盤等。
T C・T M等の通信通報用設備

(4) 管理施設及び安全施設

管理橋、歩廊、階段工、防塵ネット等
手摺り、防護柵等の安全施設、水位計、流量計等の観測施設を含む。

2. 評価方法

用排水機場、ダム、頭首工等ほとんどの農業水利施設は、コンクリート構造物、機械施設、電気設備等の複合体であるので、評価はコンクリート構造物、機械施設、電気設備等に分類しそれぞれ行う。

3. 各施設の評価基準の適用

(1) 水路

- 1) 開水路(フルーム水路)の評価基準
- 2) その他水路(矢板水路、柵渠水路)の評価基準
- 3) その他水路(石積み、ブロック水路)の評価基準
- 4) その他水路(ライニング水路)の評価基準
- 5) 管水路(パイプライン)の評価基準
- 6) 各施設共通の評価基準

(2) 頭首工、樋(水)門

- 1) 頭首工(樋(水)門含む)の評価基準
- 2) 各施設共通の評価基準

(3) 用排水機場

- 1) 用排水機場の評価基準
- 2) 建屋・土木構造物の評価基準
- 3) 各施設共通の評価基準

(4) コンクリートダム、ため池・アースダムの評価基準

- 1) ため池・アースダムの評価基準
- 2) コンクリートダムの評価基準
- 3) 各施設共通の評価基準

(5) 各施設共通

- 1) 鉄筋コンクリート構造物の評価基準
- 2) 無筋コンクリート構造物の評価基準
- 3) 電気設備の評価基準
- 4) ゲートの評価基準
- 5) 塗装塗膜劣化の評価基準
- 6) 水管理制御設備の評価基準
- 7) ディーゼル機関の評価基準
- 8) 除塵機の評価基準

(6) その他留意事項

施設の状態を評価するにあたって、次の事項についても勘案する。

- ① 施設築造からの経過年数
- ② 漏水、事故歴
- ③ 補修履歴
- ④ 点検整備計画(定期点検か)
- ⑤ ポンプ等のメーカー及び電気主任技術者の改善指示
- ⑥ 補修材の有無(保管期間内か)
- ⑦ 事故による影響度(農業、農業以外)
- ⑧ ポンプ等製造メーカーの点検記録

4. 各評価区分ごとの評価点と整備補修の緊急度の関係

ダム、ため池、頭首工、水路等の工種について、各部位ごとに「評価基準」に従い施設の評価を行うこととするが、この「評価基準」に定めのない施設または部位を評価する場合は、本評価基準に準じて適宜評価を行うものとする。

また、評価点に応じて緊急度を以下の4段階に区分するものとする。

(評価点と緊急度の関係)

評価点	緊急度	左の内容
6	緊急度重大(k1)	機能低下が著しく、早急に整備補修を要するもの
4	緊急度 大(k2)	機能低下が見られ、整備補修の検討を要するもの
2	緊急度 中(k3)	経年的な機能低下傾向にあり、計画的な整備補修の検討を要するもの
0	緊急度 小(k4)	運用上支障はないが機能低下の兆候も出てきており、経過の観察を要するもの

Ⅱ．各施設の評価基準

1．水路

(1) 開水路（フルーム水路）の評価基準

区分	評価基準	k4 0点	k3 2点	k2 4点	k1 6点
水路 本体	① 最大ひび割れ幅	0.2mm未満	0.2～1.0mm	1.0mm以上	k2に該当するものが全体的
	② ひび割れ規模	—	—	0.2mm以上のひび割れ密度が50cm/m ² 以上	k2に該当するものが全体的
	③ ひび割れからの付随物、漏水	なし	—	錆汁、滲出し、漏水跡、滴水	流水、噴水
	④ コンクリートの浮き、剥離・剥落、欠損	なし	局所的	部分的	全体的
	⑤ コンクリートの摩耗・すりへり	細骨材露出	粗骨材露出	粗骨材剥落	—
	⑥ コンクリートの圧縮強度	21N/mm ² 以上	21～15N/mm ²	15N/mm ² 未満	—
	⑦ 目地の開き、段差、破損	なし	局所的	部分的	全体的
	⑧ 鉄筋の露出	なし	局所的	部分的	全体的
	⑨ 水路の変形、歪み、沈下、浮き上り、蛇行	なし	局所的	部分的	全体的
	⑩ 凍害の有無	なし	局所的	部分的	全体的
	⑪ 土砂の堆積	なし	局所的	—	堆積により取水に支障
周辺 地盤	① 背面土の空洞化、周辺地盤の陥没・ひび割れ	なし	局所的	部分的	全体的
	② 法崩れ、盛土カ所の沈下	なし	局所的	部分的	全体的
取水 分水 施設	① 構造物の沈下、亀裂・損傷	なし	局所的	部分的	全体的
	② ゲートの損傷等	ゲートの評価基準による			
	③ 電気設備	電気設備の評価基準による			
	④ 除塵設備	除塵機の評価基準による			
安全 施設	① フェンス等防護柵の欠損	なし	局所的	部分的	全体的
事故 歴等	① 施設築造からの経過年数	—	—	40年以上	—
	② 漏水、事故歴	なし	—	—	あり
	③ 事故による影響（農業、農業以外）	なし	—	—	あり

注1) 局所的とは、全体の10%未満で施設の当該変状が生じている状態。部分的とは全体の10%～50%未満を示し、全体的とは全体の50%以上を示す。

注2) 塗装、塗替えを必要とするゲート等の鋼材設備の評価は、「塗装塗膜劣化の評価基準」による。

(2) その他水路（矢板水路、柵渠水路）の評価基準

区分	評価基準	k4 0点	k3 2点	k2 4点	k1 6点
水路 本体	① 鋼矢板の腐食	表面的	剥離あり	開孔あり	—
	② 柵渠の折れ・はずれ コンクリート矢板の折れ・破損	なし	局所的	部分的	全体的
	③ 矢板、柵渠の沈下またはズレ	なし	5cm未満	5cm以上、変位 が部分的	5cm以上、変位 が全体的
	④ 矢板、柵渠の傾き、亀裂・損傷	なし	局所的	部分的	全体的
	⑤ 切梁、腹起こしのはずれ、損傷	なし	局所的	部分的	全体的
	⑥ 側壁からの漏水・湧水、土砂の吸出し	なし	局所的	部分的	全体的
	⑦ 水路底面の侵食・洗掘、矢板の露出	なし	局所的	部分的	全体的
	⑧ 土砂の堆積	なし	局所的	—	堆積により取水 に支障
	⑨ 目地の開き、段差	なし	局所的	部分的	全体的
周辺 地盤	① 背面土の空洞化、周辺地盤の陥没・ひび割れ	なし	局所的	部分的	全体的
	② 法崩れ、盛土カ所の沈下	なし	局所的	部分的	全体的
取水 分水 施設	① 構造物の沈下、亀裂・損傷	なし	局所的	部分的	全体的
	② ゲートの損傷等	ゲートの評価基準による			
	③ 電気設備	電気設備の評価基準による			
	④ 除塵設備	除塵機の評価基準による			
安全 施設	① フェンス等防護柵の欠損	なし	局所的	部分的	全体的
事故 歴等	① 施設築造からの経過年数	—	—	30年以上	—
	② 漏水、事故歴	なし	—	—	あり
	③ 事故による影響（農業、農業以外）	なし	—	—	あり

注1) 局所的とは、全体の10%未満で施設の当該変状が生じている状態。部分的とは全体の10%～50%未満を示し、全体的とは全体の50%以上を示す。

注2) 塗装、塗替えを必要とするゲート等の鋼材設備の評価は、「塗装塗膜劣化の評価基準」による。

(3) その他水路（石積み、ブロック水路）の評価基準

区分	評価基準	k4 0点	k3 2点	k2 4点	k1 6点
水路 本体	① ブロックのズレ・緩み・崩落	なし	局所的	部分的	全体的
	② ブロックの滑動・転倒（傾斜）・はらみ	なし	局所的	部分的	全体的
	③ 側壁からの漏水・湧水、土砂の吸出し	なし	局所的	部分的	全体的
	④ 不同沈下、背面空洞化	なし	局所的	部分的	全体的
	⑤ 水路底面の侵食・洗掘	なし	局所的	部分的	全体的
	⑥ 土砂の堆積	なし	局所的	—	堆積により取水 に支障
	⑦ 目地の開き、段差	なし	局所的	部分的	全体的
周辺 地盤	① 背面土の空洞化、周辺地盤の陥没・ひび割れ	なし	局所的	部分的	全体的
	② 法崩れ、盛土カ所の沈下	なし	局所的	部分的	全体的
取水 分水 施設	① 構造物の沈下、亀裂・損傷	なし	局所的	部分的	全体的
	② ゲートの損傷等	ゲートの評価基準による			
	③ 電気設備	電気設備の評価基準による			
	④ 除塵設備	除塵機の評価基準による			
安全 施設	① フェンス等防護柵の欠損	なし	局所的	部分的	全体的
事故 歴等	① 施設築造からの経過年数	—	—	30年以上	—
	② 漏水、事故歴	なし	—	—	あり
	③ 事故による影響（農業、農業以外）	なし	—	—	あり

注1) 局所的とは、全体の10%未満で施設の当該変状が生じている状態。部分的とは全体の10%～50%未満を示し、全体的とは全体の50%以上を示す。

注2) 塗装、塗替えを必要とするゲート等の鋼材設備の評価は、「塗装塗膜劣化の評価基準」による。

(4) その他水路（ライニング水路）の評価基準

区分	評価基準	k4 0点	k3 2点	k2 4点	k1 6点
水路 本体	① コンクリート部材のひび割れ、剥離、損傷	なし	局所的	部分的	全体的
	② 法面の沈下・変形	なし	局所的	部分的	—
	③ コンクリートライニングの割れ、剥がれ、パネルのズレ・緩み・欠損	なし	局所的	部分的	全体的
	④ 漏水・湧水	なし	—	漏水痕、滲出し、滴水	流水、噴水
	⑤ 水路底面の浮き上がり	なし	局所的	部分的	全体的
	⑥ 土砂の堆積	なし	局所的	—	堆積により取水に支障
	⑦ 目地の開き、段差	なし	局所的	部分的	全体的
周辺 地盤	① 背面土の空洞化、周辺地盤の陥没・ひび割れ	なし	局所的	部分的	全体的
	② 法崩れ、盛土カ所の沈下	なし	局所的	部分的	全体的
取水 分水 施設	① 構造物の沈下、亀裂・損傷	なし	局所的	部分的	全体的
	② ゲートの損傷等	ゲートの評価基準による			
	③ 電気設備	電気設備の評価基準による			
	④ 除塵設備	除塵機の評価基準による			
安全 施設	① フェンス等防護柵の欠損	なし	局所的	部分的	全体的
事故 歴等	① 施設築造からの経過年数	—	—	40年以上	—
	② 漏水、事故歴	なし	—	—	あり
	③ 事故による影響（農業、農業以外）	なし	—	—	あり

注1) 局所的とは、全体の10%未満で施設の当該変状が生じている状態。部分的とは全体の10%～50%未満を示し、全体的とは全体の50%以上を示す。

注2) 塗装、塗替えを必要とするゲート等の鋼材設備の評価は、「塗装塗膜劣化の評価基準」による。

(5) 管水路（パイプライン）の評価基準

区分	評価基準		k4 0点	k3 2点	k2 4点	k1 6点
管 体 埋設部	①	漏水、漏水痕（管上地盤）	なし	—	漏水痕がある	滲出しがある
	②	管上地盤のひび割れ、陥没	なし	局所的	部分的	—
管 体 露出部	①	管本体のたわみ、変形、損傷	なし	—	損傷がある	—
	②	管本体からの漏水	なし	—	—	漏水がある
	③	管継ぎ手の離脱、損傷	なし	—	損傷がある	離脱している
	④	管継ぎ手からの漏水	なし	—	—	漏水がある
弁類	①	損傷、摩耗	なし	錆がある	損傷がある	—
	②	異常音、振動	なし	—	異常な振動がある	—
	③	接合部からの漏水	なし	—	—	漏水がある
計器類	①	圧力計、流量計	規定の圧力 （流量）	—	—	動作、表示が 異常である
調 整 水槽等	①	調整水槽のひび割れ、亀裂	なし	局所的	部分的	全体的
	②	調整水槽の漏水	なし	—	—	漏水がある
	③	フロートデスクバルブの動作	正常	動作がにぶい	—	作動しない
	④	フェンス等防護柵の欠損	なし	局所的	部分的	全体的
コンクリート 構造物	①	鉄筋コンクリートの欠損等	「鉄筋コンクリート構造物の評価基準」による			
	②	無筋コンクリートの欠損等	「無筋コンクリート構造物の評価基準」による			
事故 歴等	①	施設築造からの経過年数	—	—	40年以上	—
	②	漏水、事故歴	なし	—	—	あり
	③	事故による影響（農業、農業以外）	なし	—	—	あり

注1) 局所的とは、全体の10%未満で施設の当該変状が生じている状態。部分的とは全体の10%～50%未満を示し、全体的とは全体の50%以上を示す。

注2) 塗装、塗替えを必要とする仕切弁、外蓋等の鋼材設備の評価は、「塗装塗膜劣化の評価基準」による。

2. 頭首工(樋(水)門含む)の評価基準

区分	評価基準	k4 0点	k3 2点	k2 4点	k1 6点
護床工	① ブロックの沈下、流出	なし	沈下些少	一部流出あり	流出により洗掘の恐れあり
	② 下流河床の洗掘	なし	局所的	部分的	全体的
取入口	① 網場、スクリーンの変形、腐食	なし	局所的	部分的	全体的
	② 土砂の堆積	なし	局所的	—	堆積により取水に支障
護岸工	① ブロック等の張出し、抜落ち	なし	局所的	部分的	全体的
管理施設	① 管理棟の変形、損傷	なし	局所的	部分的	全体的
	② 通信・電気設備の表示、作動	異常なし	—	—	動作、表示が異常である
	③ 観測施設(水位計、流量計)の表示、作動	異常なし	—	—	動作、表示が異常である
	④ 階段工コンクリート等の破損	なし	局所的	部分的	全体的
	⑤ 防護柵等の腐食、破損	なし	局所的	部分的	全体的
コンクリート 構造物	① 鉄筋コンクリートの欠損等	「鉄筋コンクリート構造物の評価基準」による			
	② 無筋コンクリートの欠損等	「無筋コンクリート構造物の評価基準」による			
ゲート 設備	① 扉体、戸当りの損傷等	「ゲートの評価基準」による			
	② 開閉装置の異常等				
電気設備	① 動力盤、機側操作盤等	「電気設備の評価基準」による			
事故歴等	① 施設築造からの経過年数	—	—	40年以上	—
	② 漏水、事故歴	なし	—	—	あり
	③ 事故による影響(農業、農業以外)	なし	—	—	あり

注1) 局所的とは、全体の10%未満で施設の当該変状が生じている状態。部分的とは全体の10%~50%未満を示し、全体的とは全体の50%以上を示す。

注2) 塗装、塗替えを必要とするゲート等の鋼材設備の評価は、「塗装塗膜劣化の評価基準」による。

3. 用排水機場

(1) 用排水機場の評価基準(1/2)

区分	評価基準	k4 0点	k3 2点	k2 4点	k1 6点
主ポンプ	① ケーシング（外観）	錆、損傷、塗装の剥がれなし	錆、塗装の剥がれあり	損傷がある	—
	② 主軸、羽根車等（回転体）	手で軽く回転する	—	手で円滑に回転しない	—
	③ 軸受振動（C P側、反C P側）	軽微	—	—	通常より異常な振動
	④ 軸受温度（C P側、反C P側）	周囲温度+40度以下	—	—	周囲温度+40度を超える
	⑤ 圧力計、流量計	規定の圧力（流量）である	—	—	動作、表示が異常である
	⑥ グランド部（運転中）	少量の封水が外に出ている	封水が外に出ている	高温になっている	煙が出ている
	⑦ 満水時間	通常時間で満水となる	通常より時間がかかる	通常より大幅に時間がかかる	—
	⑧ 運転音	異常音なし	—	—	キャビテーションの発生等危険な異常音がある
	⑨ 揚水量の低下	低下はなし	低下はあるが用水に支障は無い	—	低下により用水に支障が出ている
	⑩ 水漏れ、油漏れ	なし	水（油）漏れ跡がある	—	異常な水（油）漏れがある
電動機	① ケーシング・固定子（外観）	錆、損傷、塗装の剥がれなし	塗装の剥がれ、錆発生あり	温度上昇限度以上である	絶縁抵抗が1MΩ以下である
	② 軸受振動（C P側、反C P側）	軽微	—	—	通常より異常な振動
	③ 軸受温度（C P側、反C P側）	周囲温度+40度以下	—	—	周囲温度+40度を超える
	④ 運転音	異常音なし	—	—	異常音や焦げ臭い臭気がある
	⑤ 電圧計・電流計の作動及び表示	規定の電圧（電流）である	—	—	動作、表示が異常である
補助機	① ストレーナー	錆、損傷、塗装の剥がれなし	錆、塗装の剥がれあり	作動不良がある	著しい損傷がある
	② 給・封水ポンプ	軽く回転	—	回転が重い	—
	③ 真空ポンプ	軽く回転	—	回転が重い	—
	④ 場内排水ポンプ	異常なし	腐食がある	排水能力が低下している	自動運転ができない状態
	⑤ 圧力タンク	塗膜の劣化、漏れがない	塗膜の劣化がある	全体に腐食がある	漏れがある

(1) 用排水機場の評価基準(2/2)

区分	評価基準		A 0点	B 2点	C 4点	D 6点
弁 類	①	吸気用弁（電磁・電動） 注水用弁（電磁・電動）	漏れ、錆、腐食、作動に支障がない	錆がある	異常音がある	漏れがある、作動に支障がある
	②	吐出弁（仕切弁・蝶形弁、コントローラー）	漏れ、錆、腐食、作動に支障がない	錆がある	異常音がある	漏れがある、作動に支障がある
	③	逆止弁	漏れ、錆、腐食、作動に支障がない	錆がある	異常音がある	漏れがある、作動に支障がある
管 類	①	主配管（給水管・吐出管）	錆、腐食、漏水がない	錆がある	全体に腐食がある	穴等の損傷、漏水がある
	②	小配管（真空・封水）	錆、腐食、漏水がない	錆がある	全体に腐食がある	穴等の損傷、漏水がある
減 速 機	①	軸受振動（入力側、出力側）	軽微	—	—	通常より異常な振動
	②	運転音	異常音なし	—	—	異常音や焦げ臭い臭気がある
	③	油漏れ	なし	油漏れ跡がある	—	異常な油漏れがある
吸水槽	①	土砂の堆積	なし	局所的	—	堆積により取水に支障
建屋	①	屋根、外壁	「建屋・土木構造物の評価基準」による			
ゲ ー ト 設 備	①	扉体、戸当りの損傷等	「ゲートの評価基準」による			
	②	開閉装置の異常等				
電気設備	①	動力盤、機側操作盤等	「電気設備の評価基準」による			
事 故 歴 等	①	新設又は前回オーバーホールからの運転時間	—	—	10,000～20,000時間	20,000時間以上
	②	漏水、事故歴	なし	—	—	あり
	③	点検整備計画	—	—	定期的	—
	④	交換部品の有無	あり	—	—	なし
	⑤	ポンプ等メーカーの改善指示	なし	—	放置すると運転不可の恐れあり	早急に改善すること
	⑥	事故による影響（農業、農業以外）	なし	—	—	あり

注1) 局所的とは、全体の10%未満で施設の当該変状が生じている状態。部分的とは全体の10%～50%未満を示し、全体的とは全体の50%以上を示す。

注2) 塗装、塗替えを必要とするゲート等の鋼材設備の評価は、「塗装塗膜劣化の評価基準」による。

(2) 建屋・土木構造物の評価基準

区分	評価基準	k4 0点	k3 2点	k2 4点	k1 6点
土木構造物	① 最大ひび割れ幅	0.2mm未満	0.2～1.0mm	1.0mm以上	k2に該当するものが全体的
	② ひび割れ規模	—	—	0.2mm以上のひび割れ密度が50cm/㎡以上	k2に該当するものが全体的
	③ ひび割れからの付随物、漏水	なし	—	ひび割れからの錆汁、漏水の滲だしあり	ひび割れからの錆汁、流水、噴水あり
	④ コンクリートの浮き、剥離・剥落	なし	局所的	部分的	全体的
	⑤ 摩耗・すりへり	細骨材露出	粗骨材露出	粗骨材剥落	—
	⑥ 圧縮強度	21N/㎡以上	21～15N/㎡	15N/㎡未満	—
	⑦ 目地の開き、段差	なし	局所的	部分的	全体的
	⑧ 鉄筋の露出	なし	局所的	部分的	全体的
	⑨ 構造物の変形、歪み、沈下、蛇行	なし	局所的	部分的	全体的
	⑩ コンクリートの欠損	なし	局所的	部分的	全体的
	⑪ 凍害の有無	なし	局所的	部分的	全体的
	⑫ 背面土の空洞化、周辺地盤の陥没・ひび割れ	なし	局所的	部分的	全体的
建屋	① 建屋の柱・梁（RC構造）のひび割れ	なし	—	多数のひび割れがある	構造ひび割れがある
	② 外壁、内壁、屋根の防水材の捲り・剥離	なし	局所的	部分的	全体的
	③ 外壁、内壁、屋根の防水材からの漏水	なし	—	漏水跡、滲出し、滴水	—
	④ 外壁、内壁、屋根の目地の開き	なし	局所的	部分的	全体的
	⑤ 外壁、内壁、屋根の目地からの漏水	なし	—	漏水跡、滲出し、滴水	—
	⑥ 出入口ドア、シャッターの開閉、破損	異常なし	—	損傷がある	—

注) 局所的とは、全体の10%未満で施設の当該変状が生じている状態。部分的とは全体の10%～50%未満を示し、全体的とは全体の50%以上を示す。

4. ため池・アースダム、コンクリートダムの評価基準

(1) ため池・アースダムの評価基準

区分	評価基準		k4 0点	k3 2点	k2 4点	k1 6点
堤 池 体 敷	①	上流法面の洗掘・浸食	なし	局所的	部分的	全体的
	②	下流法面の亀裂、崩落	なし	局所的	部分的	全体的
	③	法面保護工の崩落、不陸	なし	局所的	部分的	全体的
	④	堤体天端の沈下	なし	沈下はあるが安定している	—	著しい沈下で貯水に影響
	⑤	漏水	なし	水漏れがあるが些少	60 $\frac{\text{リットル}}{\text{分}}$ /min/100mに近い漏水	60 $\frac{\text{リットル}}{\text{分}}$ /min/100m以上の漏水
	⑥	土砂の堆積	なし	局所的	—	堆積により貯水・取水に支障
取 水 設 施	①	取水塔・斜樋の損傷	なし	局所的	部分的	全体的
	②	底樋栓の損傷、変形、漏水	なし	—	損傷あり	漏水がある
余 水 吐 放 流 設 備	①	余水吐越流部の破損	なし	局所的	部分的	全体的
	②	余水吐放流部の損傷	なし	局所的	部分的	全体的
	③	放流バルブの損傷、変形	なし	—	損傷あり	—
	④	放流警報装置の作動	異常なし	—	—	作動しない
管理施設	①	管理棟の変形、損傷	なし	局所的	部分的	全体的
	②	通信設備の表示、作動	異常なし	—	—	動作、表示が異常である
	③	観測施設(水位計、流量計)の表示、作動	異常なし	—	—	動作、表示が異常である
	④	階段工コンクリート等の破損	なし	局所的	部分的	全体的
	⑤	防護柵等の腐食、破損	なし	局所的	部分的	全体的
コンクリート 構造物	①	鉄筋コンクリートの欠損等	「鉄筋コンクリート構造物の評価基準」による			
	②	無筋コンクリートの欠損等	「無筋コンクリート構造物の評価基準」による			
ゲート 設備	①	扉体、戸当りの損傷等	「ゲートの評価基準」による			
	②	開閉装置の異常等				
電気設備	①	動力盤、機側操作盤等	「電気設備の評価基準」による			
事故歴等	①	施設築造からの経過年数	—	—	80年以上	—
	②	漏水、事故歴	なし	—	—	あり
	③	事故による影響(農業、農業以外)	なし	—	—	あり

注1) 局所的とは、全体の10%未満で施設の当該変状が生じている状態。部分的とは全体の10%～50%未満を示し、全体的とは全体の50%以上を示す。

注2) 塗装、塗替えを必要とするゲート等の鋼材設備の評価は、「塗装塗膜劣化の評価基準」による。

(2) コンクリートダムの評価基準

区分	評価基準		k4 0点	k3 2点	k2 4点	k1 6点
池敷及び 堤体周辺	①	堤体周辺法面の亀裂、崩落	なし	局所的	部分的	全体的
	②	土砂の堆積	なし	局所的	—	堆積により貯水・取水に支障
取水施設	①	取水塔、スクリーンの損傷	なし	局所的	部分的	全体的
	②	導水管の損傷	なし	局所的	部分的	全体的
洪水吐 放流設備	①	取付水路の損傷	なし	局所的	部分的	全体的
	②	放流バルブの損傷・変形	なし	—	損傷あり	—
	③	放流警報装置の作動	異常なし	—	—	作動しない
操作設備 管理設備	①	操作、観測施設(水位計、流量計)の表示、作動	異常なし	—	—	動作、表示が異常である
	②	制御処理設備表示、作動	異常なし	—	—	動作、表示が異常である
	③	通信設備の表示、作動	異常なし	—	—	動作、表示が異常である
	④	防護柵等の腐食、破損	なし	局所的	部分的	全体的
	⑤	流木防止ネットの損傷	なし	局所的	部分的	—
コンクリート 構造物	①	鉄筋コンクリートの欠損等	「鉄筋コンクリート構造物の評価基準」による			
	②	無筋コンクリートの欠損等	「無筋コンクリート構造物の評価基準」による			
ゲート 設備	①	扉体、戸当りの損傷等	「ゲートの評価基準」による			
	②	開閉装置の異常等				
電気設備	①	動力盤、機側操作盤等	「電気設備の評価基準」による			
事故歴等	①	施設築造からの経過年数	—	—	80年以上	—
	②	漏水、事故歴	なし	—	—	あり
	③	事故による影響（農業、農業以外）	なし	—	—	あり

注1) 局所的とは、全体の10%未満で施設の当該変状が生じている状態。部分的とは全体の10%～50%未満を示し、全体的とは全体の50%以上を示す。

注2) 塗装、塗替えを必要とする鋼材設備の評価は、「塗装塗膜劣化の評価基準」による。

5. ゲートの評価基準

(1) 油圧式ゲートの評価基準

区分	評価基準	k4 0点	k3 2点	k2 4点	k1 6点
扉 体	① 扉体全体（外観）	異常なし	錆、塗装の剥がれあり	損傷がある	異常な変形がある
	② 扉体全体（操作中の振動及び異常音）	異常音なし	—	—	異常音あり
	③ 水密ゴム	異常なし	押え金具に異常あり	ゴムが劣化	水漏れがある
	④ 戸当り（外観）	異常なし	錆がある	溶接のわれ、損傷がある	—
油 圧 シ リ ン ダ ー	① 油圧シリンダー（外観）	異常なし	錆がある	損傷がある	油漏れ、作動に支障がある
	② ラム	損傷はない	—	損傷がある	—
	③ 配管（形状、油漏れ）	異常なし	錆がある	—	全体に腐食がある 油漏れがある
油 圧 ユ ニ ツ ト	① ユニット配管	異常なし	錆がある	—	全体に腐食がある 油漏れがある
	② 圧力計 開度計	計器指示が正常	計器指示不良	—	—
	③ 制御バルブ	操作に支障はない	—	—	開閉操作が支障がある
	④ 油圧ポンプ 手動ポンプ	異常なし	錆、塗装の剥がれあり	損傷がある	油漏れ、作動に支障がある
	⑤ エンジン モーター	異常音なし	—	—	異常音あり
起 伏 堰	自 動 倒 伏 装 置	異常なし	—	損傷がある	正常に作動しない
安 全 施 設	転落防護柵等	腐食、破損なし	錆がある	—	腐食、破損がある
電 気 設 備	動力盤、機側操作盤等	「電気設備の評価基準」による			

注) コンクリート構造物の評価は、「鉄筋コンクリート構造物及び無筋コンクリート構造物の評価基準」による。

(2) 鋼製ゲートの評価基準

区分	評価基準	k4 0点	k3 2点	k2 4点	k1 6点
扉体	① 扉体全体（外観）	異常なし	錆、塗装の剥がれあり	損傷がある	異常な変形がある
	② 扉体全体（片吊り）	正常である	—	片吊りがある	—
	③ 水密ゴム	異常なし	押え金具に異常あり	ゴムが劣化	水漏れがある
	④ 摺動板、ガイド金物、水密板	摩耗、損傷はない	—	損傷がある	—
	⑤ 戸当り（外観）	異常なし	錆がある	溶接のわれ、損傷がある	—
開閉装置	① 捲上機（外観）	異常なし	錆、塗装の剥がれあり	損傷がある	—
	② 捲上機（作動状況）	異常なし	グリースの硬化 油漏れがある	円滑に作動しない	—
	③ ワイヤロープ、スピンドル、ラック棒	異常なし	錆がある	損傷がある	—
安全施設	転落防護柵等	腐食、破損なし	錆がある	—	腐食、破損がある
電気設備	動力盤、機側操作盤等	「電気設備の評価基準」による			

注) コンクリート構造物の評価は、「鉄筋コンクリート構造物及び無筋コンクリート構造物の評価基準」による。

(3) ゴム引布製起伏堰の評価基準

区分	評価基準		k4 0点	k3 2点	k2 4点	k1 6点
袋体	①	外観	摩耗、傷、割れ、剥がれなし	一部摩耗、剥がれがある	傷、割れがある	内部基布の露出がある
	②	ふくれ	空気漏れはない	—	—	空気漏れがある
	③	起立時間	所定時間内に起立完了する	—	所定時間内に起立完了ができない	—
	④	取付金具	異常なし	—	変形、損傷、脱落がある	—
配管施設	①	ゴム継ぎ手	異常なし	—	劣化及び損傷がある	—
	②	支持金具等	異常なし	ボルト、ナット等の緩みあり	—	—
	③	配管（気密性）	異常なし	—	空気漏れがある	—
給気装置	①	コンプレッサー	異常なし	—	損傷がある	正常に作動しない
	②	動力機器	異常なし	—	損傷がある	正常に作動しない
	③	排気管	異常なし	—	損傷がある	損傷及び排気漏れがある
	④	支持部、固定部	異常なし	多少ぐらつきがある	損傷がある	—
	⑤	安全カバー	変形、損傷はない	—	損傷がある	—
自動倒伏装置			異常なし	—	損傷がある	正常に作動しない
安全施設	転落防護柵等		腐食、破損なし	錆がある	—	腐食、破損がある
電気設備	動力盤、機側操作盤等		「電気設備の評価基準」による			

注) コンクリート構造物の評価は、「鉄筋コンクリート構造物及び無筋コンクリート構造物の評価基準」による。

6. 各施設共通

(1) 鉄筋コンクリート構造物の評価基準

評価基準		k4 0点	k3 2点	k2 4点	k1 6点
①	最大ひび割れ幅	0.2mm未満	0.2～1.0mm	1.0mm以上	k2に該当するものが全体的
②	ひび割れ規模	—	—	0.2mm以上のひび割れ密度が50cm/m ² 以上	k2に該当するものが全体的
③	ひび割れからの付随物、漏水	なし	—	錆汁、滲出し、漏水跡、滴水	流水、噴水
④	コンクリートの浮き、剥離・剥落	なし	局所的	部分的	全体的
⑤	摩耗・すりへり	細骨材露出	粗骨材露出	粗骨材剥落	—
⑥	圧縮強度	21N/mm ² 以上	21～15N/mm ²	15N/mm ² 未満	—
⑦	目地の開き、段差	なし	局所的	部分的	全体的
⑧	鉄筋の露出	なし	局所的	部分的	全体的
⑨	構造物の変形、歪み、沈下、蛇行	なし	局所的	部分的	全体的
⑩	コンクリートの欠損	なし	局所的	部分的	全体的
⑪	凍害の有無	なし	局所的	部分的	全体的
⑫	背面土の空洞化、周辺地盤の陥没・ひび割れ	なし	局所的	部分的	全体的

注) 局所的とは、全体の10%未満で施設の当該変状が生じている状態。部分的とは全体の10%～50%未満を示し、全体的とは全体の50%以上を示す。

(2) 無筋コンクリート構造物の評価基準

評価基準		k4 0点	k3 2点	k2 4点	k1 6点
①	最大ひび割れ幅	0.2mm未満	0.2～5.0mm	5.0mm以上	k2に該当するものが全体的
②	ひび割れ規模	—	—	0.2mm以上のひび割れ密度が50cm/m ² 以上	k2に該当するものが全体的
③	ひび割れからの付随物、漏水	なし	—	ひび割れからの錆汁、漏水の滲だし有り	ひび割れからの錆汁、流水、噴水有り
④	コンクリートの浮き、剥離・剥落	なし	局所的	部分的	全体的
⑤	摩耗・すりへり	細骨材露出	粗骨材露出	粗骨材剥落	—
⑥	圧縮強度	18N/mm ² 以上	18～12N/mm ²	12N/mm ² 未満	—
⑦	目地の開き、段差	なし	局所的	部分的	全体的
⑧	構造物の変形、歪み、沈下、蛇行	なし	局所的	部分的	全体的
⑨	コンクリートの欠損	なし	局所的	部分的	全体的
⑩	凍害の有無	なし	局所的	部分的	全体的
⑪	背面土の空洞化、周辺地盤の陥没・ひび割れ	なし	局所的	部分的	全体的
⑫	基礎の滑り、壁面のせり出し、傾斜変形	なし	局所的	部分的	全体的

注) 局所的とは、全体の10%未満で施設の当該変状が生じている状態。部分的とは全体の10%～50%未満を示し、全体的とは全体の50%以上を示す。

(3) 電気設備の評価基準

区分	評価基準	k4 0点	k3 2点	k2 4点	k1 6点
引込設備	① 開閉器の変形・損傷、更新からの経過年数	—	—	変形・損傷あり	塩害地域10年経過 その他 15年経過
	② 架空線のたるみ、断線	—	—	たるみが大きい	断線の恐れあり
	③ 引込ケーブルの損傷	なし	—	ケーブルの劣化	断線の恐れあり
引込受電盤	① 盤内部の異音、異臭	なし	—	異音、異臭あり	—
	② 絶縁抵抗	低圧500V $\times$ で 1M Ω 以上 3kV級1000V $\times$ で 3M Ω 以上 6kV級1000V $\times$ で 6M Ω 以上	—	—	低圧500V $\times$ で 1M Ω 未満 3kV級1000V $\times$ で 3M Ω 未満 6kV級1000V $\times$ で 6M Ω 未満
	③ 盤面指示計、表示ランプの破損、指示	異常なし	異常あり	—	—
変圧器盤	① 盤内部の異音、異臭	なし	—	異音、異臭あり	—
	② 絶縁抵抗	低圧500V $\times$ で 1M Ω 以上 3kV級1000V $\times$ で 3M Ω 以上 6kV級1000V $\times$ で 6M Ω 以上	—	—	低圧500V $\times$ で 1M Ω 未満 3kV級1000V $\times$ で 3M Ω 未満 6kV級1000V $\times$ で 6M Ω 未満
	③ 盤面指示計、表示ランプの破損、指示	異常なし	異常あり	—	—
	④ 油漏れ	なし	—	—	あり
高圧盤 低圧・ 動力盤	① 盤内部の異音、異臭	なし	—	異音、異臭あり	—
	② 絶縁抵抗	低圧500V $\times$ で 1M Ω 以上 3kV級1000V $\times$ で 3M Ω 以上 6kV級1000V $\times$ で 6M Ω 以上	—	—	低圧500V $\times$ で 1M Ω 未満 3kV級1000V $\times$ で 3M Ω 未満 6kV級1000V $\times$ で 6M Ω 未満
	③ 盤面指示計、表示ランプの破損、指示	異常なし	異常あり	—	—
機側 操作盤	① 盤内部の異音、異臭	なし	—	異音、異臭あり	—
	② 絶縁抵抗	1M Ω 以上	—	—	1M Ω 未満
	③ 盤面指示計、表示ランプの破損、指示	異常なし	異常あり	—	—
	④ 配線・接地線の損傷、接続部の緩み	なし	緩みがある	配線が損傷	—
	⑤ 盤内灯の損傷	なし	点灯不能	—	—
事故歴等	① 施設築造からの経過年数	—	—	20年以上	—
	② 事故歴	なし	—	—	あり
	③ 電気主任技術者の改善指示	なし	—	—	あり

注1) 塗装、塗替えを必要とする施設外観の評価は、「塗装塗膜劣化の評価基準」による。

(4) 塗装塗膜劣化の評価基準

評価	発 生 状 況	
	劣化の程度	評価基準
k4 0点	錆は些少	旧塗膜の劣化程度は全面積に対し錆が5%以下、及びふくれ、われ、はがれが0～30%程度発生したもの（点錆がほんの少し点在している状態）
k3 2点	錆がある	旧塗膜の劣化程度は全面積に対し錆が概ね5～15%、及びふくれ、われ、はがれが5～30%程度発生したもの（点錆が少し点在している状態）
k2 4点	錆がかなりある	旧塗膜の劣化程度は全面積に対し錆が概ね15～30%、及びふくれ、われ、はがれが30%以上発生したもの（点錆がかなり点在している状態）
k1 6点	錆が著しい	旧塗膜の劣化程度は全面積に対し錆が30%以上及び、ふくれ、われ、はがれが30%以上発生

(5) 水管理制御設備の評価基準

区 分	評 価 基 準		k4 0点	k3 2点	k2 4点	k1 6点
全般	①	各装置（外観）	異常なし	錆、塗装の剥がれあり	損傷がある	—
監視制御系	①	操作卓	異常なし	—	—	作動に異常がある
	②	監視盤	異常なし	指示が異常である	—	—
	③	警報表示盤	異常なし	—	—	作動に異常がある
	④	ITV・CCTV	異常なし	表示画像に異常がある	—	作動に異常がある
情報伝送系	①	TM、TM・TC装置（親局、子・孫局）	異常なし	—	—	作動に異常がある
	②	入出力中継装置	異常なし	—	—	作動に異常がある
	③	無線装置	異常なし	—	—	作動に異常がある
	④	避雷器	異常なし	—	損傷がある	—
情報処理系	①	データ処理装置	異常なし	—	—	作動に異常がある
	②	補助記憶装置	異常なし	—	—	作動に異常がある
	③	入出力制御装置	異常なし	—	—	作動に異常がある
	④	コンソール入出力装置	異常なし	—	—	作動に異常がある
現場系	①	水位計、流量計、開度計	異常なし	—	—	動作、表示が異常である
	②	雨（雪）量計	異常なし	—	—	作動に異常がある
	③	設定値制御装置等	異常なし	—	—	作動に異常がある
伝送回線系	①	架空・埋設線	異常なし	—	—	損傷がある
電源系	①	太陽電池	異常なし	—	発生電力に異常がある	—
	②	UPS、ミニUPS	異常なし	—	—	作動に異常がある
	③	耐雷トランス	異常なし	—	損傷がある	—
	④	直流電源装置	異常なし	—	—	作動に異常がある
	⑤	分電盤	異常なし	—	損傷がある	—
事故等	①	施設築造からの経過年数	—	—	20年以上	—
	②	予備品の有無	あり	—	なし	—
	③	事故歴	なし	—	—	あり

(6) ディーゼル機関の評価基準

区分	評価基準		k4 0点	k3 2点	k2 4点	k1 6点
エンジン本体	①	振動、音	異常なし	—	—	運転中、異常な振動、音がある
	②	計器類	異常なし	—	—	動作、表示が異常である
	③	各部のボルト・ナット	異常なし	緩み、脱落がある	—	—
	④	ターニングの重さ	異常なし	—	手動で円滑に廻らない	—
	⑤	本体	異常なし	—	—	油漏れ、異常な振動がある
	⑥	潤滑油・燃料油配管	異常なし	錆がある	全体に腐食がある	油漏れ、異常な振動がある
	⑦	冷却水配管	異常なし	錆がある	全体に腐食がある	水漏れ、異常な振動がある
潤滑油系統	①	給油圧力・温度(計器)	異常なし	—	通常値に比べ大幅な変化がある	—
	②	潤滑油ポンプ	異常なし	錆がある	運転中に異常音がある	—
	③	ウイングポンプ	正常に送油(0.05Mpa以上)	錆がある	—	正常に送油できない
	④	クランク室オイルパン	油量が許容範囲内	—	油量が許容範囲を超える	—
	⑤	ろ過器	異常なし	汚れがある	目詰まり、水分の混入がある	—
燃料油系統	①	噴射ポンプ	異常なし	錆がある	駆動軸継手の弛みがある	—
	②	燃料加速軸	軸受リンク装置が軽く作動する	—	—	軸受リンク装置が作動しない
	③	ろ過器	異常なし	汚れがある	目詰まり、水分の混入がある	—
冷却・空気系統	①	冷却水ポンプ圧力・温度	異常なし	—	通常値に比べ大幅な変化がある	—
	②	ラジエーター	異常なし	—	ファンベルト等に異常がある	ファンベルト等に異常があり、水漏もある
	③	冷却水槽水位	規定水位以上である	—	規定水位にならない	—
	④	空気槽・配管	異常なし	錆がある	水分、錆、ゴミ等がある	—
	⑤	始動空気槽圧力(計器)	30kg/cm ² 程度の規定値である	指示が異常である	—	—
電気系統	①	セルモーター(エアセル含む)	異常なし	汚損がある	—	接触不良、摩耗がある
	②	セルモーター(作動状況)	回転音が良好である	—	ピニオン作動に異常がある	—
	③	端子接続部の配線	異常なし	緩み、脱落がある	—	—
給排気系統	①	過給器潤滑油量・振動・音	異常なし	—	—	油漏れ、異常な振動、音がある
	②	弁腕	異常なし	—	著しい摩耗・損傷がある	—
	③	吸気冷却器・消音器	異常なし	—	ドレンに水分、スケール等が混入している	—
	④	排気温度(計器)	標準値である	指示が異常である	—	—

(7) 除塵機の評価基準

区分	評価基準		k4 0点	k3 2点	k2 4点	k1 6点
基礎	①	変形、摩耗	異常なし	摩耗がある	—	異常な変形がある
	②	表面の欠損、剥落	異常なし	表面の欠損がある	—	—
	③	ひび割れ	異常なし	ひび割れ些少	支障となるひび割れがある	—
全般	①	塗装、変形	異常なし	錆がある	—	異常な変形がある
	②	溶接割れ	異常なし	溶接割れがある	—	—
	③	清掃状況	異常なし	ひどい汚れがある	主要部分に損傷がある	—
駆動部	①	給油	正常な給油状態である	—	油漏れがある	—
	②	弛み	異常なし	—	大幅なチェーンの弛みがある	チェーンががたつき、切断の恐れがある
レーキ	①	変形	異常なし	—	—	異常な変形がある
	②	異常音	異常なし	—	振動がある	振動、異音、発熱がある
ネット	①	ネット	異常なし	—	—	異常な変形がある
	②	ネット押さえ	異常なし	—	—	異常な変形がある
	③	カバープレート	異常なし	—	—	異常な変形がある
	④	洗浄ポンプ	正常に作動する	—	—	正常に作動しない
スクリーン	①	錆、変形	異常なし	—	—	異常な変形がある
電動機	①	外観、異常音	異常なし	錆がある	—	異常あり
電気設備	①	外観、内部	異常なし	錆がある	—	錆、腐食が著しい
	②	配線状態	異常なし	緩みがある	変色、損傷、緩みがある	—
	③	盤面指示計、表示ランプの破損、指示	異常なし	異常あり	—	—
管理施設	①	ベルトコンベアー	異常なし	錆がある	—	異常な変形がある
	②	水位計等観測施設	正常に作動する	—	—	動作、表示が異常である
	③	防護柵等安全施設	異常なし	錆がある	発錆、変形、損傷がある	—